

# 厚生労働省委託事業

令和5年度 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

## 事業報告書

一般社団法人 日本サイコオンコロジー学会

令和6(2024)年3月

# 事業報告書 目次

I. わが国のがん医療においてピア・サポートを広く推進するための提言	2
II. 事業総括（小川 朝生）	4
III. ピア養成研修ワーキンググループ 報告（秋月 伸哉）	10
IV. 短期サポートグループワーキンググループ 報告（平井 啓）	14
V. 都道府県への支援	23
VI. がん患者に対するピア・サポート体制に関する都道府県調査	40
VII. 資料集	49
1. ピア・サポーター養成研修会 開催指針	50
2. ピア・サポーター養成テキスト 2023 年度版	54
3. 各都道府県のがん対策推進計画 策定状況	76
4. がんサポートグループ企画運営者のための研修会（2023 年 11 月 3 日）フライヤー	104
5. がんサポートグループ企画運営者のための研修会（2024 年 2 月 10 日）フライヤー	106
6. がんサポートグループ企画運営者のためのフォローアップ研修会（2023 年 11 月 23 日） フライヤー	108
VIII. 委員会名簿	109

## I. わが国のがん医療においてピア・サポートを広く推進するための提言<sup>※1</sup>

ピア・サポートに関する現状調査並びにモデル研修の実施、各都道府県との意見交換で得た知見をもとに、がん医療におけるピア・サポートを推進し、全てのがん患者が、いつでもどこに居ても、安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現するために、第4期がん対策推進基本計画、がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針をふまえて以下を提言する。

各都道府県は、がん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院等）においてピア・サポートの活動を推進するために、改訂した研修プログラムに沿った研修を実施しピア・サポーターを養成すると共に、継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制を併せて整備することが重要である。体制の実現に際しては、都道府県が中心となり、計画を立て遂行することが求められる。

また拠点病院等は、ピア・サポート活動の意義を理解し、都道府県や他の拠点病院等と協力して計画を立て、ピア・サポーター活動の支援を行うことが求められる。

各都道府県では、2024年度から次期都道府県がん対策推進計画が施行されるが、この提言を参考に、計画の進捗を把握し必要に応じて計画の見直しを行うことが望ましい。

### 【都道府県(自治体)に求められる活動】

- ピア・サポーターの養成・活用計画を策定し実施するための協議体を設置する（新たな組織の設置または、都道府県がん診療連携協議会の相談支援部会や緩和ケア部会など既存の枠組みに役割を位置付けることでもよいと考える）。
- 都道府県がん対策推進計画において、ピア・サポーターの養成・活用計画を立案する。
- 活動を進めるための予算を確保する。
- 系統立てた活動を行うために、ピア・サポーターの養成・管理を担う組織を設定する。体制整備を進めるうえで、健康対策推進事業にある地域統括相談支援センターを活用することも一つの解決策になり得る。
- ピア・サポートの養成や管理業務を継続する上で、業務を担う組織を明確にすることは重要である。組織を新たに設置する場合、健康対策推進事業の地域統括相談支援センターや、各都道府県が独自の基金等を利用した地域統括相談支援センターと類似の役割を持つ組織を設置し、ピア・サポート活動に関する拠点とすることも一つの運用方法である。
- 都道府県内の拠点病院等と連携し、各がん診療連携拠点病院等や地域で開催されているピア・サポートや患者サロンに関する情報を収集し、ポータルサイト等を通じて発信するなど、がん患者・家族が希望する支援にたどり着けるよう取り組む。
- 患者サロンの活動について、拠点病院等の間で情報共有の機会を設ける。

**【都道府県(自治体)と協議体で具体的に検討し実施すること】**

- ピア・サポーターの養成・活用を計画し運営する協議体をつくり、以下の具体的な計画を立てる。
  - (1) ピア・サポーターの活動の場の設置
  - (2) ピア・サポーター養成研修を企画・開催
  - (3) 拠点病院等での活用計画の策定
  - (4) 登録制度、派遣を含めた活用制度、定期的な更新制度の構築
  - (5) 継続的な研修(フォローアップ研修等)の企画・開催

**【都道府県がん診療連携拠点病院が実施すること】**

- 都道府県と都道府県がん診療連携拠点病院が中心的な役割を担い、他の地域がん診療拠点病院等はこれらの計画に、検討段階から主体的に参画する。
- 一定の研修を受けたピア・サポーターを活用する、もしくは十分な経験を持つ患者団体等と連携した患者サロン活動を各拠点病院等が展開できるように、各拠点病院等を支援する計画を立案し、実施する。
- 都道府県内の患者サロンの開催状況について、情報を収集し、各拠点病院等間で共有する。

**【各がん診療連携拠点病院等が実施すること】**

- 施設管理者は、施設内においてピア・サポートや患者サロンを推進する部署・担当者を明確に定める。相談支援センターの相談員に加え、病院内で患者支援や心理社会的支援を担っている緩和ケアチーム等との協力体制を整える。
- 施設管理者は、担当者を「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」へ派遣し、質の担保を図る。
- 施設管理者は、患者サロンを企画・運営する組織を院内に作る。
- 実務担当者は、患者サロン活動やピア・サポート活動の計画を立てる。
- 実務担当者は、一定の研修を受けたピア・サポーターや、十分な経験を持つ患者団体等と連携し患者サロンの企画・運営を行う。
- 実務担当者は、ピア・サポーターのスキルアップ、燃え尽き防止などを目的とした、活動ごとの振り返り・スーパーバイズの実施などの支援を行う。
- 実務担当者は、院内での急ぎの対応が必要な場合に備え精神科や緩和ケアチーム等との連携をあらかじめ定める。

※1 令和4年度事業報告書に掲載した提言を一部改変

※2 ピア・サポート：患者・経験者やその家族がピア（仲間）として体験を共有し、共に考えることで、患者や家族等を支援すること。

※3 患者サロン：医療機関や地域の集会場などで開かれる、患者や家族などが、がんのことを気軽に語り合う交流の場のこと。

## II. 事業総括

改訂委員会委員長 小川 朝生  
国立がん研究センター 東病院 精神腫瘍科

### A. 目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基本的な心理社会的な支援の一形式である。

わが国のがん対策においては、2011-2013 年度に、公益財団法人日本対がん協会が厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」を受託し、ピア・サポートに必要な基本的なスキルを身につけるための研修プログラムを策定し、説明会の開催やホームページ等によりその周知を進めた。

しかし、2016 年に総務省ががん対策を評価したところ、2015 年度のピア・サポート研修の実施状況ならびに活動状況に関して、17 都道府県、51 がん診療連携拠点病院を対象に調査をした結果、都道府県等においてピア・サポート研修が実施されていない状況や、拠点病院における相談支援や患者サロンへのピア・サポーターの受け入れが十分に進んでいない状況が確認された（平成 28 年 9 月総務省「がん対策に関する行政評価・監視結果報告書」）。

この報告を受けて、がん対策推進基本計画（第 3 期）では、ピア・サポートについて、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析し、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることが盛り込まれた。

続いて、第 4 期がん対策推進基本計画においては、ピア・サポーターのより一層の活用や、がん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院等）とピア・サポーターとの連携体制の構築が掲げられた。

本事業では実施要綱に従い、

(1) 医療・福祉関係者などの有識者やがん患者団体等の当事者による「研修プログラム改訂委員会」を設置し、前年度改訂したプログラムを使用した研修を実施する。また、地域ごとにニーズ把握・現状評価及び地域での取り組みの持続の可能性等の検証を行うとともに、必要に応じてプログラム等の改善を行う

(2) 委員会において検討された内容に基づく教材等を活用し、地域統括相談支援センターや患者サロンの開催等に協力するピア・サポーター等に対して研修等を実施する。また、都道府県がピア・サポーターの育成を目的とした研修を実施する際、都道府県に対する相談支援を実施する

(3) 情報提供、研修の周知や参加申し込み、必要資料の提供等を行うホームページを運用することを検討した。

### B. 経過

改訂委員会を設置し、課題整理を行い、以下の 4 点を検討・実施した。

- ピア・サポーター養成研修会の開催
- 各都道府県におけるニーズの把握ならびにピア・サポートに関する取組みの実態把握
- がん診療連携拠点病院等に向けた患者サロンのなかでサポートグループを開催するための研修プログラムの実施
- 情報提供等を行うホームページの運用

#### 1. ピア・サポーター養成研修会の開催

本事業で改訂したピア・サポーター養成研修プログラムに基づく研修会を各都道府県で広げていくことを目標としている。しかし、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行のため、対面形式での養成研修会の開催が困難な状況が続いた。そのため、昨年度にオンライン形式を取り入れた短縮版を開発し、動画等の資料を活用した養成研修会やフォローアップ研修会等を実施した。

#### (1) 都道府県で開催するピア・サポーター養成研修会開催指針の作成

自治体が初めてピア・サポーター養成に取り組む際の目安を示すことを目的に、養成研修会の開催指針を作成した。

#### (2) ピア・サポーター養成テキストの改訂

第 4 期がん対策推進基本計画が策定されたことを受けて、既存のピア・サポーター養成テキストの「ピア・サポート活動を広く推進するために行政と医療者ができること」、「具体的な事例」の章に新基本計画の内容を反映させた。

#### (3) 各地の実情に応じたピア・サポーター養成、ならびにフォローアップ研修の実践

全国の都道府県にピア・サポート養成に関わるニーズを調査し、要望のあった都道府県に対し、当 WG からプログラムの提案、開催支援を行った。

#### 1) 埼玉県 ピア・サポーター養成研修会

①2023 年 8 月 15 日（火）、同月 26 日（土） 埼玉県内のピア・サポーターへの研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施。ピア養成研修ワーキンググループ（以下 WG）にて、講義・ロールプ

レイの進行を担当した。ピア・サポーター13名、拠点病院等の医療従事者3名が参加した。

②2023年11月21日(火)、同月25日(土)同じく、WGにて講義・ロールプレイの進行を担当した。ピア・サポーター19名、拠点病院等の医療従事者5名が参加した。

#### 2) 香川県 ピア・サポーター養成研修会

2023年10月29日(日) 香川県内のピア・サポーターへの研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施。WGは講義・ロールプレイの進行を担当した。ピア・サポーター12名、医療従事者5名が参加した。

#### 3) 長崎県 ピア・サポーター養成研修・フォローアップ研修会

2023年12月9日(土) 長崎県内のピア・サポーターへの養成研修、フォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。ピア・サポーター13名、医療従事者9名が参加した。

#### 4) 神奈川県 ピア・サポーター養成研修会

2024年3月9日(土)、10日(日)、神奈川県内のピア・サポーターへの養成研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。

#### 5) 兵庫県 フォローアップ研修会

2023年12月16日(土) 兵庫県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイをWEB形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイを担当した。

#### 6) 福岡県 フォローアップ研修会

2024年1月25日(木) 福岡県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義を担当した。

#### 7) 群馬県 フォローアップ研修会

2024年3月8日(金) 群馬県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイを担当した。

#### 8) 栃木県 フォローアップ研修会

2024年3月16日(土) 栃木県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。

#### 9) 茨城県 フォローアップ研修会

2024年3月22日(金) 茨城県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレ

イを対面形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。

#### 10) 埼玉県 フォローアップ研修会

2024年3月23日(土) 埼玉県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義やグループワークを担当した。

#### 11) 徳島県 フォローアップ研修会

2024年3月24日(日) 徳島県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。

#### 12) 香川県 フォローアップ研修会

2024年3月27日(水) 香川県内のピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイを対面形式で実施した。WG員が講義・ロールプレイやグループワークを担当した。

## 2. ニーズ把握及び各都道府県におけるピア・サポートに関する取組みの実態把握

### (1) ニーズ把握・現状評価及び地域での取組みの持続性の可能性等の検討

各地域で研修を実施しやすい仕組みの構築を目指し、ピア・サポーター等の研修について都道府県の取組みに対する意見交換や講師の紹介、研修プログラム並びに研修テキスト等の提供を行った。2023年5月に厚生労働省より各都道府県担当部署に対して案内を送付した後に、希望した都道府県と個別に支援内容を調整した。

今年度は8県に対して都道府県担当者と改訂委員会委員等が、各県の取組みの現状ならびに課題に関する意見交換を対面またはオンラインにて行った(【表1】p.8参照)。同じく3県に対して、ピア・サポートに関連する相談対応・情報提供を事務局が行った。

また、行政と拠点病院等の医療従事者を対象としたピア・サポートに関する研修会を1県で開催するのを支援した。(【表2】p.8参照)。

研修テキスト並びにDVDを、16都道府県、地域統括支援センター8箇所に対して送付した。

### (3) ピア・サポートに関するニーズ把握・各都道府県がん対策基本計画での検討状況の把握

各都道府県におけるピア・サポート研修や行政と医療機関の協力体制に関する現状を把握し、今後のピア・サポートの支援の拡充に活かすことを目的に、厚生労働省健康局がん・疾病対策課(現:健康・生活衛生局)の協力を得て、各都道府県の担当部署に、現状調査を実施し、46都道府県より回答を得た。今回は、第4期がん対策推進基本計画策定直後であることから、各都道府県でのがん対策推進計画でピア・サ

## II. 事業総括

ポートに関する目標設定やロジックモデルの検討状況、都道府県がん診療連携協議会等でのピア・サポートに関する検討状況の把握を目指した。

その結果、都道府県がん対策推進計画でピア・サポートに関して目標を設置しているのは 31 都道府県 (66.0%) で、ロジックモデルをもとにした数値目標を検討している都道府県は 13 都道府県 (27.7%) であった。

都道府県がん診療連携協議会等で定期的にピア・サポートに関する検討が行われているのは 24 都道府県 (51.1%) であった。また、ピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した 34 都道府県のうち、養成研修の内容を拠点病院等と定期的に検討する機会を設定しているのは 15 都道府県 (44.1%) であった。

拠点病院等内の患者サロン同士の連携や情報共有が定期的に行われているのは 25 都道府県 (53.2%) であった。

ピア・サポーター養成研修会が定期的で開催されているのは 27 都道府県 (57.4%) であった。

ピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した 34 都道府県のうち、養成したピア・サポーターを対象に登録制度を取っているのは 24 都道府県 (70.6%)、ピア・サポーター活動の調整を行っているのは 19 都道府県 (55.9%) であった。登録されたピア・サポーターのマネジメントを担う部署等が決まっているのは 20 都道府県 (58.9%) であった。

フォローアップ研修を定期的で開催しているのは 22 都道府県 (64.7%)、活動する都度振り返りを行っている体制を整備しているのは 19 都道府県 (55.9%) であった。

ピア・サポートの養成・活用には、行政と医療機関との密な連携のもとに、目標の設定と事業の遂行が求められる。しかし、都道府県がん診療連携協議会のもとに、ピア・サポートの養成や継続研修、活用について定期的に検討する場をもつ都道府県は、第 4 期がん対策推進基本計画の策定後でも全ての都道府県には行き渡っていなかった。今後、その必要性を明確にし、その地域のニーズに合った実施体制を組むことが重要である。あわせて、ピア・サポートの活動を推進するために、研修プログラムに沿った研修を実施すると共に、その後の継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制についても構築する必要がある。

### 3. 拠点病院等に向けた患者サロンのなかでサポートグループを開催するための研修プログラムの実施

本事業では、医療機関ごとに、それぞれのリソースを踏まえ、今後ピア・サポーターが安心して活動に携わることができることを目的に、がんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」プログラムを開発してきた。

がん患者に対する心理社会的支援の機会を整備す

るためには、この研修会の継続した開催が求められる。そこで本年度は、2 回の研修会を開催し、より多数の研修修了者を増やすことを目標に活動した。

本年度は、2023 年 11 月 3 日 (仙台とオンライン) と 2024 年 2 月 10 日 (福岡とオンライン) の 2 回開催し、それぞれ 90 名のがん相談に携わる医療従事者を定員とした。事前登録者は、11 月 60 名、2 月 45 名であった。講義としては、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。ここでは、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものでなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。それから、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。その後、作成したファシリテーションの 6 場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。本講義内容は、「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏襲した。

2020 年度より合計 7 回開催し、482 名が修了した。開催を重ねるにつれ、レベル I の参加者が増えており、研修の裾野が広がってきたと考えられる。

今後もサポートグループ等の活動を体験したことのない参加者の割合が多くなることから、ピア・サポートの実際の場面を示すことを意図した動画を作成し、プログラムに組み込むこととした。本動画は、「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏まえ、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割や情緒的サポートの基本的な姿勢を示すこととした。その後、作成したファシリテーションの 6 場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。

全国の拠点病院等において、質の高い心理社会的支援が提供されるためには、さらに本研修会を開催し、受講していない病院などの医療従事者を対象としていく必要がある。

さらに、継続受講を希望する参加者も多かったことから、実際にサポートグループを運営して生じる課題などについて話し合ったり情報交換したりできる場の設定も今後の課題である。

### 4. 「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」修了生を対象としたフォローアップ研修会の実施

2020 年度から 2022 年度に開催した「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」の修了者を

対象に、フォローアップ研修会を実施した。2023年11月23日にハイブリッド開催し、29名が修了した。プログラムは4時間で、ピア・サポート好事例紹介、事例検討、情報交換の3つのパートから構成した。事例検討では、サポートグループにおいて生じうる難しい場面において、ファシリテーターとしてどのような対応するのかについてグループで話し合った。

#### 5. 情報提供等を行うホームページの運用

情報提供や研修の周知を行うホームページを運用し、研修テキスト等の公開や、各種研修会、委員会や各ワーキンググループ活動の紹介を行った。

- ・ 「ピア・サポーター養成テキスト 2020年度版」「がんサポートプログラム企画の手引き 2020年度版」「ピア・サポーター養成研修会開催マニュアル」等の研修資料の公開
- ・ 平成30年度、令和元年度、令和2、3、4年度の事業報告書(PDF)の公開
- ・ 2023年11月3日、2024年2月10日実施「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」、2023年11月23日実施「がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会」の研修案内、申込ページの設置
- ・ 各会議、意見交換会、研修会等の活動紹介
- ・ 各種問い合わせへの対応

### C. 考察

第4期がん対策推進基本計画に基づき、各都道府県に対するピア・サポート養成と担当者との意見交換、拠点病院等に対してはサポートグループを開催するための研修会を開催した。また実施要綱に沿って、ピア・サポートに関する各都道府県の実態やがん対策基本計画の検討状況の把握を行った。上記活動を通して、わが国のがん医療において、ピア・サポートを推進する上で以下の取組みが求められる。

#### 1. 都道府県がん診療連携協議会の積極的な関与の必要性

ピア・サポートは患者サロン等拠点病院内で活動することが想定されており、その養成と活用にあたり行政と医療従事者とが協働して進める必要がある。しかし、

- ① 都道府県のがん対策基本計画の中でピア・サポートに関する目標が設定されている都道府県は第4期がん対策推進基本計画策定後に増加したもののまだ7割程度であること
- ② 都道府県の中で行政と医療従事者がピア・サポートに関して検討する場を持っている都道府県も増加しつつあるもまだ半数程度であること

が明らかとなった。

第4期がん対策推進基本計画においては、都道府県が設置するがん対策推進協議会の体制を強化し、拠点病院等の役割分担や連携体制の構築等を新たな要件として盛り込んでいる。ピア・サポートを養成し活用するためには、行政と拠点病院等

が協働して進める必要があることから、がん対策推進協議会が積極的に関与し、拠点病院等への役割の提示やピア・サポートに関する検討会の設置など推進することが重要である。

#### 2. ピア・サポートを護ることの重要性

拠点病院等の整備指針には、「体験を語り合う場」の設置が義務づけられている。「体験を語り合う場」については、その検討の経緯まで踏まえないとセルフヘルプグループやサポートグループを想定していると解釈することが難しいため、本来の主旨が十分に周知されていない現状がある。がん診療連携拠点病院における心理社会的支援の整備の方向性を周知が求められる。

加えて、今後ピア・サポーターの活動の場が広がるにつれて、ピア・サポーターが相手を傷つけず、また自らの傷つきを防ぐためにも、精神心理的支援に関する基本的な知識を予め身につけておくことが重要になる。特に医療機関と連携してピア・サポート活動をする場合には、医療に関する問題には踏み込まないことや個人情報扱い等についても確認する必要がある。事前の教育・研修は必須である。あわせて、医療従事者もその課題を認識し、活動計画の時点から想定した準備が求められる。その点で、石川県のように、拠点病院等が養成研修に推薦する条件として、自施設で体験者の心身をフォローすることを明記した取り組みは先駆的であり、示唆に富む。

#### 3. 新型コロナウイルス感染症流行下でのピア・サポート活動の推進

新型コロナウイルス感染症流行が長期化する中で、がん患者・家族への心理社会的な負担は大きく増大している。現在、新型コロナウイルス感染症は、感染症法上5類に移行したものの、拠点病院等では、感染予防の観点から、院内でのピア・サポート活動に制限が続けられ、多くの拠点病院等では再開の様子見している状況である。たしかに感染予防についての配慮は必要である一方、心理社会的支援が滞っている状態が長期化することによる患者・家族の不利益にも対応する必要がある。

その中で、一部の拠点病院等や都道府県において、オンラインでのピア・サポート活動が増加してきている。オンラインでの活動では、画面を通じた間接的な交流であることから情緒的交流に限界はあるものの、物理的な距離にとらわれない長所がある。技術的な負担（特に高齢者ではセッティングの問題）、病院で実施するには個人情報の管理方法を定める必要があるなど、対面形式にはない課題があるものの、AYAや働く世代を中心に時間や場所にとらわれずに広域から集合することができることから、活用範囲が拡大してきている。拠点病院等や都道府県では、それぞれの長所を活かした支援の場を提供できる可能性がある。そのためにも、オンラインでのピア・サポート活動に関する情報を収集し、その実践を共有する取組みも求められる。



## II. 事業総括

表1 意見交換会の実施（研修実施に向けた打合せを含む）

	都道府県	日時、開催場所	参加者
1	神奈川県	2023年 6月5日(月)、WEB	県出席者：2名 委託事業：3名
2	栃木県	6月16日(金)、WEB	県出席者：3名 委託事業：2名
3	埼玉県	6月16日(金)、WEB	県出席者：2名 委託事業：2名
4	群馬県	6月19日(月)、WEB	県出席者：1名 委託事業：2名
5	香川県	7月3日(月)、WEB	県出席者：2名 委託事業：2名
6	福井県	7月14日(金)、福井県庁	県出席者：4名 委託事業：1名
7	山口県	7月31日(月)、WEB	県出席者：1名 委託事業：2名
8	徳島県	8月9日(水)、WEB	県出席者：2名 委託事業：2名
9	鳥取大学医学 部附属病院	9月28日(木)、WEB	病院出席者：3名、委託事業：2名

表2 行政・医療従事者向け勉強会の実施

	都道府県	日時、開催場所	参加者
1	高知県	2024年2月13日(火) WEB	18名 <内訳> ・国指定がん診療連携拠点病院 4施設から7名 ・県指定がん診療連携推進病院 2施設から4名 ・地域統括相談支援センター(がん相談センターこうち) 5名 ・行政 2名

## 改訂委員会 会議記録

### 第1回 委員会

日時：2023年8月25日（金） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 開会挨拶
- (2) 今年度の事業方針の確認
- (3) 報告事項：ピア養成研修 WG 報告
- (4) 報告事項：短期サポートグループ WG 報告
- (5) 報告事項：支援希望調査アンケート結果
- (6) 検討事項：都道府県への支援について

### 第2回 委員会

日時：2023年12月12日（火） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 開会挨拶
- (2) ピア養成研修 WG 報告
  - (ア) 研修会実施報告、準備報告
  - (イ) ピア・サポーター養成テキスト改訂について
  - (ウ) ピア・サポーター養成研修会 開催指針について
- (3) 短期サポートグループ WG 報告
  - (ア) 研修会実施報告、準備報告
  - (イ) 「ピア・サポートの実際」動画作成報告
  - (ウ) がんサポートグループ企画運営者のための研修会 修了者向け半年後アンケートの報告
- (4) 各都道府県の取組に関する報告
- (5) 事業報告書について

### 第3回 委員会

日時：2024年2月27日（火） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 開会挨拶
- (2) ピア養成研修 WG 報告
  - (ア) 研修会実施報告、準備報告
  - (イ) ピア・サポーター養成テキスト改訂について
- (3) 短期サポートグループ WG 報告
  - (ア) 研修会実施報告、準備報告
- (4) 各都道府県の取組に関する報告
- (5) 事業報告書について

## Ⅲ.ピア養成研修ワーキンググループ 報告

ピア養成研修ワーキンググループ長 秋月 伸哉

がん感染症センター 東京都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック 部長

### A. 目的

本WGの目的は、すべての都道府県で継続的に行え、実際の活動につなげることができるピア・サポーター養成プログラムを開発することである。2018年度にピア・サポーター研修プログラム、並びにピア・サポーター養成テキストを作成し、パイロット版の研修を実施、2019年度はピア・サポーター養成テキストの改訂、ピア・サポーター養成研修会運営マニュアルを作成しプログラムに基づくピア・サポーター養成研修会を実施、2020年度はコロナ流行の状況に合わせて対面研修の時間を短縮できるよう講義動画の作成、短縮版ピア・サポーター養成研修会を開発し、フォローアップ研修プログラムの提言を作成、2021年はオンライン版ピア・サポーター養成研修会開催マニュアルを作成、またフォローアップ研修プログラムを作成した。2019年度より各都道府県の要請に応じて研修会の開催を支援し実施している。

今年度は前年度の活動に引き続き、1. 都道府県でのピア・サポート活動支援、2. 都道府県でのピア・サポーター養成研修開催支援、3. 都道府県でのフォローアップ研修開催支援に加え、都道府県のがん対策推進計画策定に伴い、4. 都道府県で行うピア・サポーター養成研修会開催指針の作成、5. ピア・サポーター養成テキストの改訂を行うこととした。

### B. 経過

#### 1. 都道府県でのピア・サポート活動支援

各都道府県からピア・サポート活動支援の要請がなかった。行政の取り組みに病院が連携できていないこと、感染症対策への慎重さが続き、対面でのピア・サポートが十分開催されていないことが推察された。

#### 2. 都道府県でのピア・サポーター養成研修開催支援

埼玉県、香川県、長崎県、神奈川県からの協力要請があり、プログラムの提供、開催支援を行った(表)。

#### 3. 都道府県でのフォローアップ研修開催支援

これまでに養成されたピア・サポーターへのフォローアップ研修に長崎県、福岡県、兵庫県、群馬県、栃木県、茨城県、埼玉県、徳島県、香川県から協力要請があり、各地の実情に応じたプログラムの提供、開催支援を行った(表)。

#### 4. 都道府県で行うピア・サポーター養成研修会開催指針の作成

都道府県で行うピア・サポーター養成研修会について、これまで各地の実情に応じて自由にプログラムを設定できるようにしていたが、経験のない自治体が新たに取組む際に目安がないことが欠点であった。これまでの研修会開催経験と地域のニーズを踏まえて、必須プログラムと目的に応じて選択できるプログラムなどに分類して開催指針を開発した(Ⅶ資料集1.参照)。

#### 5. ピア・サポーター養成テキストの改訂

既存のピア・サポーター養成テキストの「ピア・サポート活動を広く推進するために行政と医療者ができること」、「具体的な事例」の章を、第4期がん対策推進基本計画にのっとって変更した。

### C. 考察

各都道府県の要請により、昨年までに開発されたピア・サポーター養成テキスト、プログラム、オンライン版プログラム、フォローアップ研修プログラムに基づき研修会を実施した。

13県でピア・サポーター養成、フォローアップ研修を行ったが、これまで作成したプログラムを大きく修正することなく運用できた。オンライン開催についても参加者の接続環境など参加者側の機材的な問題を除けば支障なく開催できた。

一方、研修を行った県の医療機関でのピア・サポート活動の聴取結果やピア・サポート活動支援の要請がないことから、コロナ禍後のピア・サポート活動再開が停滞していること、合わせて行政の取り組みに病院が連携できていない状況が認められ、養成されたピア・サポーターを十分活用できていない状況がうかがわれた。

表 ピア・サポーター向け研修会の支援

	都道府県	日時、開催場所	内容、形式	参加者	プログラム
1	埼玉県	2023年 8月15日(火)・26日 (土) 埼玉会館	・養成 ・対面2日間	ピア・サポーター：13名 拠点病院等の医療従事者：3名 県担当者：3名 委託事業(講師、ファシリテーター)：7名	・事業作成の2日間のプログラムに準拠したもの
2	香川県	10月29日(日) 香川県庁	・養成 ・事前の動画視聴 +対面1日間	ピア・サポーター：12名 拠点病院等の医療従事者：5名 県担当者：2名 委託事業(講師、ファシリテーター)：5名	・事業作成の2日間のプログラムに準拠したもの
3	埼玉県	11月21日(火)・25日 (土) 埼玉教育会館	・養成 ・対面2日間	ピア・サポーター：19名 拠点病院等の医療従事者：5名 県担当者：2名 委託事業(講師、ファシリテーター)：7名	・事業作成の2日間のプログラムに準拠したもの
4	長崎県	12月9日(土) 長崎県庁	・養成兼フォローアップ ・事前の動画視聴 +対面1日間	ピア・サポーター：13名 拠点病院等の医療従事者：9名 県担当者：5名 委託事業(講師、ファシリテーター)：3名	・事業作成の2日間のプログラムに準拠したもの ・ピア・サポーター同士の交流会
5	兵庫県	12月16日(土) WEB	・フォローアップ ・WEB 半日	ピア・サポーター：25名 ファシリテーター：11名 見学者：4名 事務局：5名(担当病院の相談員1名、Zoom 担当(システム関連職種)2名) 行政：2名 委託事業(講師)：1名	・講義 ・ロールプレイ
6	福岡県	2024年 1月25日(木) 福岡西総合庁舎	・フォローアップ ・対面半日	ピア・サポーター：21名 医療関係講師：5名 県担当者：1名 委託事業(講師)：1名	・ピア・サポートに関する基本知識の振り返り ・ピア・サポーター経験者からの講義等 ・ロールプレイ ・グループファシリテートのために
7*	群馬県	3月8日(金)	・フォローアップ ・対面1日		・ピア・サポートに関する基本知識の振り返り ・ロールプレイ

8*	神奈川県	3月9日(土)、10日(日) 波止場会館、神奈川県民ホール	・養成 ・対面2日		・事業作成の2日間のプログラムに準拠したもの
9*	栃木県	3月16日(土)	・フォローアップ ・対面半日		・模擬がんサロン ・ピア・サポーター同士の交流会 (検討中)
10*	茨城県	3月22日(金)	・フォローアップ ・対面		
11*	埼玉県	3月23日(土)	・フォローアップ ・対面1日		・「グループファシリテーションのために」 「ピア・サポーターのストレスマネジメント」 ・事例検討、意見交換
12*	徳島県	3月24日(日)	・フォローアップ ・対面半日		・ピア・サポーターに関する基本知識の振り返り ・自分の体験を語る
13*	香川県	3月27日(水)	・フォローアップ ・対面半日		・活動をふまえての事例検討、意見交換

\*: 報告書作成時(2024年2月末)予定

## ピア養成研修ワーキンググループ 会議記録

### 第1回 WG 会議

日時：2023年9月26日(火) 形式：オンライン開催

議事：

- (1) ピア・サポーター養成研修会の開催指針について
- (2) ピア・サポーター養成研修テキスト 改訂について
- (3) 各都道府県の研修支援について

## IV. 短期サポートグループワーキンググループ 報告

短期サポートグループワーキンググループ長 平井 啓  
大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授

### A. 目的

がん患者を対象とした「サポートグループ」は、がん患者の情緒面や対処能力向上のための心理社会的支援の方法として世界の多くの医療施設において提供されている。日本でもがん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院等）の要件において、がん相談支援センターに必要な機能として、がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けることが求められている。ゆえに、実際、医療者が運営する構造化されたサポートグループ、あるいはピア・サポーターが中心となり運営されるピア・サポートプログラムなど、さまざまな取り組みが行われている。しかしすでに開催されている患者サロンやピア・サポーターによるサポートグループの運営上の課題解決や質向上を行うための体系的で簡便な資料がなく、これらの心理社会的支援の方法が十分に行われているとは言い難い。

そこで短期サポートグループワーキンググループは、これまで、さまざまな「サポートグループ」の運営に携わったメンバーにより、ピア・サポートを含む、さまざまな形や目的の「サポートグループ」に関して構造と機能の整理を行い、おもにがん診療を行う病院で勤務する、がん患者を対象としたサポートグループの企画・運営に携わる医療従事者を対象とした、「がんサポートプログラムの手引き」を作成し、さらにがんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」を開発し、2020年度から実施している。がん患者に対する心理社会的支援の機会を整備するためには、この研修会の継続した開催が求められる。そこで本年度は、2回の研修会を開催し、さらに継続的な研修の機会を提供するためフォローアップ研修会を開催した。

### B. 経過

本年度は、2023年11月3日（仙台とオンライン）と2024年2月10日（福岡とオンライン）の2回開催し、それぞれ90名のがん相談に携わる医療従事者を定員とした。本研修プログラムのねらいは、①サポートグループ・ピア・サポートについて理解しており（必要性や意義、方法について）②サポートグループのファシリテーションに関する基本的な技術を習得し、企画・運営することができる人材の養成である。

方法としては、参加者が事前課題として自施設のがんサポートグループについて評価し、研修会を受講する形をとった。その後、参加者の主観的変化を見るために事後評価アンケートを行った。

事前評価アンケートは、自身のプロフィール、自施設のがんサポートグループの構造や機能、自己の行動などの主観的評価をオンライン上の質問サイトにて尋ねた。

講義としては、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。ここでは、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものでなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。本年度はピア・サポートの実際の場面がわかるように新たに動画を作成し、それを講義の中で閲覧することとした。それから、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。その後、作成したファシリテーションの6場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。本講義内容は、「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏襲した。

事後評価アンケートは、事前評価アンケート同様にオンライン上の質問サイトにて、サポートグループの理解度やファシリテーターとしての効力感などを「非常にそう思う」「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の5件法で、その他研修会に関する意見等を尋ねた。

フォローアップ研修会については、11月23日にオンラインで開催した。研修プログラムのねらいは、これまでの研修会の参加者の要望などを踏まえ、①ピア・サポーターを活用した好事例について学ぶ、②難しい場面でのファシリテーションの方法について事例検討により学ぶ、③各施設での具体的な取り組みについての状況共有とネットワークングとなった。プログラムは4時間で構成され、ピア・サポート好事例紹介、事例検討、情報交換の3つのパートから構成された。事例検討は、サポートグループにおいて生じうる難しい場面において、ファシリテーターとしてどのような対応するのかについてグループで話し合うものである。ピア・サポート場面の動画視聴も追加した。

### C. 結果

事前登録者は、11月60名、2月45名であった。このうち事前評価アンケートのデータについてクラスタ分析(ward法)を行い、目標レベル分けを行っ

たところ、11月の研修会でレベル設定を行ったものは58名であった。このうち、レベルⅠ：「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニーズへの対応が弱い」26名、レベルⅡ：「多様なニーズへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」30名、レベルⅢ：「エキスパート」2名であった。2月の研修会では、45名をレベル分けし、レベルⅠ：「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニーズへの対応が弱い」31名（アンケート未提出者・欠損ありの16名を含む）、レベルⅡ：「多様なニーズへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」12名、レベルⅢ：「エキスパート」2名であった。例年より、がん相談、サポートグループ経験者が少ないが、研修後はすべての項目で平均値が有意に上昇した。特に「ファシリテーターの役割を理解」「ピア・サポーターとの協働の理解」「サポートグループ運営の自己効力感」は効果量が大きく、研修の目的が十分に達成された。さらにサポートグループの必要性とその効果、ピア・サポーターの重要性に関する知識、ピア・サポーターとの協働、サポートグループの課題改善の項目で効果量が大きく、研修の目的が十分に達成された。

またファシリテーションに関する評価の項目から、基本的なファシリテーションのスキルは実践を通して学習できたが、比較的高いスキルを求められる対応や、ピア・サポーターとの協働によるファシリテーションについて課題を感じているのは例年同様で、フォローアップ研修による継続的な学習を必要とする内容であった。研修全体についての評価では、研修内容はわかりやすく、期待を満たすものであり、継続的な研修参加への強い要望もみられた。続くコロナ禍でオンライン研修に慣れた参加者が増加し、積極的に参加できているようであった。オンラインでもロールプレイ実践を通してスキルの習得ができ、また各施設の企画・運営の課題について話し合うことができたことを評価していた。自由記述の回答を分類したところ、良かった点としては、ロールプレイの経験、他施設との情報共有・取り組みを知る、実践の振り返り・エンパワメント、講義内容・ファシリテーターの存在、研修の構成・雰囲気、開催形式であった。一方で、改善点としては、研修時間がタイト、参加者同士の交流の機会、対面・オンラインでの参加による不具合、ロールプレイの長さなどであった。

フォローアップ研修会は、32名の事前登録があった。「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」終了後の各施設でのサポートグループの開催状況については、対面開催が78%、オンラインなど多面以外の方法での開催が6%、開催なしが16%であった。サポートグループへのピア・サポーターの参加は、参加ありの施設が60%であった。

フォローアップ研修後の自己評価では、サポートグループのレベルⅡからⅢのスキルについて十分に獲得されていた。研修全体についても有用性ならびに満足ともに高い評価となっていた。

#### D. 考察

「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」は2020年度から今年度までに合計7回開催し、482名が修了している。昨年度に比べて本年度はレベルⅠの参加者が増えており、研修の裾野が広がってきたと考えられる。全国の拠点病院等において、質の高い心理社会的支援が提供されるためには、さらに本研修会を開催し、受講していない病院などの医療従事者を対象としていく必要がある。さらに、これまでは新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催になっている。そのためサポートグループのファシリテーションの一部についてロールプレイで体験してもらう研修となっているが、対面開催が可能となれば、さらに幅広いスキルの獲得のための研修が可能となると考えている。

さらに、継続受講を希望する参加者も多かったことから、実際にサポートグループを運営して生じる課題などについて話し合ったり情報交換したりできる場の設定も今後の課題である。



【「がんサポートグループ企画運営者のための研修会」研修修了者の人数】

		日程	形式	修了者
令和2年度	第1回	2021年2月11日	オンライン	87名
令和3年度	第2回	〃 11月3日	ハイブリッド(東京)	82名
	第3回	2022年2月11日	オンライン	75名
令和4年度	第4回	〃 11月3日	ハイブリッド(東京)	77名
	第5回	2023年2月11日	ハイブリッド(大阪)	53名
令和5年度	第6回	〃 11月3日	ハイブリッド(仙台)	60名
	第7回	2024年2月10日	ハイブリッド(福岡)	48名(予定)
合計				482名

【「がんサポートグループ企画運営者のためのフォローアップ研修会」研修修了者の人数】

		日程	形式	修了者
令和4年度	第1回	2022年11月23日	オンライン	32名
令和5年度	第2回	2023年11月23日	ハイブリッド(東京)	29名
合計				61名

図1. 研修会受講者の背景 (2023年11月3日)

## 事前アンケート回答状況

2023年10月20日9時〆切時点  
60/64名提出 94%回収

---

**受講者の背景 (n=60)**

**1. 所属：**

所属	名
地域連携・総合相談支援センター	21
がん相談支援センター	17
看護部	10
腫瘍センター	3
診療科	3
緩和ケア部門	2
外来(中央放射線部)	1
治療就労両立支援センター	1
地域統括がん相談支援センター	1
訪問看護ステーション	1

**2. 職種：**

職種	名	
看護師・保健師	34	
がん看護専門看護師		10
緩和ケア認定看護師		4
がん化学療法認定看護師		2
がん放射線療法認定看護師		2
がん性疼痛看護認定看護師		1
皮膚・排泄ケア認定看護師		1
小児看護専門看護師		1
認知症看護認定看護師		1
MSW		22
心理職	2	
医師	1	
認定遺伝カウンセラー	1	

3

図 2-1. サポートグループの開催状況 (2023 年 11 月 3 日)

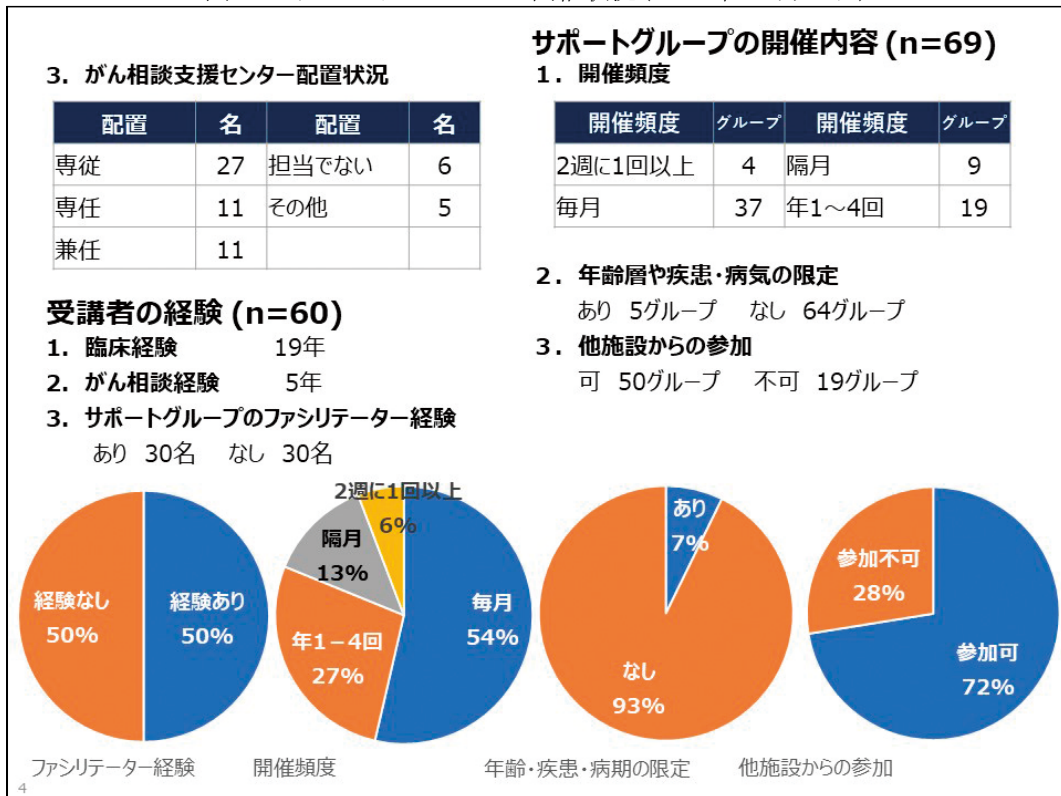


図 2-2. サポートグループの開催状況 (2023 年 11 月 3 日)

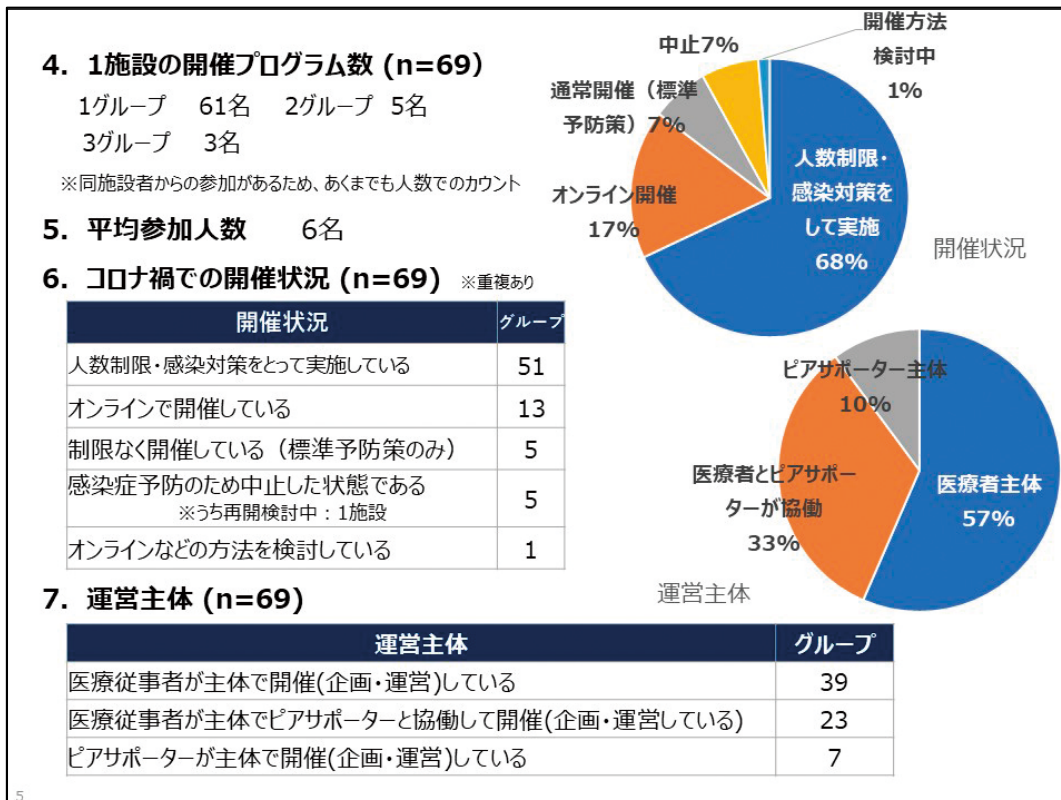


図 3. 自施設の役割に関する記載(抜粋) (2023 年 11 月 3 日)

**自施設の役割に関する記載 (56名記載あり以下抜粋)**

- 消化器専門病院として幅広い消化器疾患について専門的医療を的確に提供できること、またがん診療については指定病院でもあり診断から治療、緩和ケアまで提供できる、ワンストップでの体制（診療だけでなく相談、入院なども）が求められていると考えます。一方でかかりつけ医機能も果たしつつ、予約診療でないこともあり、困ったときの駆け込み寺的期待及び利用実態もあると考えます
- 埼玉県南部地域の緩和ケア病棟を有する、がん診療連携拠点病院。グループ病院として、医療介護の連携、訪問診療部門との連携をはかり、地域のがん患者が最後まで安心して療養できる環境を提供している。
- AYA世代の患者層が他機関と比較して多いため、世代に特化したピアサポートの基幹的役割もあると思う
- 大阪市の中核病院として地域医療機関との適切な役割分担のもとに連携を強化し、市民の“健康と生命を守る最後の拠り所”として必要な医療を提供する。
- 神戸医療圏の人口は約152万人と全国の他の医療圏と比較しても非常に多い。今後、近隣のがん診療連携拠点病院と連携しながら東神戸地域のがん診療への貢献が求められている
- 主に高知県の中央保健医療圏における救急医療や災害時の拠点となる急性期病院。高度医療の提供を担い、地域の病院との連携を密に図ることで、地域住民の健康的な生活に寄与すること

6

図 4. 自施設のがん診療の特徴の記載(抜粋) (2023 年 11 月 3 日)

**自施設のがん診療の特徴の記載 (56名記載以下抜粋)**

- 消化器専門病院にて消化器がんについては、手術実績も多く、薬物療法件数も少なくない。検査機器も比較的充実しており、診断から治療にかけて過不足なく医療が提供できる体制にあると考える。また内科と外科の連携も迅速に行われていることも当院の特徴である。さらに緩和ケアとの連携も適宜行われているが、一方で当院他科と緩和ケアの並診数は少なく、入院中も転科前後からのかかわりとなっており、早期からの緩和ケアがうたわれて久しいがその実現は当院では不足していることも（他院の実態は不明だが）ある意味で当院の特徴であるように感じている
- 胃がん、大腸がん、肺がん、前立腺がんなどの登録件数が多い。一方で、大学病院という特性上、県内（近隣県外）の小児がんや希少がんの治療を担っている。
- 在宅医療科、緩和ケア病床を持っているため診断からエンドオブライフ期までシームレスや医療を提供できる
- 消化器病センターを設置し、腫瘍内科と緩和ケア内科を標榜している。専門外来（リンパ浮腫外来、ストーマ外来、遺伝診療センター）を設置している
- 遺伝性腫瘍を扱う専門外来「がんの遺伝外来」を有する。認定遺伝カウンセラーが在籍している
- 年齢階級別登録割合からみると、全国・栃木県に比べて平均年齢が低く、部位別割合は乳房や子宮頸部が全国・栃木県に比べて多い傾向がある
- 大腸がん20%、肺、乳、前立腺、胃の順に10%前後の登録。2年前より婦人科を開設し卵巣子宮がんの患者も増えている。戸田公園駅から徒歩5分と都内からのアクセスがよく、がん治療を都内がん専門病院で行った後の継続通院を当院に切り替える高齢癌患者も多い。
- 県のがん診療連携拠点病院として、免疫療法・ダヴィンチによるロボット手術などを含めた診療を、県内外からの紹介患者に実施。乳がん・消化器癌・泌尿器科癌・肺癌 などの患者数多い

7

図 5. 自施設からサポートグループに期待されている役割の記載(抜粋) (2023年11月3日)

<b>自施設からサポートグループに期待されている役割の記載 (55名記載以下抜粋)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 患者サロン運営ががんサロンだけでなく、サポートグループが社会的に認知されるに伴い表出される患者や家族からのニーズに応えること。地域がん診療指定病院の要件を満たすこと</li> <li>● 遺伝性腫瘍患者およびご家族に対する心理的・社会的支援</li> <li>● 患者サロンでの活動において、サポートグループが協働して創造的に取り組む中で、相談員の立ち位置や役割等状況に応じたあり方が求められており、患者へ多様な支援の場を提供できることが期待されている</li> <li>● 患者への心理社会的サポート、当事者の生きた経験の共有（治療や仕事との両立の経験など）</li> <li>● 外来診療や短期入院で支援が不足しやすい、日常生活における細部のサポート</li> <li>● がん体験者として支援することで自身の役割の再発見や成長につながる事、体験者の語りを聞くことで一人ではない事、が伝わる事を期待している</li> <li>● 自身の思いを同じ経験をしたピアサポーターに話すことで気持ちを共有することができ、またピアサポーターも自身の社会における役割の再発見をする機会となり、両者にとって成長の機会を得る場となること</li> <li>● 施設からの期待はない。福井県から、ピアサポート養成を依頼されている。また、自身も、がんサロンを2回/月開催している</li> <li>● 自施設だけではなく地域のがん患者家族が繋がる窓口となること</li> <li>● がん患者及びその家族が心の悩みや体験談等を語り合える交流の場として、がんに関する情報を得られる場として、ピアサポーターと医療関係者が共同し、がんサロンを定期開催することで、がん患者及びその家族を支援すること</li> <li>● がんサロンのアンケートでは「知識を習得したい」という参加動機が最も多く、正しい情報を伝える役割が大きいと感じている</li> </ul>

図 6. 事前評価をしてみたの感想①(抜粋) (2023年11月3日)

<b>事前評価をしてみたの感想① (50名記載あり以下抜粋)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● がんサロン終了後にピアサポーターと医療従事者で次回のサロン開催に向けた意見や改善案を話し合えたり、サロンの参加者の意見を取り上げたりとピアサポーターと医療機関が連携して運営できていると思う</li> <li>● コロナ禍から、がんサポートグループを運営に参加することになったが、患者層の高齢化もあり、オンラインでは、参加数がふえない</li> <li>● また、5類感染になった後も、感染管理室が、院内における患者向けの対面集会を許可しない状況が続いている</li> <li>● 従来当院で行われていた患者サロンをそのまま引き継いだ形であり、自信をもった運営が出来ているとは到底思えない状況であり、他の医療機関の方の方法や考え方も含めて勉強させていただきたいとおもった</li> <li>● 当院では毎月対面でのがんサロンをフリートーク形式で開催しているため、その時その時で参加者の知りたいこと・聞きたいこととお話できる場となっております。しかし、医療者側からの何らかの情報（他職種からのがん情報やアドバイス等）を準備して提供しているわけではなく、かつテーマを決めて実施しているわけではないのが現状です。そのため、その時の参加者の人数やがん種によって有意義な情報共有の場になることもあれば、ざっくばらんなお話のみとなってしまうこともあるような状況です</li> <li>● 参加者についての設問に回答する中で、レポートで参加していた患者さんは亡くなり、コロナで開催が途切れてしまったので新たなリピーターも生まれておらず、一から始まる状況なのだと改めて感じた</li> </ul>

図 7. 事前評価をしてみたの感想②(抜粋) (2023年11月3日)

### 事前評価をしてみたの感想② (50名記載あり以下抜粋)

- 正直組織からは要件の一部を満たすために運営を求められている状況があり、そこに対し運営を担う部門で患者のニーズ等を鑑みて目的等を後付けしているとも言える。そのため目的の成就や地域への貢献、地域ニーズへの対応、患者の広いニーズへの対応などサロンの拡大等については組織自体が積極的ではない。ピアサポーターや院内周知等の取り組みについても組織自体が乗り気ではなく、部門でも他の業務が優先されてしまうためサロンとしての課題に関わることができずにいる。今後は院内に向けてまずは算定要件ではなく、患者支援の一環であること、目的や意義を共有したうえで拡充していく必要性について話し合うことがまず必要であること、その上でピアサポーター等については部門を超えて希望者や該当者について考えたり、サポート、連携していく体制づくり等も考えないと、サロンそのものもピアサポーターも名前だけの状態が続いてしまう懸念があると感じた。また、運営部署もサロンの意義や目的、ピアサポーターやファシリテーションについて学ぶ機会を持ち、ある程度統一された知識や技術、認識を得ていく必要もあると感じた
- ピアサポーターには協力頂いているが、リフレクションのところに課題があるなど感じた。ピアサポーター自体が少ないため1人に対する負担が大きい。ピアサポーター育成研修やフォローアップ研修などの検討が必要である
- 協力してくれているピアサポーターは企画運営について不慣れでありほぼ相談支援センターの相談員が行っている
- がん相談支援センターの相談員は相談業務との兼務で運営しているため当日のサポートグループへの支援が不十分となっている

10

図 8. 事前評価をしてみたの感想③(抜粋) (2023年11月3日)

### 事前評価をしてみたの感想③ (50名記載あり以下抜粋)

- コロナ前は患者さん中心で「がん患者コミュニティサロン」を運営していたが、感染対策のため中止していた。今年の9月から医療者を運営主体として再開したが、再開したばかりでファシリテーターとしてのかかわり方が確立できていない。ファシリテーターとしてのかかわり方や運営について学び、参加者が安心して参加できるものにしたかった
- 現在はがん相談支援センター看護師2名で企画運営しており、前年度から継続しているスタッフからは、毎年形式や頻度を変えていると聞いている。毎年形式や方法を変えることがよいのかは、評価できていない、または、共有できていない。医療者のみでの企画運営には、魅力や運営、立ち位置に限界があるのではないかと感じた
- 現在栃木県ではピアサポーターの養成を行っており、今年度修了する予定である。当院はもとより県内にも国が作成した研修プログラムを修了したピアサポーターがいないことから、事前評価アンケートにより、これから協働していく際の介入のヒントを得ることができた。また他施設での取り組み事例など、研修に参加して知りたいと思っている
- 自施設の役割として、どのようなサポートグループが求められているのか、現状把握が不足していることを自覚しました。今後は埼玉県から派遣していただくピアサポーターさんに対して、運営者として必要な体制を学んでいきたいと思えます
- ピアサポーターとの連携をどうしていくのか、(どこに依頼するか、費用等) 課題が多くある。また、サポートグループについては、リーダー的な存在を担うサバイバーがいらっしゃるのか 初歩的なところからのスタートになるためこの部分においても課題は多いです

11

図 9. 事前評価をしてみたの感想④(抜粋) (2023年11月3日)

### 事前評価をしてみたの感想④ (50名記載あり以下抜粋)

- 当施設ではピアサポートメインとしたサロンを展開したいと模索しているところであり、土台自体ができていないという課題がある。どういった形でピアサポーターと連携をとり、協同していけるか。がんサロン参加者の殆どが既存のメンバーであり、また年齢やがん種にも偏りがある。新しくピアサポーターをお招きする形が受け入れられるのか、そういった点でも難しさを感じている
- 自施設のがん患者サロンは、まだまだ医療従事者主導であり、ピアサポーターの意識をもった方が一人だけだが存在している。しかし、その方も新たな治療をはじめ、今後継続した運営を任せることは重積となり得る可能性が高く、複数のピアサポーターの確保が当面の課題である。
- ピアサポーターの意識をもった人が継続・安定して参加してくれる状況になって初めて、ピアサポーター養成研修への参加を促せると思っている
- 当院のサポートグループ「癒しの会」は、参加人数が少なく、患者相互で体験を共有できる機会、自身が聞き役になる機会などほとんどないことを改めて感じた。サポートグループを、もっと支援できる体制を検討し、患者・元患者にとって有意義な会を企画・運営したいと思った
- 拠点病院にも関わらず、患者サロン開催に関しては着手が遅れている。相談対応で他の患者さんはどうしているのか、といった患者の実体験を知りたいという声を聞くことがあるが、当院主催の患者同士で交流できる場がなく、患者同士の交流ができずらい現状がある。また実際に患者サロンを企画したとしても、会の進行をどうしていくのか等経験が少なく、どのように運営するといったの思いつかない状況である。今回の研修で患者サロン開催のヒントを得ることができたらと思う

12

図 10. サポートグループ運営に関する目標レベル設定とクラスター分析結果(2023年11月3日)

### 自施設のサポートグループの目標レベル設定

- 受講確定 68人⇒ (追加キャンセル4名あり) 64名
- 事前課題アンケート未提出者 4名
- 以下、事前課題アンケートの結果から57名 (無記名1名含む) クラスター分析で6つに分類 (5名の欠損除く)

目標レベル	Cluster	人数	特徴
I : 34名 (未提出・欠損8名含む)	CLU1	3	全体のスコアが低い ※ほぼ「できていない」
	CLU4	23	平均スコアより低い
II : 30名 (欠損1名含む)	CLU2	9	ファシリテーション、情緒的サポートはまずまず、ピアが低い
	CLU3	7	ファシリテーション、情緒的サポート低め、ピアはCLU2より高い
	CLU6	13	平均スコアより高い、ピアが高い
III : 2名	CLU5	2	全体のスコアが高い

欠損がある者5名のうち2名は、似た特徴のあるクラスターに振り分け、各サポートグループの目標レベルに設定した  
※未提出者にはリマインドメール送信、締め切り後の回答は分析対象に含まず

14

## 短期サポートグループワーキンググループ 会議報告

### 第1回 WG 会議

日時：2023年6月5日（月） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 事業内容の確認
- (1) ワーキングの方向性の検討
- (2) 今後の予定の確認

### 第2回 WG 会議

日時：2023年10月3日（火） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 11月3日「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」の準備
- (2) 11月23日「がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会」の準備
- (3) 2023年8月実施 「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」修了者 半年後追跡アンケート結果の共有

### 「ピア・サポートの実際」動画撮影

会場：市立豊中病院（大阪府豊中市柴原町4丁目14番1号）

日時：2023年9月3日（日）

### がんサポートグループ企画・運営者のための研修会(2023年度第1回)

会場(配信拠点)：ハーネル仙台（仙台市青葉区本町2-12-7）

日時： 2023年11月2日(木) 18:00～19:00（前日打合せ）

2023年11月3日(金・祝) 9:15～9:30（直前打合せ）

〃 10:00～17:00（研修）

〃 17:00～18:00（関係者反省会）

### がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会

会場(配信拠点)：AP 東京八重洲（東京都中央区京橋1-10-7）

日時： 2023年11月23日(木・祝) 11:00～11:30（直前打合せ）

〃 13:00～17:00（研修）

〃 17:00～18:00（関係者反省会）

### がんサポートグループ企画・運営者のための研修会(2023年度第2回)

会場(配信拠点)：福岡県中小企業振興センター（福岡県福岡市博多区吉塚本町9-15）

2024年2月9日(金) 18:00～19:00（前日打合せ）

2024年2月10日(土) 8:30～9:00（直前打合せ）

〃 10:00～17:00（研修）

〃 17:00～18:00（関係者反省会）

## V. 都道府県への支援

### 1. ピア・サポーター向け研修会の実施の支援・運営協力

#### (1) 埼玉県 ピア・サポーター養成研修会(8月)

開催日	①2023年8月15日(火) 10:00~16:50 ②2023年8月26日(土) 10:00~16:00	
開催形式	対面	
開催場所	埼玉会館 4A、4B 会議室(さいたま市浦和区高砂 3-1-4)	
研修内容	養成	
受講者	ピア・サポーター	13名
	医療者	3名
	行政担当者	3名

#### タイムテーブル ( 8月15日(火) 1日目)

開始	終了	(分)	ピア	
10:00	10:10	10	開会のあいさつ/オリエンテーション	講義形式
10:10	10:20	10	アイスブレイク	講義形式
10:20	10:50	30	ピア・サポートとは	講義形式
10:50	11:00	10	[休憩]	
11:00	12:00	60	ピア・サポーターの役割と活動指針 (A) ピア・サポートを行うこと (B) 守るべきこと (C) 活動を振り返り、報告する	講義形式
12:00	13:00	60	[昼休憩]	
13:00	13:40	40	相手を大切にすること、自分を大切にすること (D) バウンダリーについて (E) ピア・サポーターが知っておくと良い情報	講義形式
13:40	13:45	5	自分の体験を語る 全体オリエンテーション&座席の移動	講義形式
13:45	14:30	45	自分の体験を語る (10人×4~5分)	
14:30	14:40	10	[休憩]	
14:40	15:10	30	自分の体験を語る 2週目 (10人×1~2分×2周)	
15:10	15:15	5	自分の体験を語る 全体まとめ	講義形式
15:15	15:25	10	[休憩]	
15:25	16:25	50	がん診療の基礎知識と情報提供の注意点	講義形式
16:25	16:35	10	1日目のまとめ(質疑応答)	講義形式
16:35	16:45	10	病院での活動について①	講義形式
16:45	16:50	5	事務連絡	

#### タイムテーブル ( 8月26日(土) 2日目)

開始	終了	(分)	ピア	
10:00	10:10	10	オリエンテーション	講義形式
10:10	10:50	40	よりよいコミュニケーションのために	講義形式
10:50	11:00	10	[休憩]	



V. 都道府県への支援

11:00	11:15	15	ロールプレイ 進め方オリエンテーション	講義形式
11:15	11:30	15	グループに分かれる→自己紹介・アイスブレイク	
11:30	11:50	20	ロールプレイ セッション1	
11:50	12:10	20	ロールプレイ セッション2	
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕	
13:10	13:30	20	ロールプレイ セッション3	
13:30	13:50	20	ロールプレイ セッション4	
13:50	13:55	5	〔休憩〕 & 〔全体に戻る〕	
13:55	14:15	20	ロールプレイ 全体まとめ	講義形式
14:15	14:25	10	〔休憩〕	
14:25	15:25	60	行政や医療機関の役割について学ぼう 埼玉県のピア・サポート活動/病院での活動について②	講義形式
15:25	15:45	20	2日目のまとめ/質疑応答	講義形式
15:45	16:00	15	修了式 (閉会あいさつ/事務連絡等)	講義形式

## (2) 香川県 ピア・サポーター養成研修会

開催日	2023年10月29日(日) 10:00~16:00	
開催形式	事前の動画視聴+対面1日	
開催場所	香川県庁本館12階 第1・2会議室/大会議室 (香川県高松市番町4丁目1-10)	
研修内容	養成	
受講者	ピア・サポーター	12名
	医療者	5名
	行政担当者	2名

開始	終了	(分)	ピア・サポーター(第1会議室)	ピア・サポーター(第2会議室)		
10:00	10:10	10	開会のあいさつ/オリエンテーション			
10:10	10:50	40	事前講義の振り返り、アイスブレイク		講義形式	
10:50	11:00	10	休憩			
11:00	11:05	70	5	自分の体験を語る 全体オリエンテーション		講義形式
11:05	11:45		40	自分の体験を語る 1周目		
11:45	11:50		5	[休憩]		
11:50	12:10		20	自分の体験を語る 2周目		
12:10	12:55	45	[昼休憩]			
12:55	13:05	125	10	ロールプレイ オリエンテーション		講義形式
13:05	13:10		5	グループに分かれる→自己紹介→セッション開始		
13:10	13:30		20	ロールプレイ (セッション1)		
13:30	13:50		20	ロールプレイ (セッション2)		
13:50	14:00		10	[休憩]		
14:00	14:20		20	ロールプレイ (セッション3)		
14:20	14:40		20	ロールプレイ (セッション4)		
14:40	15:00		20	ロールプレイのまとめ (全体)		
15:00	15:10	10	[休憩]			
15:10	15:30	20	行政や医療機関の役割について学ぼう		講義形式	
15:30	15:40	10	まとめ/質疑応答		講義形式	
15:40	15:50	10	閉会挨拶、事務連絡、アンケートの記入			

(3) 埼玉県ピア・サポーター養成研修会(11月)

開催日	①2023年11月21日(火) 10:00~17:00 ②2023年11月25日(土) 10:00~17:00	
開催形式	対面2日間	
開催場所	埼玉教育会館 303, 304, 305(さいたま市浦和区高砂3-12-24)	
研修内容	養成	
受講者	ピア・サポーター	19名
	医療者	5名
	行政担当者	2名

開始	終了	(分)	ピア・サポーター	
10:00	10:10	10	開会のあいさつ/オリエンテーション	講義形式
10:10	10:20	10	アイスブレイク	講義形式
10:20	10:50	30	ピア・サポートとは	講義形式
10:50	11:00	10	[休憩]	
11:00	12:00	60	ピア・サポーターの役割と活動指針 (A) ピア・サポートを行うこと (B) 守るべきこと (C) 活動を振り返り、報告する	講義形式
12:00	13:00	60	[昼休憩]	
13:00	13:40	40	相手を大切にすること、自分を大切にすること (D) バウンダリーについて (E) ピア・サポーターが知っておくと 良い情報	講義形式
13:40	13:45	5	自分の体験を語る 全体オリエンテーション、座席の移動	講義形式
13:45	14:25	40	自分の体験を語る 前半 (9人×3分+α)	
14:25	14:35	10	[休憩]	
14:35	15:10	35	自分の体験を語る 後半 (9人×3分+α)	
15:10	15:15	5	自分の体験を語る 全体まとめ	講義形式
15:15	15:25	10	[休憩]	
15:25	16:25	60	がん診療の基礎知識と情報提供の注意点	講義形式
16:25	16:35	10	1日目のまとめ(質疑応答)	講義形式
16:35	16:55	20	病院での活動について①	講義形式
16:55	17:00	5	事務連絡	

開始	終了	(分)	ピア	
10:00	10:10	10	オリエンテーション	講義形式
10:10	10:50	40	よりよいコミュニケーションのために	講義形式
10:50	11:00	10	[休憩]	
11:00	11:15	15	ロールプレイ 進め方オリエンテーション	講義形式
11:15	11:30	15	グループに分かれる→自己紹介・アイスブレイク	
11:30	11:50	20	ロールプレイ セッション1	
11:50	12:10	20	ロールプレイ セッション2	
12:10	13:10	60	[昼休憩]	
13:10	13:30	20	ロールプレイ セッション3	
13:30	13:50	20	ロールプレイ セッション4	

13:50	13:55	5	〔休憩〕 & 〔全体に戻る〕	
13:55	14:15	20	ロールプレイ 全体まとめ	講義形式
14:15	14:25	10	〔休憩〕	
14:25	15:15	50	グループファシリテートのために	講義形式
15:15	15:25	10	〔休憩〕	
15:25	16:25	60	行政や医療機関の役割について学ぼう 埼玉県のパイ・サポート活動/病院での活動について②	講義形式
16:25	16:45	20	2日目のまとめ/質疑応答	講義形式
16:45	17:00	15	修了式 (閉会あいさつ/事務連絡等)	

## (4)長崎県 ピア・サポーター養成・フォローアップ研修会

開催日	2023年12月9日(土) 10:00~15:00	
開催形式	対面1日間	
開催場所	長崎県庁 311~314 会議室 (長崎県長崎市尾上町3-1)	
研修内容	養成・フォローアップ	
受講者	ピア・サポーター	13名
	医療者	9名
	行政担当者	5名

開始	終了	所要時間 (分)	ピア・サポーター 311 会議室	ピア・サポーター 312 会議室	形式	
10:00	10:10	40	10	開会のあいさつ、オリエンテーション		講義形式
10:10	10:40		30	アイスブレイク、事前の講義の振り返り		講義形式
10:40	10:50	60	10	自分の体験を語る 進め方オリエンテーション		講義形式
10:50	11:20		30	自分の体験を語る Aグループ 1周目	自分の体験を語る Bグループ 1周目	ワークショップ
11:20	11:40		20	自分の体験を語る Aグループ 2周目 まとめ	自分の体験を語る Bグループ 2周目 まとめ	ワークショップ
11:40	11:50	10	10	休憩・全体会場に戻る		
11:50	12:00	40	10	ロールプレイ 進め方オリエンテーション		講義形式
12:00	12:10		10	グループに分かれる・自己紹介、ローテーション確認		グループ
12:10	12:30		20	ロールプレイ (セッション1)		グループ
12:30	13:20	50	50	[昼休憩]		
13:20	13:40	145	20	ロールプレイ (セッション2)		グループ
13:40	14:00		20	ロールプレイ (セッション3)		グループ
14:00	14:20		20	ロールプレイ (セッション4)		グループ
14:20	14:30		10	休憩・全体会場に戻る		
14:30	14:45	15	15	ロールプレイ 全体まとめ		講義形式
14:45	15:00	15	15	質疑応答、本日のまとめ、閉会あいさつ、事務連絡		講義形式
15:10	16:00		50	ピア・サポーター交流会(希望者のみ) 進行:長崎県		

## (5)兵庫県 がんピアサポーターフォローアップ研修会

開催日	2023年12月16日(土) 10:00~12:30	
開催形式	オンライン	
研修内容	フォローアップ	
受講者	ピア・サポーター	25名
	医療者	11名(ファシリテーター) 4名(見学者)
	行政担当者 運営担当者	5名(事務局、Zoom担当、県行政)

開始時間	終了時間	所要時間	内容	形式等
09:30	10:00	30	(受付)	
10:00	10:10	10	オリエンテーション	講義形式
10:10	10:40	30	講義「養成研修の振り返り」	講義形式
10:40	10:55	15	自己紹介・アイスブレイキング	グループワーク
10:55	11:10	15	「体験を語る」グループワーク1回目	
11:10	11:20	10	休憩	
11:20	11:35	15	「体験を語る」グループワーク2回目	
11:35	11:55	20	グループでの振り返り	
11:55	12:15	20	全体振り返り(発表、意見交換)	
12:15	12:25	10	まとめ	
12:25	12:30	5	閉会・事務連絡	

(6) 福岡県 がんピア・サポーターフォローアップ研修会

開催日	2024年1月25日(木) 10:00~16:30	
開催形式	対面	
開催場所	福岡西総合庁舎 2階大会議室	
研修内容	フォローアップ	
受講者	ピア・サポーター	20名
	医療者	講師(医師、臨床心理士) 2名 ファシリテーター(相談支援センター看護師) 3名
	事務局等	受講者兼スタッフ 9名 スタッフ 2名

時間	所要時間	内容
9:30~	30	開会式 オリエンテーション
10:00~11:00	60	55 事前学習の振り返り アイสบレーク 一緒に思い出しましょう!~
		5 質疑応答
11:00~11:20	20	15 1 ピア・サポートに関する最新統計情報の紹介 2 県ピア・サポート養成事業に関する報告・連絡事項
		5 質疑応答
11:20~11:30	10	休憩
11:30~12:00	30	25 ピア・サポート経験者からの体験談
		5 質疑応答
12:00~13:00	60	昼食
13:00~13:35	35	5 説明、グループ準備
		30 動画視聴「よりよいコミュニケーションのために」
13:35~15:15	100	10 ロールプレイ(デモンストレーション)
		20 セッション①
		20 セッション②
		10 休憩
		20 セッション③
		20 全体のまとめ・意見交換
15:15~16:15	60	グループファシリテートのために
16:15~16:30	15	講評 閉会式

## (7)群馬県 ピア・サポーターフォローアップ研修会（予定）

開催日	2024年3月8日（金）
開催形式	対面1日
開催場所	群馬県庁 会議室
研修内容	フォローアップ

開始	終了	(分)	ピア(全体会場)	形式
10:00	10:10	10	開会のあいさつ、オリエンテーション	講義形式
10:10	10:25	15	アイスブレイク	講義形式
10:25	11:05	40	ピア・サポート 基本知識の振り返り① (ピア・サポートとは、役割と活動指針)	講義形式
11:05	11:15	10	休憩	
11:15	11:55	40	ピア・サポート 基本知識の振り返り② (バウンダリー、情報提供の注意点)	講義形式
11:55	12:55	60	昼休憩	
12:55	13:10	15	ロールプレイ 進め方オリエンテーション	講義形式
13:10	13:20	10	グループに分かれる・自己紹介、ローテーション確認	グループごと
13:20	13:40	20	ロールプレイ (セッション1)	グループごと
13:40	14:00	20	ロールプレイ (セッション2)	グループごと
14:00	14:10	10	休憩	
14:10	14:30	20	ロールプレイ (セッション3)	グループごと
14:30	14:50	20	ロールプレイ (セッション4)	グループごと
14:50	15:00	10	休憩&全体会場に戻る	
15:00	15:20	20	ロールプレイ全体の振り返り	講義形式
15:20	15:40	20	質疑応答	講義形式
15:40	16:00	20	閉会あいさつ、事務連絡、など	講義形式



## (8)神奈川県 ピア・サポーターフォローアップ研修会（予定）

開催日	2024年3月9日(土)、10日(日)
開催形式	対面1日
開催場所	波止場会館、神奈川県民ホール
研修内容	養成

開始	終了	(分)	ピア(全体会場)			形式
10:00	10:10	10	開会のあいさつ/オリエンテーション			
10:10	10:20	10	アイスブレイク			講義形式
10:20	10:50	30	ピア・サポートとは			講義形式
10:50	11:00	10	〔休憩〕			
11:00	12:00	60	ピア・サポーターの役割と活動指針 (A) ピア・サポートを行うこと (B) 守るべきこと (C) 活動を振り返り、報告する			講義形式
12:00	13:00	60	〔昼休憩〕			
13:00	13:40	60	相手を大切にすること、自分を大切にすること (D) バウンダリーについて (E) ピア・サポーターが知っておくと良い情報			講義形式
13:40	13:50	10	自分の体験を語る 全体オリエンテーション&座席の移動			講義形式
			全体会場	サブ会場①	サブ会場②	
13:50	14:15	25	自分の体験を語る Aグループ 前半	自分の体験を語る Bグループ 前半	自分の体験を語る Cグループ 前半	ワークショップ
14:15	14:25	10	〔休憩〕	〔休憩〕	〔休憩〕	
14:25	14:50	25	自分の体験を語る Aグループ 後半	自分の体験を語る Bグループ 後半	自分の体験を語る Cグループ 後半	ワークショップ
14:50	15:00	10	自分の体験を語る まとめ	自分の体験を語る まとめ	自分の体験を語る まとめ	ワークショップ
			ピア(全体会場)			
15:00	15:20	10	〔休憩〕 & 〔全体会場に移動〕			
15:20	16:20	60	がん診療の基礎知識と情報提供の注意点			講義形式
16:20	16:30	10	1日目のまとめ(質疑応答)			講義形式
16:30	16:55	25	病院での活動について①			講義形式
16:55	17:00	5	事務連絡			

開始	終了		内容	形式
10:00	10:10	10	オリエンテーション	講義形式
10:10	10:50	40	よりよいコミュニケーションのために	講義形式
10:50	11:00	10	〔休憩〕	
11:00	11:15	15	ロールプレイ 進め方オリエンテーション	講義形式
11:15	11:30	15	グループ(部屋)に分かれる→自己紹介・アイスブレイク	
11:30	11:50	20	ロールプレイ セッション1	グループごと
11:50	12:10	20	ロールプレイ セッション2	グループごと
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕	
13:10	13:30	20	ロールプレイ セッション3	グループごと
13:30	13:50	20	ロールプレイ セッション4	グループごと
13:50	14:05	15	〔休憩〕 & 〔全体に戻る〕	

14:05	14:35	30	ロールプレイ 全体まとめ	講義形式
14:35	14:45	10	〔休憩〕	
14:45	15:45	60	行政や医療機関の役割について学ぼう(講義形式、15~20分程度) 神奈川県のパイア・サポート活動について 病院での活動について②	講義形式
15:45	16:05	20	2日目のまとめ/質疑応答	講義形式
16:05	16:20	15	閉会あいさつ、事務連絡	講義形式

(9) 栃木県 ピア・サポーターフォローアップ研修会 (予定)

開催日	2024年3月16日(土)
開催形式	対面
研修内容	フォローアップ

(予定)

開始	終了	(分)	ピア(全体会場)	形式
10:00	10:05	0:05	開会のあいさつ(栃木県)	講義形式
10:05	10:15	0:10	オリエンテーション、アイスブレイク	講義形式
10:15	10:35	0:20	模擬サロン(実際にやってみよう)	講義形式
10:35	10:50	0:15	休憩	講義形式
10:50	11:20	0:30	模擬サロン(解説、講義)	講義形式
11:20	11:30	0:10	質疑応答、講評	講義形式
11:30	11:55	0:25	交流会	講義形式
11:55	12:00	0:05	まとめ、閉会の挨拶	講義形式

(10) 埼玉県 ピア・サポーターフォローアップ研修会 (予定)

開催日	2024年3月23日(土)
開催形式	対面
研修内容	フォローアップ

(11) 徳島県 ピア・サポーターフォローアップ研修会 (予定)

開催日	2024年3月24日(日)
開催形式	対面
研修内容	フォローアップ

(12) 香川県 ピア・サポーターフォローアップ研修会 (予定)

開催日	2024年3月27日(水)
開催形式	対面
研修内容	フォローアップ

## 2. 都道府県行政、医療者向けに行った勉強会

## (1) 高知県 がんピア・サポート勉強会

開催日	2024年2月13日(火) 17:00~18:00
開催形式	WEB
開催場所	オンライン
県からの出席 (医療者、行政担当者)	18名 <内訳> ・国指定がん診療連携拠点病院 4施設から7名 ・県指定がん診療連携推進病院 2施設から4名 ・地域統括相談支援センター(がん相談センターこうち) 5名 ・行政 2名

開始	終了	(分)	内容
17:00	17:05	5	開会のあいさつ
17:05	17:25	20	講義(1)ピア・サポートとは 国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科 小川朝生先生
17:25	17:45	20	講義(2)ピア・サポートに関する国の動向 国立がん研究センター がん対策情報センター 若尾文彦先生
17:45	18:00	15	質疑応答、閉会

## 3. 都道府県行政との意見交換会、打合せ

	都道府県	日時 開催場所	参加者	主な議題
1	神奈川県	2023年 6月5日(月) 15:30~16:30 WEB	県出席者:2名 委託事業:3名	<ul style="list-style-type: none"> <li>神奈川県から現在の取組について説明</li> <li>ピア・サポーター養成に向けた今後の取組方針等の意見交換</li> </ul>
2	栃木県	6月16日(金) 10:00~10:30 WEB	県出席者:3名 委託事業:2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>栃木県主催の患者サロンの開催について</li> <li>フォローアップ研修会実施に向けた今後の取組方針等の意見交換</li> </ul>
3	埼玉県	6月16日(金) 13:00~14:30 WEB	県出席者:2名 委託事業:2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉県から現在までの取組について説明</li> <li>ピア・サポーター養成研修会実施に向けた今後の取組方針や研修プログラムに関する意見交換</li> </ul>
4	群馬県	6月19日(月) 16:00~17:00 WEB	県出席者:1名 委託事業:2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>群馬県から現在までの取組、現在の状況について説明</li> <li>フォローアップ研修会研修会実施に向けた今後の取組方針や研修プログラムに関する意見交換</li> </ul>
5	香川県	7月3日(月) 15:00~16:00 WEB	県出席者:2名 委託事業:2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォローアップ研修会研修会実施に向けた今後の取組方針や研修プログラムに関する意見交換</li> </ul>
6	福井県	7月14日(金) 10:00~11:00 福井県庁	県出席者:4名 委託事業:1名	<ul style="list-style-type: none"> <li>福井県から現在までの取組、現在の状況について説明</li> <li>ピア・サポート活動普及に向けた今後の取組に関する意見交換</li> </ul>
7	山口県	7月31日(月) 15:00~16:00 WEB	県出席者:1名 委託事業:2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>山口県の現在までの取組や状況についての説明</li> <li>ピア・サポート活動普及に向けた今後の取組や体制作りに関する意見交換</li> </ul>
8	徳島県	8月9日(水) 16:00~17:00 WEB	県出席者:2名 委託事業:2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>徳島県の現在までの取組や状況についての説明</li> <li>ピア・サポート活動普及に向けた今後の取組や体制作りに関する意見交換</li> </ul>
9	鳥取大学 医学部 附属病院	9月28日(木) 16:00~17:00 WEB	病院出席者:3名 委託事業:2名	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取県、鳥取大学医学部附属病院等の県内の医療機関での現在までの取組や状況についての説明</li> <li>ピア・サポート活動普及に向けた今後の取組や体制作りに関する意見交換</li> </ul>

#### 4. ピア・サポーター養成研修のための資材提供、情報提供

委託事業事務局に問い合わせのあった都道府県や都道府県が委託するピア・サポーター養成等を行う団体、また資材に興味を持っていただいた団体や個人へ資材の送付・提供を行った。また、都道府県行政とピア・サポーター事業に係る各種相談対応、情報交換を行った。

##### (1) テキスト、資材提供の内容

- ・ピア・サポーター養成テキスト 2020 年度版
- ・がんサポートプログラム企画の手引き 2020 年度版
- ・自治体/がん診療連携拠点病院等向け ピア・サポートを推進するための手引き
- ・ピア・サポーター養成研修 講義動画 (DVD)

##### (2) 各種相談対応、情報交換

- ・医療者との連携について協議の場の設置の助言、提案
- ・養成研修会・フォローアップ研修実施、講師派遣の相談
- ・養成研修会・フォローアップ研修会プログラムの相談
- ・フォローアップ研修の取り組みについての情報交換
- ・フォローアップ研修の他都道府県の取り組みの紹介

#### 5. 2023 年度に行った支援内容・支援先の一覧 (2024 年 2 月末時点)

支援内容	都道府県
ピア・サポーター養成研修の実施	埼玉、香川、長崎、神奈川
ピア・サポーターフォローアップ研修会の実施	埼玉、香川、長崎、群馬、徳島
行政・医療従事者向け研修会の実施	高知
意見交換会の実施	神奈川、栃木、埼玉、群馬、香川、福井、山口、徳島
テキスト、講義動画等の資材提供	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">都道府県</div> 埼玉、香川、兵庫、福岡、青森、東京、福井、京都、静岡、秋田、新潟、徳島、山口、愛知、北海道、岩手 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">地域統括相談支援センターや類似組織</div> 島根、千葉、沖縄、熊本、宮城、山形、三重、富山
相談対応、情報交換	兵庫、福岡、茨城
がん診療連携拠点病院、患者会・個人からの問い合わせ対応、情報交換、資材提供	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">がん診療連携拠点病院等の医療機関</div> 7カ所 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">患者会、個人</div> 10カ所

6. 委託事業の5か年の支援(令和元年度～令和5年度)

ピア・サポーター養成研修、フォローアップ研修開催の支援	
養成研修未実施だったが研修会実施に至った。または研修前段階の講演を開いた。	(R1) (R2)長崎 (R3)栃木 (R4)栃木、香川 (R5)神奈川県
研修が中断していたところ養成の再開、標準プログラムでの研修実施に至った	(R1)三重、奈良 (R2) (R3) (R4) (R5)埼玉
フォローアップ研修会未実施だったところ研修会実施に至った	(R1) (R2) (R3)長崎 (R4)長崎 (R5)埼玉、香川、長崎
運営協力を行った(研修プログラムの相談、フォローアップ研修会への講師参加)	(R1)奈良、宮城、熊本、群馬 (R2) (R3)兵庫、山形、石川 (R4)茨城 (R5)兵庫、福岡、茨城
標準プログラムの送付を行い、養成研修やフォローアップ研修会実施を支援(テキストの送付、動画提供)	(R1) (R2)秋田、山形、群馬、富山、愛媛、広島、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、沖縄、 (R3)千葉、兵庫、佐賀、熊本、沖縄 (R4)茨城、福岡、熊本、沖縄、兵庫、群馬 (R5)青森、富山、福岡、長崎、埼玉、三重、宮城、山形、千葉、兵庫、香川、熊本、沖縄、島根
医療者との連携・構築支援 県に対して医療者との連携の必要性、研修会を設けることを助言。拠点病院内の相談員、患者サロン関係者を招集し、講義のみではなく、病院間の情報交換の時間も併せて設けるよう助言した。	
医療者向けの研修、行政・医療者を含めた意見交換会を実施した	(R1)岩手、山口、沖縄、長崎、群馬、熊本 (R2)宮城 (R3)福岡、香川、栃木、長崎、沖縄 (R4) (R5)高知
行政への施策の助言 各自治体の個別の問題に対しての助言。(ピア・サポート事業がほとんど進んでいない県に対しては何から取り組み始めるべきかを提案した。すでにピア・サポート事業が行われている県に対しては、医療者との関わりがない県も多く運営体制の見直しなどを助言した)	
行政との意見交換会を実施した	(R1)福岡、山梨、埼玉、高知、香川、島根、鹿児島 (R2) (R3)高知、栃木 (R4)宮崎、高知 (R5)神奈川県、栃木、埼玉、群馬、香川、福井、山口、徳島

各種相談対応(委託先、患者団体との対応を含む。4年間の集計)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換会等の開催提案、助言</li> <li>・他都道府県での取り組みの紹介</li> <li>・テキスト等資料の送付</li> <li>・情報交換</li> </ul>	<p>都道府県庁・地域統括相談支援センター・委託先団体  青森、岩手、宮城、秋田、茨城、栃木、群馬、埼玉、神奈川、  新潟、富山、山梨、長野、滋賀、三重、兵庫、広島、山口、岡  山、愛媛、香川、福岡、大分、長崎、熊本、佐賀、鹿児島</p> <p>がん診療連携拠点病院等の医療機関 のべ30カ所</p> <p>患者会、個人 のべ24カ所</p>



# VI.がん患者に対するピア・サポート体制に関する 都道府県調査

改訂委員会委員長 小川 朝生  
国立がん研究センター 東病院 精神腫瘍科

## A. 目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基礎的な心理社会的な支援の一形式である。

がん対策推進基本計画(第4期)が策定され、各都道府県は、それぞれの都道府県がん対策推進計画の作成を進められている。本事業では、上記の活動を支援するために、各都道府県への情報提供を行った。

その一環として、各都道府県におけるピア・サポート研修の実施状況や行政と医療機関との協力体制に関する現状を把握することを目的に、厚生労働省健康局(現:健康・生活衛生局)がん・疾病対策課の協力を得て、各都道府県に対してアンケート調査を実施した。

## B. 経過

全都道府県のがん対策の担当部署を対象に、ピア・サポートに関する取組み状況についての自記式アンケート調査を実施した。

実施時期は2023年5月31日(水)～7月28日(金)でおこない、46の都道府県担当部署より回答を得た。

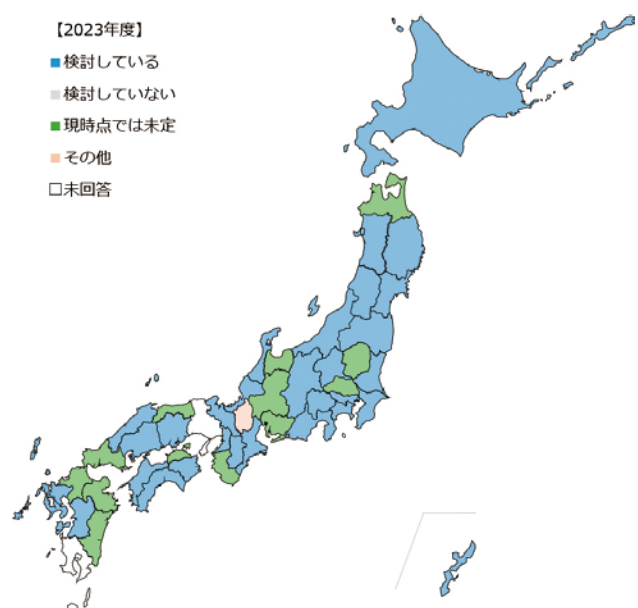
## 回答結果

アンケートの各項目の結果は以下の通りであった。

## (1) 第4期都道府県がん対策推進計画におけるピア・サポートに関する項目の目標設定について

令和5年度に策定される第4期都道府県がん対策推進計画において、ピア・サポートや患者サロン等に関する項目を入れることを検討している都道府県は31都道府県であった。

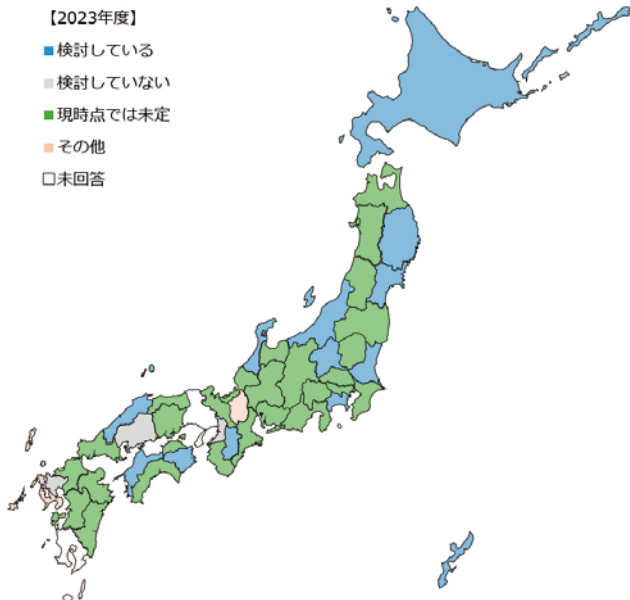
問3(1)*新たに策定する都道府県がん対策推進計画の中で、ピア・サポートや患者サロン等の場に関する項目を入れることを検討していますか	数	割合
1. 検討している	31	66.0%
2. 検討していない	0	0%
3. 現時点では未定	13	27.7%
4. その他	1	2.1%
未回答	2	4.6%
<b>総計</b>	<b>47</b>	<b>100.0%</b>



(2) 第4期都道府県がん対策推進計画におけるピア・サポートに関する項目の目標設定について

2023年度に策定される第4期都道府県がん対策推進計画の、ピア・サポートや患者サロン等に関する項目に、国の第4期がん対策推進基本計画で示されたロジックモデルを元にした数値目標の設定を検討している都道府県は13都道府県、検討していない都道府県は3都道府県、現時点では未定の都道府県が27都道府県であった。

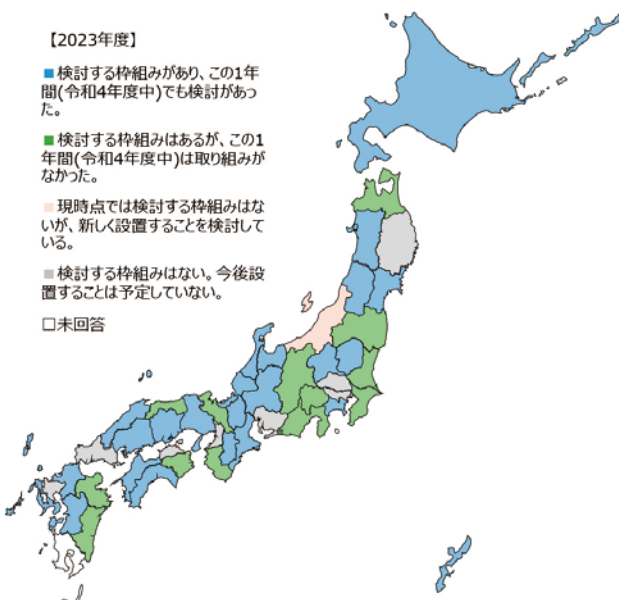
問3(2)* 新たに策定する都道府県がん対策推進計画のピア・サポートや患者サロン等の場に関する項目に、ロジックモデルをもとにした数値目標の設定は検討していますか。	数	割合
1. 検討している	13	27.7%
2. 検討していない	3	6.4%
3. 現時点では未定	27	57.4%
4. その他	2	4.3%
未回答	2	4.3%
<b>総計</b>	<b>47</b>	<b>100.0%</b>



(3) 都道府県がん診療連携協議会、部会等でのピア・サポートについての検討状況

都道府県のがん診療連携協議会等の場で、ピア・サポートについて、検討する枠組みがあり2022年度中に検討があった都道府県は24都道府県であった。検討する枠組みはない都道府県が8都道府県あった。

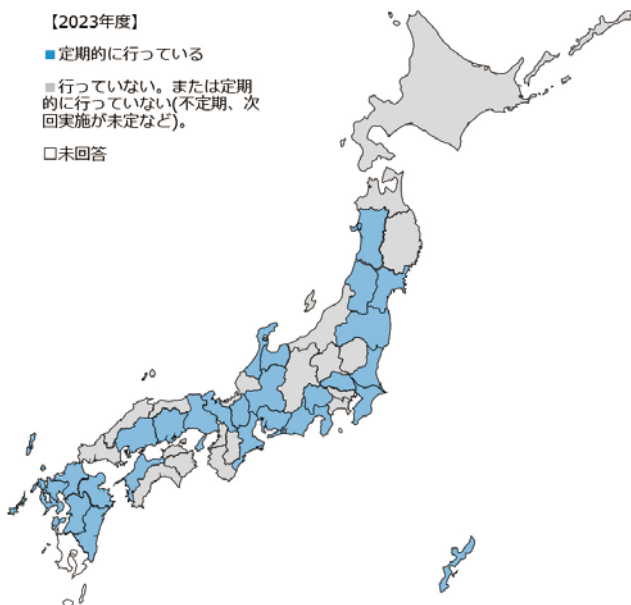
問4(1)* 都道府県がん診療連携協議会、部会等で都道府県内のピア・サポートについて検討する枠組みはお持ちですか。	数	割合
1. 検討する枠組みはない。今後設置することは予定していない。	8	17.0%
2. 現時点では検討する枠組みはないが、新しく設置することを検討している。	1	2.1%
3. 検討する枠組みはあるが、この1年間(令和4年度中)は取り組みがなかった。	13	27.7%
4. 検討する枠組みがあり、この1年間(令和4年度中)でも検討があった。	24	51.1%
未回答	1	2.1%
<b>総計</b>	<b>47</b>	<b>100.0%</b>



(4) ピア・サポーター養成研修会の定期的な開催状況

都道府県がピア・サポーターの養成を目的とした研修会を定期的に行っている都道府県は27都道府県あった一方、行っていない都道府県が19都道府県あった。

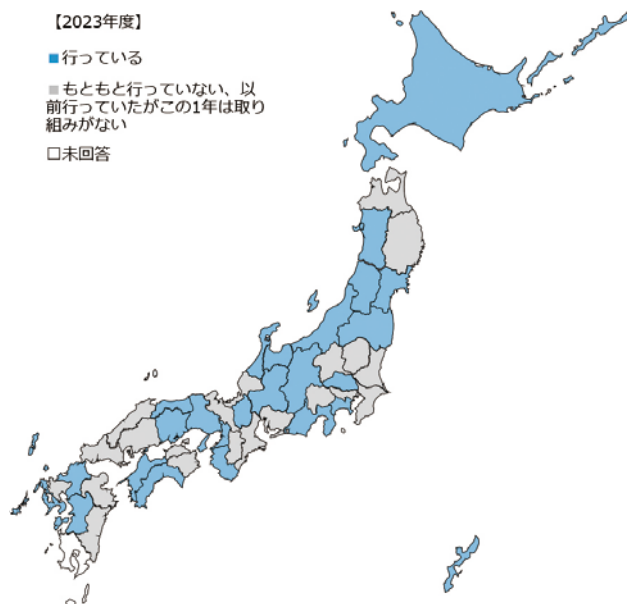
問 4(2)* ピア・サポーター養成研修会は定期的に行っていますか。この1年での取り組みについて教えてください。	数	割合
1. 行っていない。または定期的に行っていない(不定期、次回実施が未定など)。	19	40.4%
2. 〇年に1回など定期的に行っている。	27	57.4%
未回答	1	6.4%
<b>総計</b>	<b>47</b>	<b>100%</b>



(5) 患者サロン同士の連携や情報共有

患者サロン同士の連携の場や情報共有を行っている都道府県は25都道府県ある一方、定期的な取り組みはしていない都道府県が21都道府県あった。

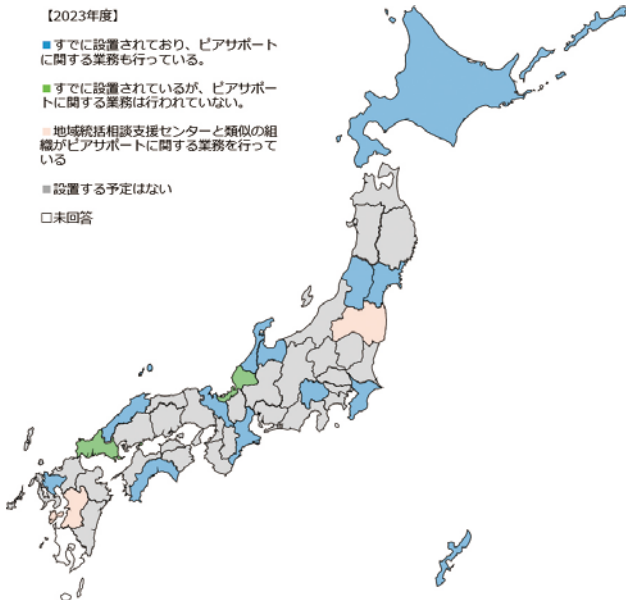
問 4(3)* がん診療連携拠点病院等で実施する患者サロン同士の連携や情報共有は行っていますか。この1年での取り組みについて教えてください。	数	割合
1. もともに行っていない。または以前行っていたがこの1年は取り組みがない。今後取り組む予定はない。	21	44.7%
2. 行っている。	25	53.2%
未回答	1	2.1%
<b>総計</b>	<b>47</b>	<b>100%</b>



(6) 地域統括相談支援センターを設置する予定

ピア・サポーターの養成等マネジメントを担ううえで活用の望まれる地域統括相談支援センター（ないしは、類似する機能を持つ組織）について、設置している都道府県は 17 都道府県あり、そのうちの 13 都道府県はピア・サポートに関する業務も行っていた。

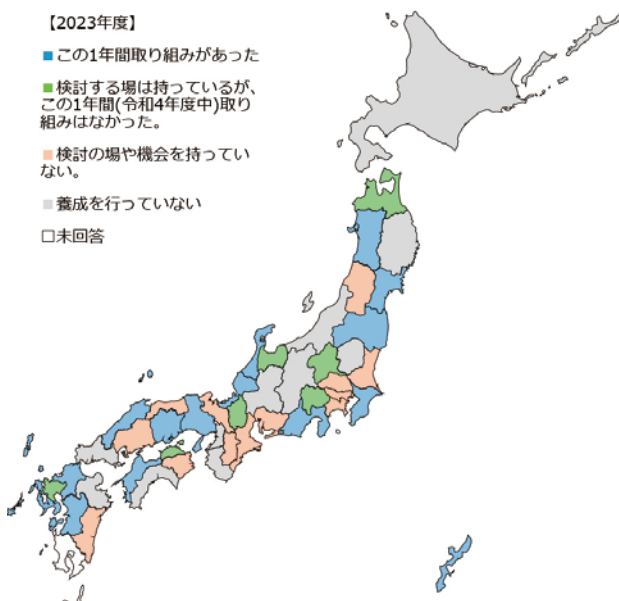
問 4(4)*地域統括相談支援センターを設置する予定はありますか。	数	割合
1. 設置する予定はない	29	61.7%
2. 設置する予定がある	0	0%
3. すでに設置されており、ピア・サポートに関する業務も行っている。	13	27.7%
4. すでに設置されているが、ピア・サポートに関する業務は行われていない。	2	4.3%
5. 地域統括相談支援センターと類似の組織がピア・サポートに関する業務を行っている	2	4.3%
未回答	1	2.1%
<b>総計</b>	<b>47</b>	<b>100.0%</b>



(7) ピア・サポーター養成研修会の内容について、がん診療連携拠点病院と検討する機会

ピア・サポーター養成研修会を実施したことがある 34 都道府県のうち、ピア・サポーターの養成研修会のプログラム等に関し、がん診療連携拠点病院の医療従事者との検討について、この 1 年間で検討があった都道府県は 15 都道府県あった一方、この 1 年間で取組みがあった都道府県は 7 都道府県であった。養成をしていない、あるいは検討の場や機会のない都道府県は 12 都道府県であった。

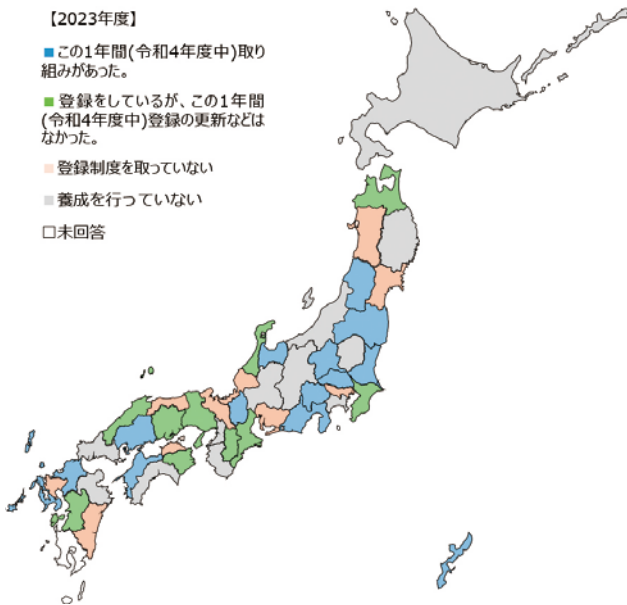
問 4(5) ピア・サポーター養成研修会の内容について、がん診療連携拠点病院等と検討する機会をお持ちですか。	数	割合
1. 検討の場や機会を持っていない。	12	35.3%
2. 検討する場は持っているが、この 1 年間(令和 4 年度中)取組みはなかった。	7	20.6%
3. この 1 年間(令和 4 年度中)取組みがあった。	15	44.1%
<b>総計</b>	<b>34</b>	<b>100%</b>



(8) 登録されたピア・サポーターの登録体制

ピア・サポーター養成研修会を実施したことがある34都道府県のうち、ピア・サポーターの養成後のマネジメントの基本となる登録制度について、登録制度を取っているのは24都道府県、そのうちこの1年間で取り組みがあった都道府県は14都道府県であった。

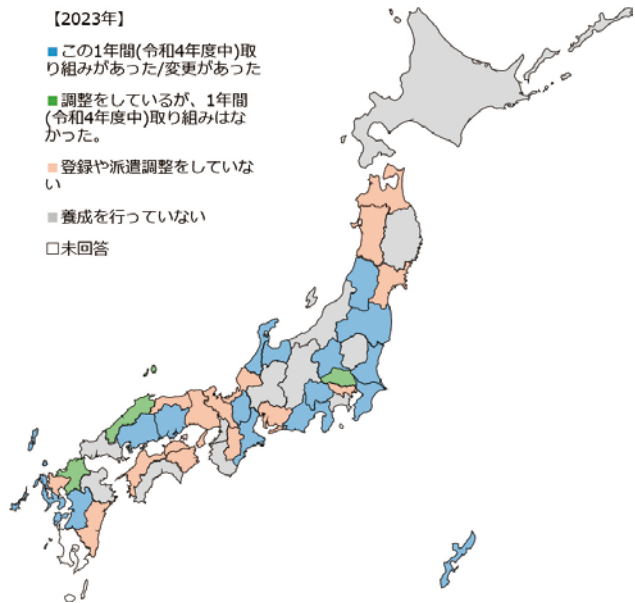
問 4(6) ピア・サポーターの登録制度はありますか。	数	割合
1. 登録制度を取っていない	10	29.4%
2. 登録をしているが、この1年間(2022年度中)登録の更新などはなかった。	10	29.4%
3. この1年間(2022年度中)取り組みがあった。	14	41.2%
<b>総計</b>	<b>34</b>	<b>100%</b>



(9) 登録されたピア・サポーターに活動の場を提供するための調整（患者サロンへの派遣、紹介など）

ピア・サポーター養成研修会を実施したことがある34都道府県のうち、この1年間(2022年度)で、養成したピア・サポーターをがん診療連携拠点病院等へ派遣する等のマネジメントを行った都道府県は16都道府県であった。

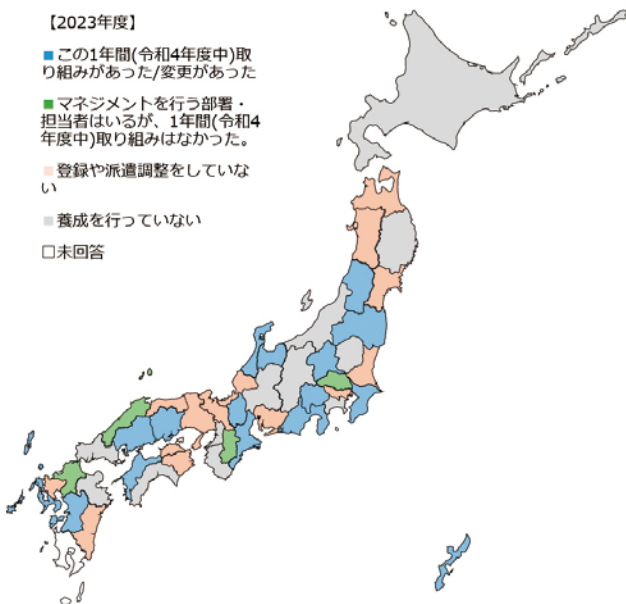
問 4(7) 登録されたピア・サポーターに活動の場を提供するための調整は行っていますか(例：患者サロンへの派遣、紹介など)。	数	割合
1. 登録や派遣や紹介などの活動の調整をしていない。	15	44.1%
2. 活動の調整をしているが、1年間(2022年度中)派遣や紹介などの取り組みはなかった。	3	8.8%
3. この1年間(2022年度中)取り組みがあった。	16	47.1%
<b>総計</b>	<b>34</b>	<b>100%</b>



(10) 登録されたピア・サポーターの教育、管理などのマネジメントを全般的に行う部署・担当者(もしくは行政以外の他機関)

ピア・サポーター養成研修会を実施したことがある34都道府県のうち、ピア・サポーターの養成から活用までを担う部署を定めている都道府県は20都道府県、そのうち16都道府県はこの1年間(2022年度)で取り組みがあった。

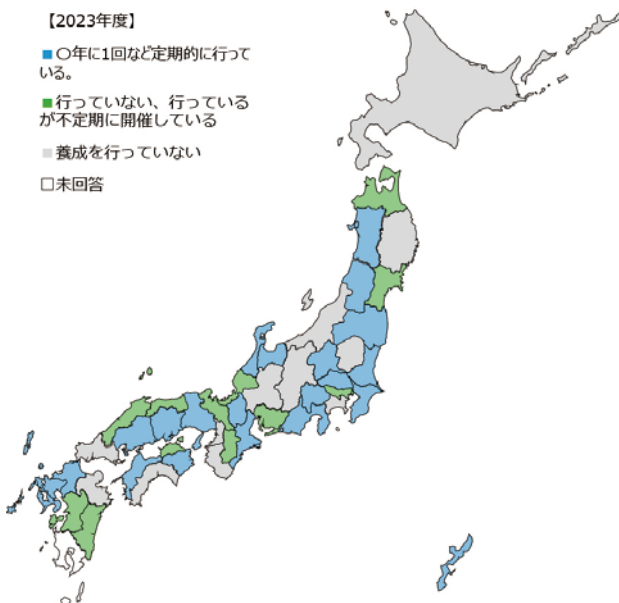
問 4(9) 登録されたピア・サポーターの教育、管理などのマネジメントを全般的に行う部署・担当者(もしくは行政以外の他機関)は定まっていますか。	数	割合
1. 登録や派遣や紹介などの活動の調整をしていない。	14	41.2%
2. マネジメントを行う部署・担当者はいるが、この1年間(2022年度中)取り組みはなかった。	4	11.8%
3. この1年間(2022年度中)取り組みがあった。	16	47.1%
<b>総計</b>	<b>34</b>	<b>100%</b>



(11) フォローアップ研修会の定期的な開催

ピア・サポーター養成研修会を実施したことがある34都道府県のうち、ピア・サポートの質を担保するために重要となるフォローアップ研修に関して、定期的に研修を実施している都道府県は22都道府県であった。

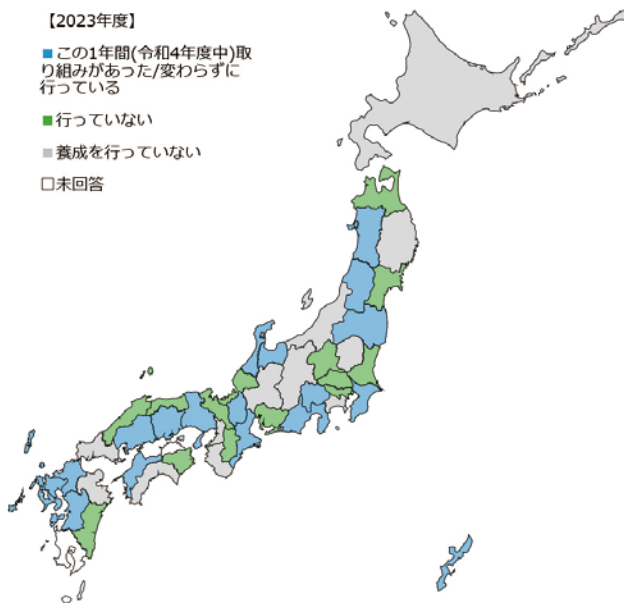
問 4(11) フォローアップ研修会は定期的に行っていますか。	数	割合
1. 行っていない。または定期的に行っていない(不定期、次回実施が未定など)。	12	35.3%
2. 〇年に1回など定期的に行っている。	22	64.7%
<b>総計</b>	<b>34</b>	<b>100%</b>



(12) ピア・サポーターの質の担保のための振り返りの取り組み

同じく、ピア・サポートの質を維持・向上させる上で、振り返りの機会を作ることは重要である。ピア・サポーター養成研修会を実施したことがある34都道府県のうち、この1年間(2022年度中)で何らかの質の担保に取り組んでいる都道府県は19都道府県あった。

問 4(12) 活動の振り返りなどを行い、ピア・サポーターの質の担保に取り組んでいますか。	数	割合
1. 行っていない。または以前行っていたが現在行っていない。	14	41.2%
2. この1年間(2022年度中)取り組みがあった。	19	55.9%
無回答	1	2.9%
<b>総計</b>	<b>34</b>	<b>100%</b>

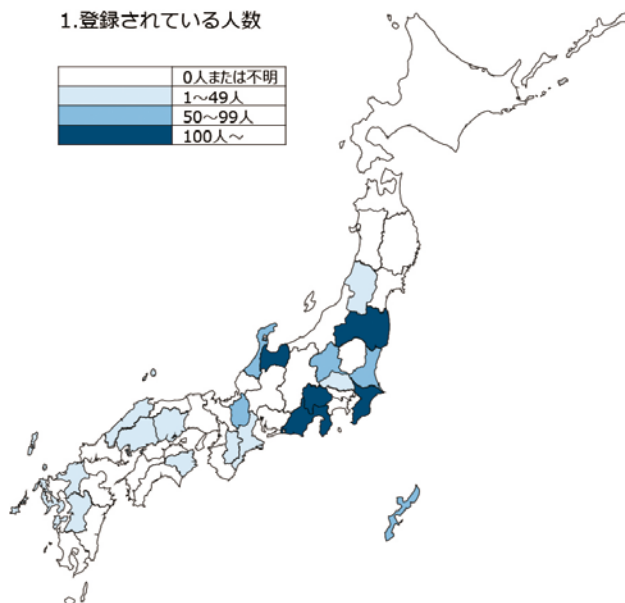


(13) ピア・サポーターとして登録されている人数、実際に活動している人数

ピア・サポーターの登録制度を持っている県において、登録されている人数、そのうち実際に活動している人数については、都道府県ごとの制度の違いはあるものの、100名以上の登録の出ている都道府県もあった。

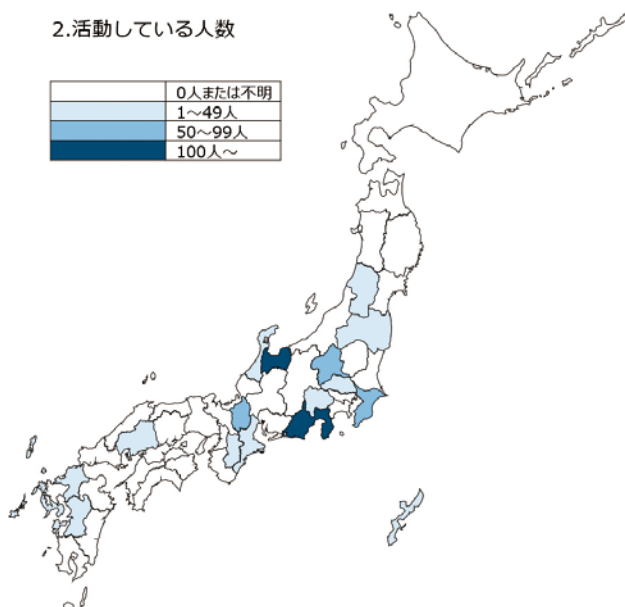
1. 登録されている人数

	0人または不明
	1~49人
	50~99人
	100人~



2. 活動している人数

	0人または不明
	1~49人
	50~99人
	100人~

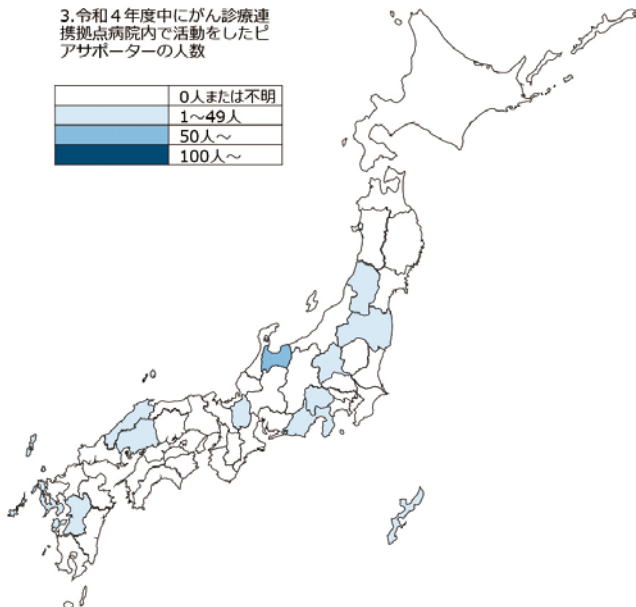


(14) ピア・サポーターの活動場所

ピア・サポーターが活動する場として、がん診療連携拠点病院等を挙げた都道府県は20都道府県、都道府県庁等公共の機関を挙げた都道府県は4都道府県、オンライン上と挙げた都道府県は14都道府県だった。

3. 令和4年度中にがん診療連携拠点病院内で活動をしたピアサポーターの人数

0人または不明
1～49人
50人～
100人～



ピア・サポーターの活動場所（複数回答可）	数
がん診療連携拠点病院等	20
都道府県庁等公共の機関	4
オンライン上	14
その他（地域の患者会、がん教育など）	18

【がん診療連携拠点病院】が活動場所と挙げた県

20都府県



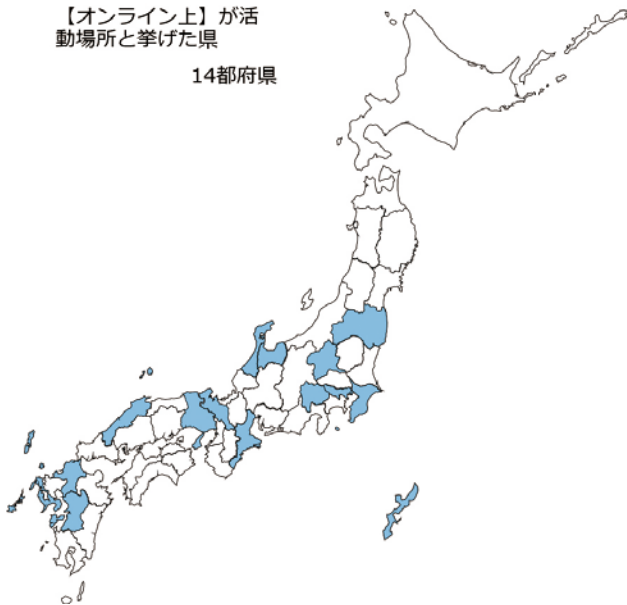
【都道府県庁等の公共機関】が活動場所と挙げた県

4県

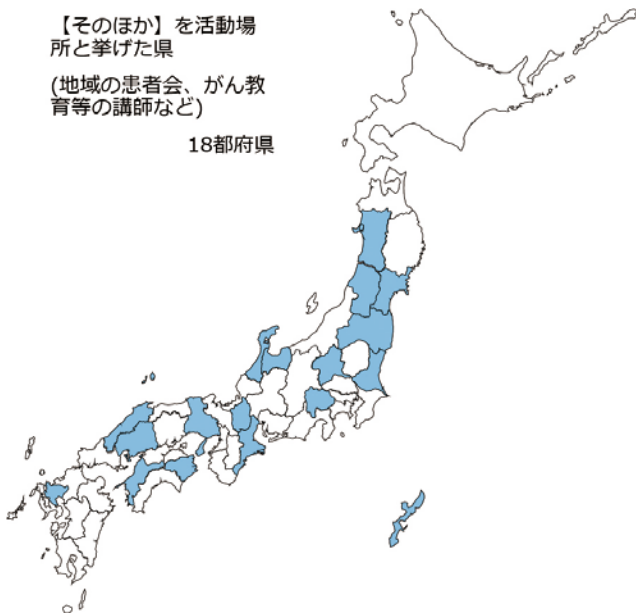




【オンライン上】が活動場所と挙げた県  
14都府県



【そのほか】を活動場所と挙げた県  
(地域の患者会、がん教育等の講師など)  
18都府県



### C. 考察

今回、都道府県のがん対策担当部署を対象に、ピア・サポートに関する各県の取組みの状況をたずね、46 都道府県より回答を得た。

- 都道府県がん対策推進計画でピア・サポートに関して目標を設置しているのは 31 都道府県(66.0%)で、ロジックモデルをもとにした数値目標を検討している都道府県は 13 都道府県(27.7%)であった。
- 都道府県がん診療連携協議会等で定期的にピア・サポートに関する検討が行われているのは 24 都道府県(51.1%)であった。またピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した 34 都道府県のうち、養成研修の内容を拠点病院等と定期的に検討する機会を設定しているのは 15 都道府県(44.1%)であった。
- がん診療連携拠点病院内の患者サロン同士の連携や情報共有が定期的に行われているのは 25 都道府県(53.2%)であった。
- ピア・サポーター養成研修会が定期的に行われているのは 27 都道府県(57.4%)であった。
- ピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した 34 都道府県のうち、養成したピア・サポーターを対象に登録制度を取っているのは 24 都道府県(70.6%)、ピア・サポーター活動の調整を行っているのは 19 都道府県(55.9%)であった。登録されたピア・サポーターのマネジメントを担う部署等が決まっているのは 20 都道府県(58.9%)であった。
- フォローアップ研修を定期的に行っているのは 22 都道府県(64.7%)、活動する都度振り返りを行っている体制を整備しているのは 19 都道府県(55.9%)であった。

ピア・サポートの養成・活用には、行政と医療機関との密な連携のもとに、目標の設定と事業の遂行が求められる。しかし、都道府県がん診療連携協議会等のもとに、ピア・サポートの養成や継続研修、活用について定期的に検討する場をもつ都道府県は、第 4 期がん対策推進基本計画の策定後でも全ての都道府県には行き渡っていなかった。今後、その必要性を明確にし、その地域のニーズに合った実施体制を組むことが重要である。あわせて、ピア・サポートの活動を推進するために、研修プログラムに沿った研修を実施すると共に、その後の継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制についても構築する必要がある。

## Ⅶ.資料集

1. ピア・サポーター養成研修会 開催指針
2. ピア・サポーター養成テキスト 2023 年度版
3. 各都道府県のがん対策推進計画 策定状況
4. がんサポートグループ企画運営者のための研修会(2023 年 11 月 3 日) フライヤー
5. がんサポートグループ企画運営者のための研修会(2024 年 2 月 10 日) フライヤー
6. がんサポートグループ企画運営者のためのフォローアップ研修会(2023 年 11 月 23 日) フライヤー

## 1. ピア・サポーター養成研修会 開催指針

### ピア・サポーター養成研修会の開催指針

一般社団法人 日本サイコオンコロジー学会

#### 第1 趣旨

本指針は、がん対策基本法の基本理念に「がん患者が尊厳を保持しつつ安心して暮らすことのできる社会の構築を目指し、がん患者が、その置かれている状況に応じ、適切ながん医療のみならず、福祉的支援、教育的支援その他の必要な支援を受けることができるようにするとともに、がん患者に関する国民の理解が深められ、がん患者が円滑な社会生活を営むことができる社会環境の整備が図られること。」が掲げられていることを踏まえ、自身もしくは家族としてがんを体験し、ピア・サポーターを目指す者に対して実施するピア・サポーター養成研修会（以下、研修会）に関する事項を定めたものである。研修会の質の確保を図り、ピア・サポートに関する基本的な知識と技能の確保に資することを目的とするものである。なおこの指針は厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修事業（平成30年度～令和5年度）」の一環として作成されているため、この研修会を修了したピア・サポーターが、がん診療連携拠点病院等の医療機関内で活動することを主な目的とし、相談員としての訓練が十分でなくても自分の体験を生かして行うピア・サポーターの養成を対象とした研修会の開催指針である。そのため、患者会などが主体になり地域等で活動を行うことを想定した研修会や、相談員として利用者の幅広い相談への対応を行えるピア・サポーター（ピア・スペシャリスト）を養成するための研修会の開催指針ではないことを留意されたい。

#### 第2 ピア・サポーター養成研修会の開催指針

##### 1 ピア・サポーター養成研修会の実施主体

都道府県、当該都道府県内のがん診療連携拠点病院等や地域統括相談支援センター、がん患者団体等の民間団体等が協力し実施すること。

##### 2 ピア・サポーター養成研修会を行う上で設置する者について

次に掲げる者で構成される研修会実施担当者が、研修会の企画、運営、進行等を行うこと。

##### ①研修会主催責任者 1名以上

※研修会を主催する責任者、修了書を発行する場合に主催者として記載される者

※②との兼務も可

## ②研修会企画責任者 1名以上

※企画、運営、講義、進行等を行う責任者

## ③研修会協力者 ロールプレイの1グループ当たり1名以上

※企画、運営、講義、進行等に協力する者

※研修会を修了した者又はこれと同等以上の能力を有する者。医療従事者（多職種）、ピア・サポート経験者で構成されることが望ましい。

## 3 ピア・サポーター養成研修会の研修対象者

自身もしくは家族としてがんを体験し、同じような病気を患う患者、家族に対してサポートを行おうとする者を対象とする。

また、がん診療連携拠点病院等で実施されるピア・サポート活動や患者サロン活動等に携わる医療従事者も受講、見学したり、研修会協力者として参加したりすることが望ましい。

## 4 ピア・サポーター養成研修会の開催形式

ピア・サポーター養成研修会は、講義形式、ワークショップ（参加者主体の体験型研修）形式を組み合わせ実施すること。なお、状況に応じてオンライン上で実施することも可能である。

## 5 ピア・サポーター養成研修会の開催期間

実質的な講習時間の合計は、2時間10分以上であることが望ましい（→下記、標準プログラムの一般的な時間配分を参照して計画すること）。分割して開催する場合には、研修内容の一貫性に配慮すること。

## 6 ピア・サポーター養成研修会のプログラム

プログラムには、次の（i）に掲げる項目を必ず含むこととし、受講生の学習ニーズや地域の実情に応じて、（ii）（iii）に掲げる項目を組み合わせるものとする。

注）プログラム名は日本サイコオンコロジー学会で作成した標準プログラム、スライドに準拠して記載。スライド内容は各地域の実情に応じて変更してかまわないが、その際はオリジナルスライドであることが明確にわかるようにすること。

（i）次に掲げる内容を必ず含むこと。

（ア）ピア・サポートとは（ピア・サポーターの活動内容、形態の多様性を学ぶもの）

【30分】

（イ）相手を大切にすること、自分を大切にすること（バウンダリーについて学ぶもの）

【40分】

(ウ) ピア・サポーターの役割と活動指針（守秘義務や医療行為そのものに介入しないことなど、医療機関でピア・サポートを行う際に注意すべき点を学ぶもの）【60分】

(ii) 次に掲げる内容を、なるべく取り入れること。

(ア) 自分の体験を語る（自分の体験を言葉として振り返り、体験を整理しておくことの大切さを学ぶもの）【1人あたり3分程度+振り返り2分程度】

(イ) ロールプレイ（実際に相談対応を経験するもの）【120分】

(ウ) よりよいコミュニケーションのために（ピア・サポーターが身に付けておくべき基本的コミュニケーションスキルを学ぶもの）【40分】

(エ) がん診療の基本知識（ピア・サポート活動に際し、最低限知っておくべきがん医療情報を学ぶもの）【50分】

(オ) ピア・サポーターが知っておくとよい情報、情報提供の注意点（困った時に相談できる場所、詳しい情報や最新の情報をどこで手に入れ、どのように提供するかを学ぶもの）【30分】

(iii) 次に掲げる内容を、学習ニーズや地域の実情に応じて設定するものとする。

(ア) グループファシリテーションのために（患者サロン（がんサロン）、サポートグループ等の運営方法について学ぶもの）【40分】

(イ) 行政・医療機関の役割について学ぼう（ピア・サポーターが活動する上での、行政や医療機関の役割について学ぶもの）【40分】

## 6 ピア・サポーター養成研修会の修了証書

ピア・サポーターが医療機関で活躍しやすくするため、研修を修了したことを示す修了証書を発行することが望ましい。

## 7 その他

(1) ピア・サポーター養成研修会開催マニュアルについて

研修会のテーマやプログラム構成、各プログラムの学習目的や進め方については日本サイコオンコロジー学会で作成した「ピア・サポーター養成研修会開催マニュアル」を参考にする。

(2) 学習の継続

養成研修だけでなく、継続的な研修（フォローアップ研修会等）を実施し、ピア・サポーターのスキルアップ、学習機会の確保、ピア・サポーターのストレスマネジメント促進に努めること。

### 第3 ピア・サポーターが継続した活動を行うために

研修会を修了したピア・サポーターが、がん診療連携拠点病院等で継続した活動を行うためには、都道府県（自治体）、都道府県内のがん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院）、都道府県がん対策推進協議会やがん診療連携協議会等の協議体等との連携が欠かせない。

#### (1) 都道府県（自治体）の役割について

都道府県（自治体）は、拠点病院等におけるピア・サポート活動を推進するために、ピア・サポーターを養成するとともに、継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制を整備することが求められる。

#### (2) 協議体と拠点病院の役割について

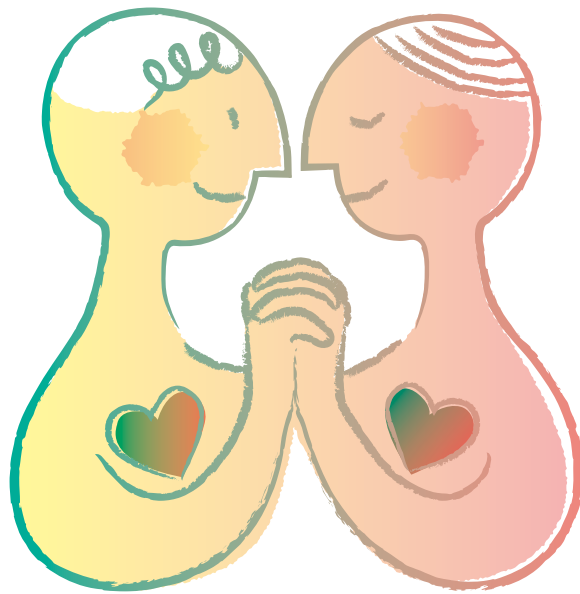
都道府県（自治体）と都道府県がん対策推進協議会やがん診療連携協議会等の協議体は、都道府県がん対策推進計画にピア・サポーターの養成・活用に関する計画を策定し、他の拠点病院等は検討段階から主体的に参画する。具体的には、ピア・サポーターの活動の場の設定、養成研修会の企画・開催、拠点病院等での活用計画の策定、登録制度・派遣を含めた活用制度、定期的な更新制度の構築、継続的な研修（フォローアップ研修等）の企画・開催に関する計画を立てることが求められる。

#### (3) 各拠点病院等の役割について

各拠点病院等は、ピア・サポート活動の意義を理解し、都道府県（自治体）や各拠点病院等と協力して計画を立て、ピア・サポート活動の支援を行うことが求められる。具体的には、施設内においてピア・サポート活動や患者サロン活動を推進する部署・担当者を明確に定め、それらの活動計画を立案し、研修を修了したピア・サポーターや、十分な経験を持つ患者団体等と連携し患者サロンの企画・運営を行うことなどが求められる。

# Ⅶ

## ピア・サポート活動を 広く推進するために 自治体と医療者ができること



## A はじめに

この章では、自治体(国や都道府県)と医療者(おもにがん診療連携拠点病院など)が、ピア・サポート活動を広く進めていくための国の施策やピア・サポート活動の仕組みについて解説します。詳細な情報は参考資料として掲載していますので、参考にしてください。

## B 要旨

- がん患者・家族にとって、同じような経験をもつ者によるサポートおよび患者同士の体験共有ができる場の存在は重要。
- 都道府県等は、ピア・サポート研修を行い、ピア・サポーターを養成しているが、がん診療連携拠点病院での活動実績は不十分。

## C これまでのピア・サポート活動について

各地域やがん診療連携拠点病院等でさまざまなピア・サポートや患者サロン活動(患者会の活動なども含みます)が行われ、がん患者・家族へ豊かな支援活動が提供されています。一方、2018(平成30)年度に、院内がん登録全国集計参加施設で初回がん治療を開始された患者さんを対象に実施された患者体験調査<sup>1)</sup>では、ピア・サポーターについて知っているがん患者の割合は27.3%であり、そのうち利用したことがある人の割合は6.4%と、認知度・利用度が不十分であることが明らかとなりました。

2023(令和5)年3月に閣議決定された「第4期がん対策推進基本計画」では、ピア・サポーターについて、分野別施策の「がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築」の「(1)相談支援及び情



報提供]の「①相談支援について」の項に(取り組むべき施策)として、「国は、拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の構築について検討する。あわせて、相談支援の一層の充実を図るため、ICTや患者団体、社会的人材リソースを活用し、必要に応じて地方公共団体等の協力が得られる体制整備の方策について検討する。」「国は、がん患者がピア・サポーター等からの支援を受けやすくなるよう、相談支援等に携わる者からピア・サポーター等につなげるための仕組みについても検討する。」こととされました。

がん総合相談に携わる者に対する研修事業において、ピア・サポートに関する現状調査や都道府県などとの意見交換などを行いました。その結果、ピア・サポートを普及させるためには、自治体が行う事項と、がん診療連携拠点病院等が行う事項があると考えました。

がん診療連携拠点病院等では、がんのサバイバーシップを支援するさまざまなリソースを整備・提供する事が求められています(「がん診療連携拠点病院等の整備について」<sup>2)</sup>)。その一つに、ピア・サポートがあります。

がん診療に訪れるがん診療連携拠点病院等で、ピア・サポートや患者サロンに関する情報やピア・サポートを受ける機会を得られるでしょう。また、そういった機会に触れたことをきっかけに、ピア・サポーターとして活動してみたいという気持ちになるかもしれません。同時に、ピア・サポーターが支援を受けながらスキルアップの機会を得るには、がん診療連携拠点病院等で行われる「患者サロン」等は有効な機会と考えます。(表2)。

表2 なぜがん診療連携拠点病院でピア・サポートを支援するのか

First touch	がん患者さんの多くは何らかの形でがん診療連携拠点病院等を受診し、診断や治療を受けている。
Resource	がんサバイバーを支える、さまざまな情報や支援ががん診療連携拠点病院等で提供されている。
Expose	診療でがん診療連携拠点病院等を訪れる際に、ピア・サポートの情報や何らかの支援を受ける機会を得られる。
Recruit	がん診療連携拠点病院等でピア・サポーターとして活動するきっかけを得られる。
On the job training	経験の少ないピア・サポーターにとって、がん診療連携拠点病院等で受けられるピア・サポートや、患者サロンで、活動の場と支援を受けながらスキルアップができる機会を得られる。



## わが国のがん医療においてピア・サポートを広く推進するための提言

「令和4年度 がん総合相談に携わる者に対する研修事業 事業報告書」<sup>3)</sup>では、各都道府県、がん診療連携拠点病院等、それぞれの機関で取り組むべきことを整理し提言しました。皆さんが活動している地域には、各都道府県が独自に策定している「都道府県がん対策推進計画」があります。計画にこれらの項目があるか確認するのもよいでしょう。

### 1 自治体（都道府県）に求められる活動

- ピア・サポートの養成・活用計画を策定し実施するための協議体を設置する（新たな組織の設置または、都道府県がん診療連携協議会の相談支援部会や緩和ケア部会などの既存の枠組みに役割を位置付けることでもよいと考える）。
- 都道府県がん対策推進計画において、ピア・サポーターの養成・活用計画を立案する。

- 活動を進めるための予算を確保する。
- 都道府県内のがん診療連携拠点病院等と連携し、各がん診療連携拠点病院等や地域で開催されているピア・サポートや患者サロンに関する情報を収集し、ポータルサイト等を通じて発信するなど、がん患者・家族が希望する支援にたどり着けるよう取り組む。
- 患者サロンの活動について、都道府県内で情報共有の機会を設ける。

## 2 自治体と協議体(都道府県がん診療連携協議会等)で具体的に検討し実施すること

- ピア・サポーターの養成・活用を計画し運営する協議体をつくり、以下の具体的な計画を立てる。
  - ①ピア・サポーターの活動の場の設置
  - ②ピア・サポーター養成研修を企画・開催
  - ③がん診療連携拠点病院等での活用計画の策定
  - ④登録制度、派遣を含めた活用制度、定期的な更新制度の構築
  - ⑤継続的な研修(フォローアップ研修等)の企画・開催

## 3 協議体が実施すること

- 都道府県と都道府県がん診療連携拠点病院が中心的な役割を担い、他の地域がん診療連携拠点病院等は、これらの計画に検討段階から主体的に参画する。
- 一定の研修を受けたピア・サポーターを活用する、もしくは十分な経験を持つ患者団体等と連携した患者サロン活動を各がん診療連携拠点病院等が展開できるように、がん診療連携拠点病院等を支援する計画を立案し、実施する。
- 都道府県内の患者サロンの開催状態について、情報を収集し、がん診療連携拠点病院等の間で共有する。

## 4 がん診療連携拠点病院等が実施すること

- 医療機関内においてピア・サポートや患者サロンを推進する部署・担当者を明確に決める。がん相談支援センターの相談員に加え、医療機関内で患者支援や心理社会的支援を担っている緩和ケアチーム等との協力体制を整える。
- 患者サロンを企画・運営する組織を医療機関内につくる。
- 患者サロン活動やピア・サポート活動の計画を立てる。
- 一定の研修を受けたピア・サポーターや、十分な経験を持つ患者団体等と連携し、患者サロンの企画・運営を行う。
- 実務担当者は、ピア・サポーターのスキルアップ、燃え尽き防止などを目的とした、活動ごとの振り返り、スーパービジョンの実施などの支援を行う。
- 医療機関内で急ぎの対応のためのルート（精神科や緩和ケアチーム等との連携）を構築する。
- 院内スタッフを地域で開催されるピア・サポーター養成研修やフォローアップ研修に派遣し、開催を支援する。
- 医療機関内の患者サロンで活動するピア・サポーターに対して、ピア・サポーター養成研修やフォローアップ研修への参加を促し、質の担保を図る。

皆さんの地域で、自治体・がん診療連携拠点病院等・ピア・サポーターで協働して、三位一体の安定した構造が構築できたら素敵だと思います (図5)。

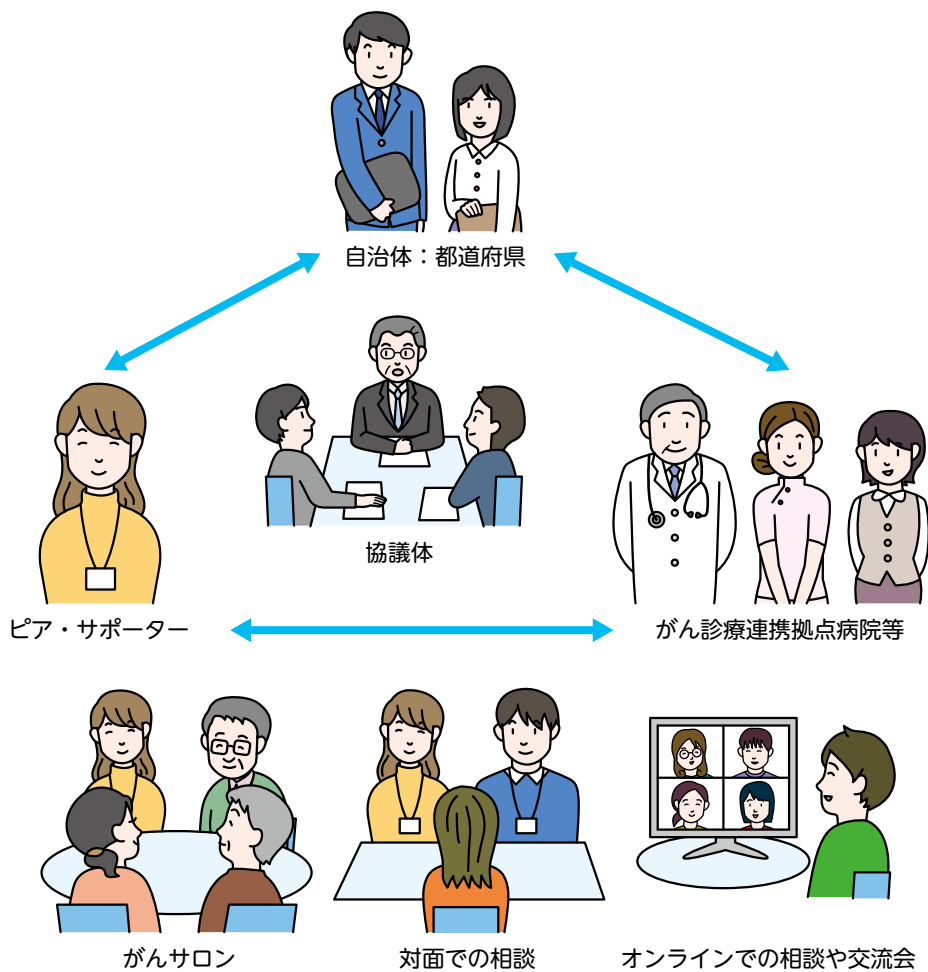


図5 三位一体の安定した構造



## 自治体・がん診療連携拠点病院等、地域の情報を活用する

自治体や医療機関ごとに、さまざまな形で地域に密着したがん対策やがん患者・家族へのサポートが行われています。

地域のがん情報は、国立がん研究センターがん情報サービス (<https://ganjoho.jp>) で得られます。具体的には、「制度やサービス」のページの中の「地域のがん情報」では、各都道府県が提供している情報を中心に、ホームページや冊子で公開されている各地域のがんに関する情報についてまとめてあります。関連情報サイトへのリンク

も掲載してあります。



## 適切ながん情報を得る

適切ながん情報は、国立がん研究センターがん情報サービス (<https://ganjoho.jp>) で得られます。また、学会の中には一般の方向けのウェブページを掲載しているところもあります(表3)。これ以外にも役に立つ情報を掲載したウェブページはあります。一方でウェブ上には不正確な情報や正確ではあるものの、自分の状況には合わない情報なども混在していますので、なるべく信頼できる情報発信元(国や自治体、がん診療連携拠点病院等など)を選ぶ、自分の状況を把握したうえで情報を検索するなどの工夫を心がけてください。

表3 信頼できるがん情報サイトの一例

がん情報サービス	<a href="https://ganjoho.jp">https://ganjoho.jp</a>
日本癌治療学会 患者・市民の皆さま	<a href="https://www.jsco.or.jp/public/">https://www.jsco.or.jp/public/</a>
日本対がん協会	<a href="https://www.jcancer.jp">https://www.jcancer.jp</a>
日本緩和医療学会 緩和ケア.net	<a href="https://www.kanwacare.net">https://www.kanwacare.net</a>
日本サイコオンコロジー学会 がん患者さんご家族のこころのサポートチーム	<a href="https://support.jpos-society.org">https://support.jpos-society.org</a>



## 参考資料

ピア・サポート活動を国がどのように捉えて、支援してきているかについてお話しいたします。法律や行政のお話なので興味のある方は目を通していただければ幸いです。

### 1 がん対策基本法

2006(平成18)年6月23日に「がん対策基本法」<sup>4)</sup>が成立しました。この法律では、がんが国民の生命と健康にとって重大な問題となっている現状を確認しました。対策のために、国、地方公共団体、医療保

険者、国民、医師等及び事業主の責務を明確にしました。「がん対策推進基本計画」を策定し、少なくとも5年(3期より6年)ごとに見直すこととしました。厚生労働省に「がん対策推進協議会」を置くことが定められました。画期的な点はがん患者およびその家族又は遺族を代表する者が委員として参加していることです。

2016(平成28)年12月9日には「がん対策基本法の一部を改正する法律」<sup>5)</sup>が成立しました(図6)<sup>6)</sup>。法律の目的を示す第一条に「がん

<b>1. 目的規定の改正(第1条)</b> 目的規定に「がん対策において、がん患者(がん患者であった者を含む。)がその状況に応じて必要な支援を総合的に受けられるようにすることが課題となっていること」を追加				
<b>2. 基本理念の追加(第2条)</b>				
①がん患者が尊厳を保持しつつ安心して暮らすことのできる社会の構築を目指し、がん患者が、その置かれている状況に応じ、適切ながん医療のみならず、福祉的支援、教育的支援その他の必要な支援を受けることができるようにするとともに、がん患者に関する国民の理解が深められ、がん患者が円滑な社会生活を営むことができる社会環境の整備が図られること	②それぞれのがんの特性に配慮したものとすること	③保健、福祉、雇用、教育その他の関連施策との有機的な連携に配慮しつつ、総合的に実施されること	④国、地方公共団体、医療保険者、医師、事業主、学校、がん対策に係る活動を行う民間の団体その他の関係者の相互の密接な連携の下に実施されること	⑤がん患者の個人情報保護について適正な配慮がなされるようにすること
<b>3. 医療保険者の責務・国民の責務の改正(第5条、第6条)</b>				
①医療保険者は、がん検診の結果に基づく必要な対応に関する普及啓発等の施策に協力するよう努力	②国民は、がんの原因となるおそれのある感染症に関する正しい知識を持ち、がん患者に関する理解を深めるよう努力			
<b>4. 事業主の責務の新設(第8条)</b> がん患者の雇用の継続等に配慮するとともに、がん対策に協力するよう努力				
<b>5. がん対策基本計画等の見直し期間の改正(第10条、第12条)</b> がん対策推進基本計画・都道府県がん対策推進計画の見直し期間を「少なくとも6年ごと」(現行は5年)に改正				
<b>6. 基本的施策の拡充</b>				
(1) がんの原因となるおそれのある感染症並びに性別、年齢等に係る特定のがん及びその予防等に関する啓発等(第13条)	(2) がんの早期発見の推進(第14条) ①がん検診によってがん罹患している疑いがあり、又は罹患していると判定された者が必要かつ適切な診療を受けることを促進するため、必要な環境の整備その他の必要な施策を明記 ②がん検診の実態の把握のために必要な措置を講ずるよう努力	(3) 緩和ケアのうち医療として提供されるものに携わる専門性を有する医療従事者の育成(第15条)	(4) がん患者の療養生活の質の維持向上に係る規定の改正(第17条) ①がん患者の状況に応じて緩和ケアが診断時から適切に提供されるようにすること ②がん患者の状況に応じた良質なリハビリテーションの提供が確保されるようにすること ③がん患者の家族の生活の質の維持向上のために必要な施策を明記	(5) がん登録等の取組の推進(第18条)
(6) 研究の推進等に係る規定の改正(第19条) ①がんの治療に伴う副作用、合併症及び後遺症の予防及び軽減に関する方法の開発その他のがん患者の療養生活の質の維持向上に資する事項を追加 ②罹患している者の少ないがん及び治療が特に困難であるがんに係る研究の促進についての必要な配慮を追加 ③がん医療に係る有効な治療方法の開発に係る臨床研究等が円滑に行われる環境の整備に必要な施策を明記	(7) がん患者の雇用の継続等(第20条)	(8) がん患者における学習と治療との両立(第21条)	(9) 民間団体の活動に対する支援(第22条)	(10) がんに関する教育の推進(第23条)

図6 がん対策基本法の一部を改正する法律の概要<sup>6)</sup>

対策においてがん患者（がん患者であった者を含む。以下、同じ。）がその状況に応じて必要な支援を総合的に受けられるようにすることが課題となっていること」が追加されました。これを受けて、第二十二条には、「国及び地方公共団体は、民間の団体が行うがん患者の支援に関する活動、がん患者の団体が行う情報交換等の活動等を支援するため、情報提供その他の必要な施策を講ずるものとする。」と明記されました。

2017（平成29）年度からを実行期間とする「第3期がん対策推進基本計画」<sup>7)</sup>では、ピア・サポーターの活動実績が不十分なことが指摘され、ピア・サポートについては、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析した上で、研修内容の見直しや、ピア・サポートの普及を図るとされました。

## 2 第4期がん対策推進基本計画

2023（令和5）年3月に「第4期がん対策推進基本計画」<sup>8)</sup>が閣議決定されました。第4期がん対策推進基本計画では、がん対策を全ての国民とともに進めていくことが重要であるという考えの下、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」が全体目標とされました。さらに「がんとの共生」分野の分野別目標として「がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築～がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す～」が掲げられました（図7）<sup>9)</sup>。ピア・サポーターについては、「相談支援及び情報提供」の「相談支援について」の項目に以下のように記載されています。

### （現状・課題）

がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、国は、都道府県におけるピア・サポーターの養成を推進してきた。また、



第4期がん対策推進基本計画(令和5年3月28日閣議決定)概要

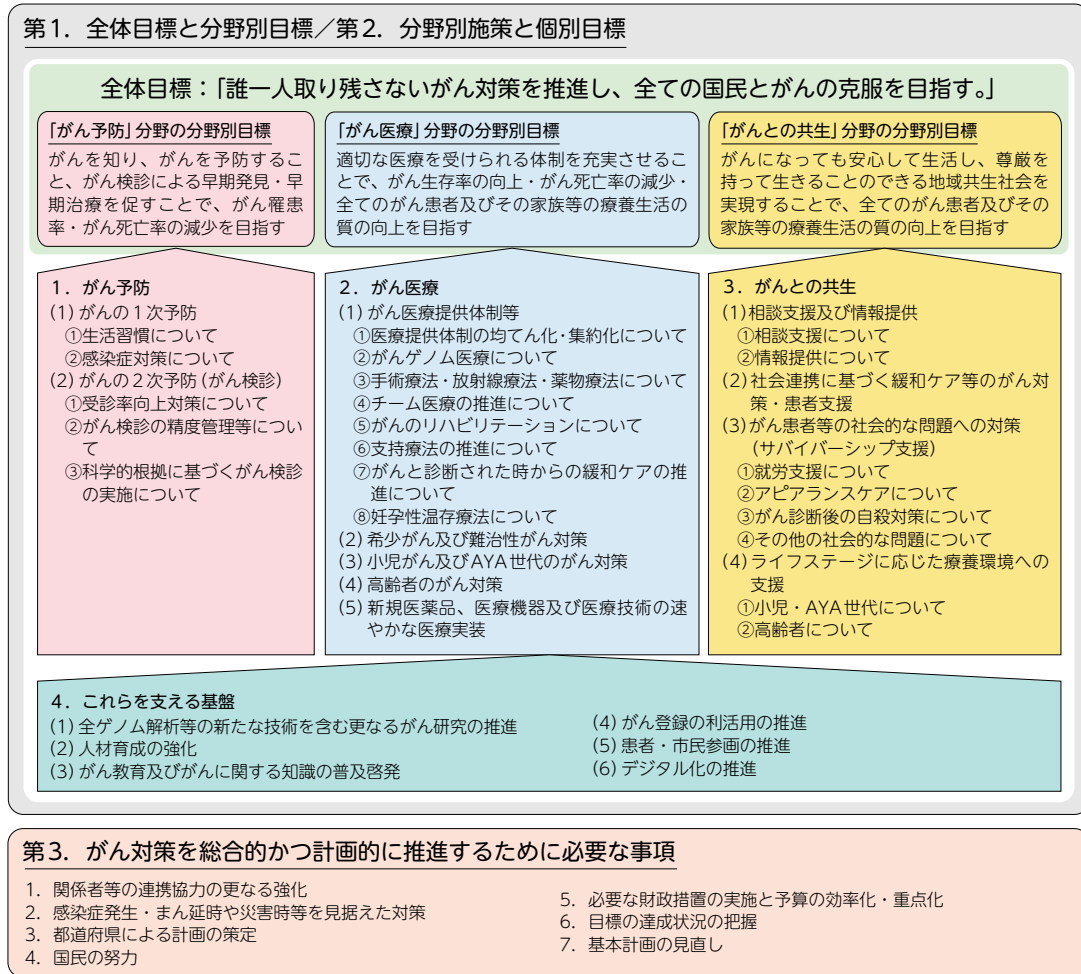


図7 第4期がん対策推進基本計画概要<sup>9)</sup>

ピア・サポート活動の質の担保も重要であることから、「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」において、患者団体及び関係学会と連携し、研修プログラム・テキストの改訂、都道府県に対する研修の企画やフォローアップに関する支援を行っているほか、がん患者・経験者、拠点病院等及び都道府県向けの研修等を行っている。令和4(2022)年整備指針(\*)改定では、拠点病院等が患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用を努めることとされた。

一方で、患者体験調査によると、ピア・サポーターについて知っているがん患者の割合は、平成30(2018)年度時点で27.3%と低い。

**(取り組むべき施策)**

- 国は、拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の構築について検討する。あわせて、相談支援の一層の充実を図るため、ICTや患者団体、社会的人材リソースを活用し、必要に応じて地方公共団体等の協力が得られる体制整備の方策について検討する。
- 国は、がん患者がピア・サポーター等からの支援を受けやすくなるよう、相談支援等に携わる者からピア・サポーター等につなげるための仕組みについても検討する。

(\*)…2022(令和4)年の「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」

また、「相談支援及び情報提供」の個別目標は、「がん相談支援センターやがん情報サービスの認知度及び質を向上させ、精神心理的・社会的な悩みを持つ患者やその家族等が適切な相談支援を受けることができ、また、患者やその家族等、医療従事者等を含む全ての国民が、必要な時に、自分に合った正しい情報にたどりつくことができることを目指す。」とされました。

さらに、第4期がん対策推進基本計画では、「全体目標、分野別目標及び個別目標と各施策の関連性を明確にし、PDCAサイクルの実効性を確保するため、ロジックモデルを活用する」こととされ、ロジックモデル<sup>10)</sup>が公表されています(表4)。その中で、がん診療連携拠点病院等における体験を語り合う場の開催数やがん患者におけるピア・サポーターの認知度、ピア・サポートが役に立ったと感じた利用者の割合などが、第4期がん対策推進基本計画の達成度を評価するための指標<sup>11)</sup>の一部として設定されました。

### **3** がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針

2022(令和4)年8月1日に「がん診療連携拠点病院等の整備について」<sup>2)</sup>が厚生労働省から発出されました。「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」の中からピア・サポートに係る部分を抜粋してお示しいたします。

**表4 第4期がん対策推進基本計画ロジックモデル(抜粋)<sup>10)</sup>**

個別施策	アウトプット指標	データソース
拠点病院等と民間団体による相談機関やピア・サポーター等との連携体制の構築について検討する。併せて、相談支援の一層の充実を図るため、ICTや患者団体、社会的人材リソースを活用し、必要に応じて地方公共団体等の協力が得られる体制整備の方策について検討	拠点病院等1施設あたりの連携している患者団体の数	現況報告書
相談支援等に携わる者からピア・サポーター等につなげるための仕組みについても検討	拠点病院等1施設あたりの体験を語り合う場の開催数	現況報告書

↓

中間アウトカム	中間アウトカム指標	データソース
ピア・サポーターの認知度	ピア・サポーターについて知っているがん患者の割合	患者体験調査

↓

分野別アウトカム	分野別アウトカム指標	データソース
がん患者が、相談を利用し、役だったと思えること	ピア・サポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	患者体験調査

↓

最終アウトカム	最終アウトカム指標	データソース
全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上	現在自分らしい日常生活が送れていると感じるがん患者の割合	患者体験調査

### I がん診療連携拠点病院等の指定について

3 都道府県の全ての拠点病院等は、協働して都道府県協議会を設置し、都道府県拠点病院は中心的な役割を担うとともに、他の拠点病院等は都道府県協議会の運営に主体的に参画すること。また、拠点病院等の他、地域におけるがん医療を担う者、行政、患者団体等の関係団体にも積極的な関与を求めること。

(2) 都道府県全体のがん医療等の質の向上のため、次に掲げる事項を行い、都道府県内のどこに住んでいても適切な診断や治療にスムーズにアクセスできる体制を確保すること。

⑦ 当該都道府県内の医療機関における診療、緩和ケア外来、がん相談支援センター、セカンドオピニオン、患者サロン、患者支援団体、在宅医療等へのアクセスについて情報を集約し医療機関間で共有するとともに、冊子やホームページ等でわかりやすく広報すること。

## II 地域がん診療連携拠点病院の指定要件について

### 2 診療体制

#### (1) 診療機能

#### ④ 地域連携の推進体制

ク 都道府県や地域の患者会等と連携を図り、患者会等の求めに応じてピア・サポートの質の向上に対する支援等に取り組むこと。

### 5 相談支援及び情報の収集提供

#### (1) がん相談支援センター

③ 院内及び地域の診療従事者の協力を得て、院内外のがん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備すること。また、相談支援に関し十分な経験を有するがん患者団体との連携協力体制の構築に積極的に取り組むこと。

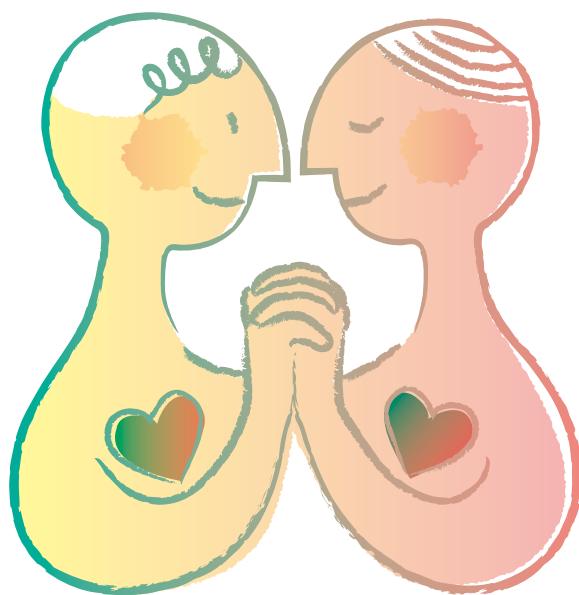
⑧ がん患者及びその家族が心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けること。その際には、一定の研修を受けたピア・サポーターを活用する、もしくは十分な経験を持つ患者団体等と連携して実施するよう努めること。なお、オンライン環境でも開催できることが望ましい。

## 参照リスト

- 1) <https://www.ncc.go.jp/jp/icc/health-serv/project/040/index.html> [患者体験調査報告書, 平成30年度調査]
- 2) <https://www.mhlw.go.jp/content/000972176.pdf> [がん診療連携拠点病院等の整備について (令和4年8月1日)]
- 3) [https://www.peer-spt.org/document/jigyuu\\_houkoku/](https://www.peer-spt.org/document/jigyuu_houkoku/) [厚生労働省委託事業, 令和4年度, がん総合相談に携わる者に対する研修事業, 事業報告書]
- 4) [https://www.mhlw.go.jp/web/t\\_doc?dataId=79aa8258&dataType=0&pageNo=1](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=79aa8258&dataType=0&pageNo=1) [がん対策基本法 (平成18年6月23日)]
- 5) <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/0000146908.pdf> [改正後のがん対策基本法 (平成28年12月9日)]
- 6) <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/0000146884.pdf> [改正がん対策基本法の概要]
- 7) <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000196975.pdf> [第3期がん対策推進基本計画 (平成30年3月)]
- 8) <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001138884.pdf> [第4期がん対策推進基本計画 (令和5年3月)]
- 9) <https://www.mhlw.go.jp/content/10901000/001091843.pdf> [第4期がん対策推進基本計画 概要 (令和5年3月)]
- 10) <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001193814.pdf> [令和5年8月9日 厚生労働省健康局がん・疾病対策課長通知別紙1 第4期がん対策推進基本計画口ジックモデル 確定版 (一部訂正)]
- 11) <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001193815.pdf> [令和5年8月9日 厚生労働省健康局がん・疾病対策課長通知別紙2 第4期がん対策推進基本計画評価指標一覧 確定版] (一部訂正)]

# VIII

## 具体的な事例



ピア・サポートを“知る”から始める、きっと“明日”が変わる。



## 熊本県ピア・サポート事業 —自治体、医療、患者・家族の三位一体の取り組み

熊本県では、自治体：熊本県健康づくり推進課、実働組織として「熊本県がん連携サポートセンター（以下、サポートセンター）(表5)」、医療：熊本県がん診療連携協議会幹事会 相談支援・情報連携部会 下部組織「がん専門相談員ワーキング・グループ」、患者・家族：「がんサロンネットワーク熊本」が協同してピア・サポート活動を行っています。

### 1 行政（自治体）

サポートセンターの活動について紹介いたします。

#### 1) 熊本県がん相談支援センター<sup>1)</sup>の運用をしています

##### 〈運用の一例〉

- チラシや情報冊子（熊本県がん情報冊子等）の作成、ホームページ等での公開
- 熊本県内で実施される患者サロンや「がんピアおしゃべり相談室」

表5 熊本県がん連携サポートセンター

熊本県がん連携サポートセンターの業務
● 熊本県がん診療連携拠点病院の熊本県がん診療連携クリティカルパス「私のカルテ」の運用、導入支援、体制整備及び広報活動に関すること。
● 地域の医療・介護・福祉・行政従事者等、がん患者とその家族の診療・療養支援に係わっている方の参加促進、連携体制構築に関すること。
● がんサロン（がん患者会）及びがんサロンネットワーク熊本の運営に係る支援に関すること。
● がんピア・サポーターの活動及び育成等ピア活動の支援に関すること。
● がん相談支援センターの広報及び質の向上に関すること。
● がん専門相談員ワーキング・グループとの連携に関すること。
● がん患者やその家族を含む県民に対するがん相談支援、がん情報等の普及啓発活動に関すること。
● がん患者の療養生活の質の向上に資すること。
● その他、がんに係わる地域連携・療養支援、患者・家族のサポートに関すること。

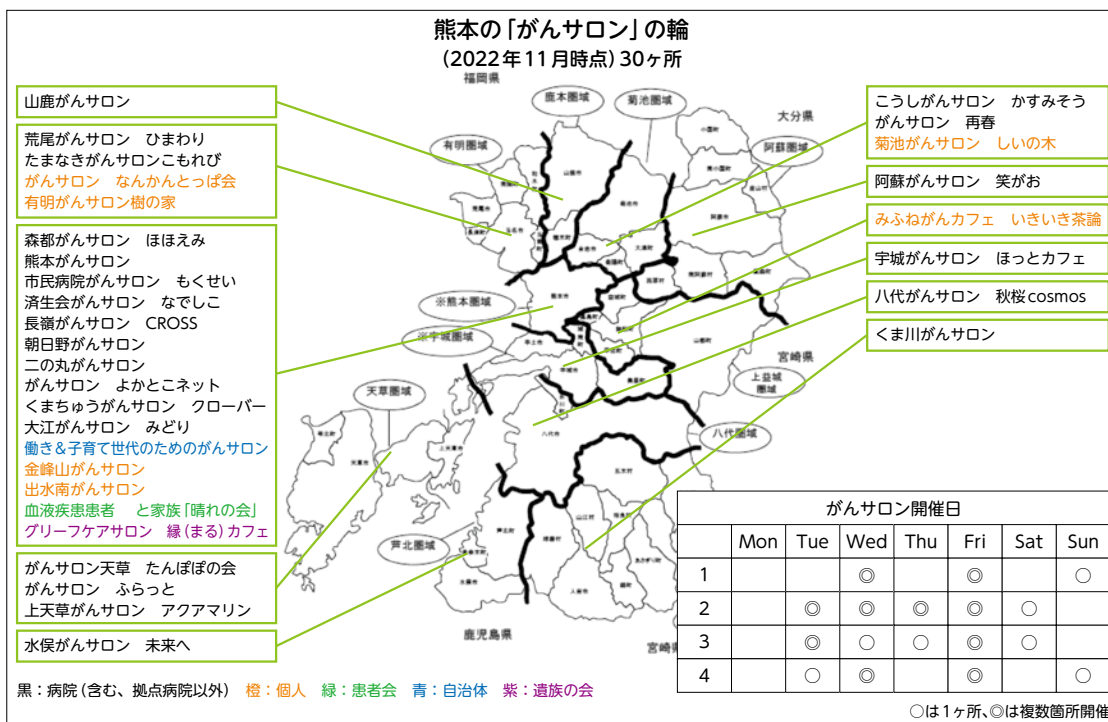


図8 熊本県で開催されているがんサロン

(ピア・サポート)、市民公開講座、イベントや交流会の日程やアクセス情報をまとめたイベントカレンダーの公開

- 現在熊本県で開催されているがんサロン(図8)、がんサロンネットワーク熊本、患者会の情報のとりまとめ
- 「がんピアおしゃべり相談室」のアクセス情報のとりまとめと公開
- 生殖医療・がん連携センター、就労支援、私のカルテ(がん地域連携パス)、熊本地震・災害に伴う情報、新着情報、熊本県内のがん診療連携病院等とがん相談支援センター、熊本県がん診療連携協議会とそれぞれの部会についての解説、「平成30年度熊本県がん相談機能向上に関するアンケート調査結果」の結果、信頼できる情報サイト、セカンドオピニオンに関する情報提供

興味のある方はホームページをご覧ください。



2)「ピア・サポート養成研修会(フォローアップ研修会も含みます)」の開催、「がんピアおしゃべり相談室」の運営を行っています

3)患者サロンの新規開催の要望があれば、サポートセンターが支援を行います。世話人の人選を「がんサロンネットワーク熊本」に依頼し、実際に開催し軌道に乗るまでお世話をしています

4)熊本県がん診療連携協議会 相談支援・連携部会及び「がん専門相談員ワーキング・グループ」の支援を行っています

熊本県健康づくり推進課は、法案等の作成、予算計上、議会対策はもちろんですが、熊本県がん診療連携協議会 相談支援・連携部会の陪席、「がんピアおしゃべり相談室」の振り返りに参加しています。

## 2 医療

熊本県がん診療連携協議会幹事会 相談支援・情報連携部会では、年4回の会議でピア・サポート活動について報告され情報共有されています。また、「がん専門相談員ワーキング・グループ(WG)」が設置され、研修企画、広報・周知、連携と3つのグループで活動しています。

WGのがん専門相談員が、「がんピアおしゃべり相談室」「がんピア・サポートセミナー」の持ち回りで開催支援(振り返りを含む)を行い、開催しています。熊本県健康づくり推進課の主催で、「がん相談員サポートセンター」「がん専門相談員WG」が実務を行っています。

## 3 患者・家族

ピア・サポーターの活動の場としては「がんサロン」「がんピアおしゃべり相談室」「がん相談ホットライン」があります。「がんサロン」は県内に30箇所あり、すべて「がんサロンネットワーク熊本」に参加

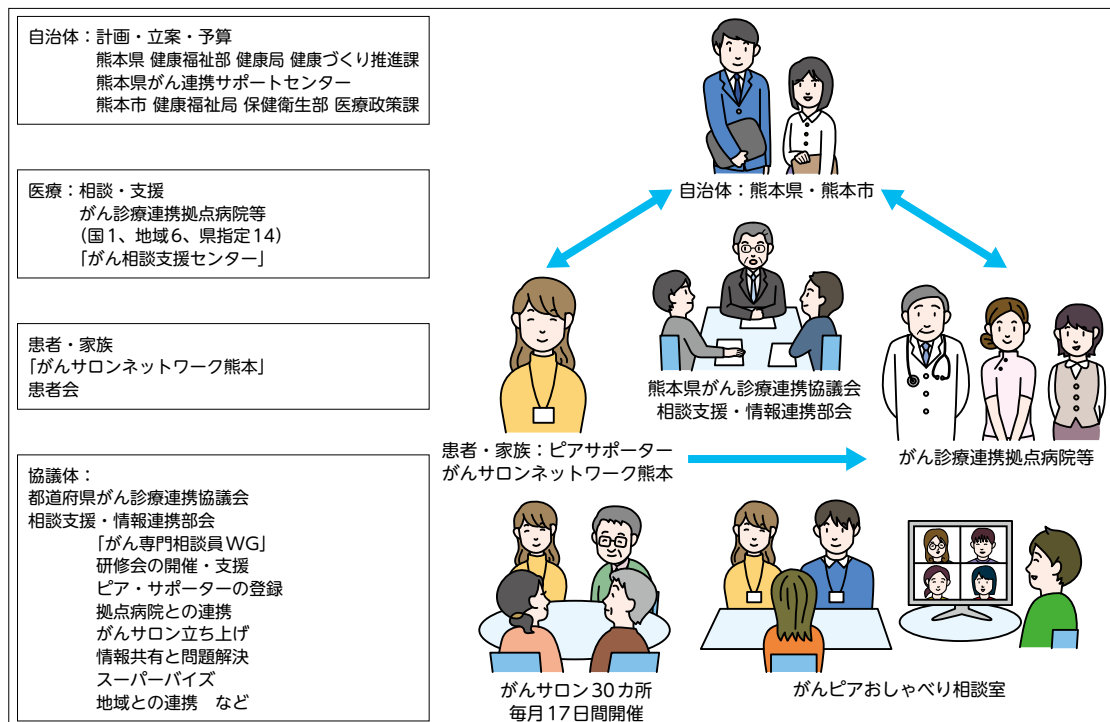


図9 熊本県の三位一体の安定した関係

しています。ネットワークでは月1回の理事会で活動報告、情報共有を行っています。理事会には、行政、医療者も参加しています。がんサロンネットワーク熊本の活動には様々なものがあります。

### 〈活動の例〉

- 「リレーフォーライフ熊本」「みんなで話そう会」「先生を囲む会」の企画・運営
- 「緩和ケア研修会」「講演会」、「学術大会」への語り手の派遣
- 「がん教育」外部講師の派遣
- 「熊本県がん患者等就労支援ネットワーク会議」の参加
- 「ピア・サポーター養成研修会」へのファシリテーター派遣
- 「がんピアおしゃべり相談室」「がん相談ホットライン」で活動するピア・サポーターの推薦

以上のように、熊本県で行われているピア・サポート活動は、三者が顔の見える関係を構築し、三位一体の安定した構造を構築しています(図9)。

参加者の固定化、後継者不足等全国で共通する課題も多く認められます。「熊本県で、いつでもどこでもピア・サポートにアクセスできる」を合言葉に活動されています。



## 長崎県ピア・サポート事業

### —「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」<sup>2)</sup> を活用した「顔の見える関係」の構築

長崎県では「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」で作成したピア・サポーター養成研修会プログラムやテキストを活用し、ピア・サポーター養成研修会を2020年より開催してきています(表6)。当初より、がん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターのがん専門相談員等の医療者が参加しています。ピア・サポーターと医療者と行政の方々が「顔の見える関係」を構築する場となりました。この間、がん専門相談員等の医療者は、がん総合相談に携わる者に対する研修事業主催で開催される「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」(表7)を受講し、個々のスキルアップに努めました。現在は、長崎県、がん専門相談員等の医療者、ピア・サポーターが協働して「ピア・サポーター研修会」を開催しています。

ピア・サポートを支える2つの研修会を上手に活用されています。

**表6** 長崎県ピア・サポート養成研修会の参加者数

開催日時	項目	参加者		
		ピア	医療者	行政
2020年11月14日	養成研修会	15	18	4
2022年1月29日*	フォローアップ研修会**	12	16	4
2023年1月7日	フォローアップ研修会**	8	16	5
2023年12月9日	フォローアップ研修会**	12	9	4

\* 2022年1月29日はWeb開催

\*\* フォローアップ研修会に新規養成者も含まれる

**表7 「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」  
に参加した長崎県内の医療者**

がんサポートグループ企画運営者のための研修会	
開催日時	参加人数
2021年2月11日	3
2021年11月3日	3
2022年2月11日	2
2022年11月3日	5
2024年2月11日	1

### 参照リスト

- 1) <https://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/Canconsultation/mykarte/> [熊本県がん連携サポートセンター]
- 2) <https://www.peer-spt.org> [厚生労働省委託事業, がん総合相談に携わる者に対する研修事業]

### 3. 各都道府県のがん対策推進計画 策定状況

調査期間：2024年2月1日～23日

調査内容：

都道府県 HP のパブリックコメント募集や募集終了・結果公表のページで、がん対策推進計画(医療政策計画)の素案を公表の有無を確認、素案の中からがんのピア・サポートや患者サロン(がんサロン)に関する記載を抜粋しました。

結果：

調査期間中に素案の確認ができた都道府県	32 都道府県
素案の確認ができた都道府県のうち	
(1) ロジックモデルを策定している都道府県…①	17 都道府県 (53.1%)
(2) ロジックモデルを策定した都道府県(①)のうち、ロジックモデルでピアサポートやがんサロンに関する項目を設定している都道府県	14 都道府県 (82.4%)
(3) 素案でロジックモデルを策定していない都道府県(15 県)のうち、ロジックモデルを策定せず、ロジックモデル以外で数値目標を設定している都道府県	4 都道府県 (26.7%)

#### <留意点>

がんのピア・サポートや患者サロン(がんサロン)に関する記載のみを抜粋しており、記載を省略している部分があります。また、素案ではロジックモデルを公表しておらず、今後策定・公表を予定している都道府県もありますので、各都道府県が公表する計画の本文と併せてご確認ください。

## 1 北海道

北海道，北海道がん対策推進計画（素案） p. 37-39

### 第3章 分野別施策と個別目標

#### 3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

##### （1）相談支援、情報提供

##### <現状と課題>

- 患者同士が療養や生活について相談する患者サロンや、がんを経験した方が、がん患者に対する相談支援に参加し、がん患者の不安や悩みなどを共有するピア・サポートは、拠点病院等を中心に整備されてきていますが、拠点病院等の未整備圏域における体制の構築が課題となっています。また、ピア・サポーターの活躍を広げるため、一定程度の質を確保する必要があります。

##### <施策の方向>

##### ①相談支援について

- 患者サロンやピア・サポート等の患者・家族の支援体制について、医療関係者や道民にその有効性について周知を図るとともに、相談員やピアサポーターの質の確保に向けた施策を実施するほか、患者団体間の相互理解と連携の促進、道と患者団体との協力関係の構築に向けた施策を推進します。

##### <主な取組>

##### ①相談支援について

- 道は、拠点病院、地域の病院や患者団体等と連携し、がん患者の不安や悩みを軽減するため、身近な地域でピア・サポートが受けられる環境の整備を促進します。
- 道は、拠点病院等における患者サロンの設置の促進に取り組みます。
- 道は、国等のピア・サポーターの研修プログラム等を踏まえ、患者団体や拠点病院等と連携し、ピア・サポートや患者サロンで活動している患者や経験者の相談技術の質の向上を促進します。
- 道は、道内の患者団体の連合体である北海道がん患者連絡会の活動を支援し、患者団体間のネットワークづくりを促進します。

##### 【参考指標】

区分	現状値（R4 調査値）
がん相談支援センター設置二次医療圏数	14 圏域
患者サロン設置二次医療圏数	

（出典：地域保健課調）

## 2 青森

青森県，第四期青森県がん対策推進計画（案） p. 13-14

### 第3章 分野別施策の方向性と個別目標

#### （1）相談支援及び情報提供

#### 4 がんとともに尊厳を持って暮らせる社会の構築

##### ▽現状と課題

##### 【現状】

- ・がん患者への相談支援や情報提供の充実のため、ピア・サポーターの養成を推進

##### 【課題】

- ・ピア・サポーター養成のほか、ピア・サポート活動の質の担保や活用の促進が必要

##### ▽施策の方向性

○相談支援体制や情報提供等の推進

・県、市町村、医療機関、患者団体は、相談支援の一層の充実を図るため、患者団体等を活用した仕組みづくりや、ピア・サポーターの活動促進と養成に取り組みます。

### 3 岩手

岩手県保健福祉部，第4次岩手県がん対策推進計画（素案）（令和6年度～令和11年度），p.51-52, p82-91

#### 第3章 分野別施策

##### 3 がんとの共生

###### (1) 相談支援及び情報提供

###### (ア) 現状・課題

- がん患者の不安や悩みを軽減するためには、ピア・サポートが有効であり、これまでがん患者・経験者との協働を進め、ピア・サポートを推進していますが、国が指摘しているように、本県でもピア・サポーターの普及が進んでいないところです。また、令和4年に見直されたがん診療連携拠点病院等の整備指針では、拠点病院等が患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用に努めることとされたところです。

###### (イ) 施策の方向

- がん患者の不安や悩みを軽減するためには、がんを経験した者もがん患者に対する相談支援に参加することが有効であることから、相談支援やがんサロン等に関係する医療従事者等の意見を踏まえ、県内各拠点病院の相談支援センターやがんサロン等におけるピア・サポートによる支援を進めていきます。

#### 第5章 計画の目標

##### 1 本計画における全体目標及び目標年度

設定目標については、本計画の進捗状況や他の計画（健康いわて21プラン）との調和等を踏まえつつ、今後、国の検討結果が明らかになった段階において新たな目標の設定を考慮していくなど、必要に応じ、内容の見直しを行うなど弾力的に対応していきます。

##### 2 本計画における個別目標及び目標年度

###### (3) がんとの共生

個別目標名（アウトカム指標）	目標数値	目標年度
住み慣れた地域社会で療養生活ができる患者の増加（〔再掲〕：人口10万人当たり75歳未満年齢調整死亡率）		
住み慣れた地域社会で療養生活ができる患者の増加（がん患者の在宅死亡割合）		

分野別施策	個別目標名	目標数値	目標年度
(1) 相談支援及び情報提供	ピア・サポートの活動がある医療機関数【国はサポーターの研修内容を見直し】		
(3) 患者会等活動の充実	がんサロンで活動を行っている患者会数		
	活動の紹介が行われている患者会数（県ホームページに掲載されている団体数）		
	がんサロン設置数		

### 4 宮城

宮城県，第4期宮城県がん対策推進計画（中間案） p.69-71

## 第4章 分野別施策

### 第3節 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

#### 1 相談支援及び情報提供

##### <現状と課題>

- 患者会・サロンのオンラインによる開催や対面の活動再開
- ピア・サポーターの育成と活動支援

##### <施策の方向性>

- 病院や地域において患者会・サロン等が開催され、がん経験者からの情報提供等 が得られる体制整備
- ピア・サポーターが育成され、患者会やサロン等にて活動できる体制の整備

#### (1) 相談支援について

##### 1 現状と課題

患者の療養生活が多様化する中で、拠点病院等のがん相談支援センターが中心となって、患者やその家族等の精神心理的・社会的な悩みに対応することが求められています。

がん患者本人はもとより、その家族にも動揺・混乱が生じ、悩みや情報を共有して不安を解消するための機会が必要なことから、患者会・家族会やサロン（以下「患者会等」という。）のような場の充実が求められています。拠点病院等がん相談支援センターは、二次医療圏に1か所以上（県内8か所）設置され、自院の患者だけでなく、他院の患者や、医療機関からの相談にも対応してきました。

平成30年度患者体験調査では、相談支援センターを利用したことがあると回答した人のうち、86.9%は役に立つと回答しており、利用された方の満足度は高いが、新型コロナウイルス感染症の影響などにより相談件数やサロン等の参加人数が減少していることから更なる周知が課題となっています。

患者会等の充実として、県では「がん患者会・サロンネットワークみやぎ」の活動を支援してきました。新型コロナウイルス感染症の流行拡大で、多くの患者会等が休止となりましたが、加入団体が令和5（2023）年9月現在31団体となり、平成29（2017）年度の25団体から6団体増加し、同じがんの患者経験者による情報提供や体験共有ができる患者会等の重要性が浮き彫りになりました。

##### 2 取組の方向性

拠点病院等は、外来初診時からがん相談支援センター等の訪問や患者が必要とするときに繰り返し案内を行うなど、がん相談支援センターの周知及び利用を促進します。また、がん相談支援センター等は、すべてのがん患者・家族、市民が利用できる社会資源であり、施策としても重要であることから、オンライン等を活用した体制整備を図り、相談体制のアクセシビリティを向上させていきます。

県内のがん相談窓口をもつ医療機関等は、宮城県がん診療連携協議会を中心に、相談機能の充実と相談対応の質の向上を図り、患者や家族等がもつ医療や療養等に対する疑問や悩み等に関して、適切な相談支援を行えるようにします。

県は、宮城県がん診療連携協議会と連携し、患者会活動の充実を図るため、「がん患者会・サロンネットワークみやぎ」の運営支援を行います。また、ピア・サポーターについて、国が作成した研修プログラムを活用して養成研修を行うとともに、ピアサポートの普及を図り、拠点病院等におけるピア・サポーターとの連携協力体制やがん教育等の外部講師派遣等の構築を推進します。

## 5 秋田

秋田県，第4期秋田県がん対策推進計画（素案） p.30-31

## 第5章 分野別の施策と個別目標

### Ⅲ がんとの共生

#### 1 相談支援及び情報提供



Ⅶ. 資料集

(1) 相談支援について

〔現状と課題〕

○同じ体験を持つ人が、がん患者の悩みや心配事に適切に対応するための知識や情報を共有し支え合うピア・サポートは重要であることから、県では、がん患者の支援活動を行う団体に対して支援を行っていますが、ピア・サポートの認知度や利用状況は低いため周知が必要です。

＜がん相談支援センター及びピア・サポートの利用状況＞

	H29年度	R2年度	R5年度
がん相談支援センターを知っており、利用したことがある患者の割合	8.3%	6.7%	7.7%
ピア・サポートを知っており、利用したことがある患者の割合	—	1.3%	1.1%

出典：秋田県健康づくり推進課調べ

〔取り組むべき施策〕

②地域で行われる相談支援の推進

○県及び拠点病院等は、がん患者がピア・サポートについて知り、希望した時に同じ体験を持つ人との交流ができるよう、ピア・サポートの活動支援を行うとともに、がん患者団体と協力してがんサロン等の活動を周知します。

(個別目標)

指標	現状値 (R5年度)	目標値
がん相談支援センターを知っており、利用したことがある患者の割合	7.7%	100%
「がんと診断されたことによる悩みは、何らかの支援によって現在は軽減された」と回答した患者の割合	73.2%	100%

出典：秋田県健康づくり推進課調べ

6 山形

山形県，第2次健康やまがた安心プラン，p.112-114

第4章 がん対策

4 分野別施策

(3) がんとの共生

① 相談支援及び情報提供

《現状と課題》

○全国的には、患者団体や医療機関等を中心として、患者やその家族が自身の経験を活かして相談等の支援を行うピアサポートの取組みが行われています。本県においても、患者やその家族の不安を軽減するため、ピアサポーターを養成し、ピアサポートを推進しています。

《施策の方向と推進主体》

施策の方向	推進主体
<p>がん患者・経験者との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ がん患者や家族等の交流の場の確保や活動を支援するとともに、自主的に情報提供している患者団体等の活動を促進</li> <li>○ がん患者等に支援を行っているボランティア等の受け入れの推進</li> <li>○ 県は、がん患者の不安や悩みを軽減するため、がん患者・経験者との協働を進め、ピアサポートを推進</li> </ul>	<p>県、がん診療連携拠点病院、医療機関、患者団体等</p>

<ロジックモデル>

<個別目標>

相談支援と情報提供
がんに関する情報提供と相談支援連携体制を整備・充実
がん診療連携拠点・指定病院の相談支援センターや県がん総合相談支援センター及びその機能について、県民に広く周知
がん患者やその家族等の交流の場を確保し、自主的に情報提供している患者団体等の活動を支援

<数値目標>

相談支援と情報提供	現状値	目標値
がん相談窓口における 相談受理件数	6,831 件 (R4)	7,400 件 (R11)
がんと診断後も仕事を継続 していたがん患者の割合	61.4% (H30)	65% (R11)

7 福島

福島県, 福島県がん対策推進計画(第四期)(案), p.46-48

Ⅱ各論(分野別施策)

3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

(1) 相談支援及び情報提供

① 相談支援について

【現状・課題】

がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、県ではピア・サポート研修を行い、ピア・サポーターを養成しています。県内には患者会(10 団体)と患者支援団体(6 団体)があり、がん患者とその家族、または遺族の方々がお互いの体験を分かち合い、支え合うとともに、ホスピスケアや人生の最終段階における医療に関する研修会を開催している団体もあります。

がんピアネットワーク支援構築事業により、令和4(2022)年は、県内10 か所でピア・サポートサロンを計103 回開催し、患者、家族、医療者等551 名の参加がありました。さらにピア・サポーター養成研修を行い、令和4年(2022)年度は5名、令和5(2023)年度は7名を養成しました。

【目標】

精神心理・社会的な悩みを持つ患者やその家族等が適切な相談支援を受けることができる。

【施策の方向性】

- 県は、ホームページ等によりがん患者団体やがん患者支援団体等の情報(ピア・カウンセリング等の患者支援の情報)を広く県民に周知し、必要に応じて、がん患者やその家族がこれらの団体について情報を入手できるようにするとともに、これらの団体間の情報交換等を促進します。
- 県は、がん診療連携拠点病院等に設置されているがん患者サロンの取組についてホームページ等で紹介する等の支援を行います。
- 県は、ピア・サポーターの養成を引き続き行うとともに、ピア・サポーターの質向上と医療機関との連携強化の支援をします。

【「第四期がん対策推進基本計画ロジックモデル」：相談支援及び情報提供】

個別施策	アウトプット指標	データソース
ピア・サポート支援に参加することが出来る	年間の体験を語り合う場(サロン)への延べ参加人数	がんピアネットワーク 構築支援事業実績

中間アウトカム	中間アウトカム指標	データソース
ピアサポーターの認知度	ピアサポートについて知っているがん患者の割合	患者体験調査

ピアサポーターの認知度	ピアサポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合（一般がん患者）	患者体験調査
-------------	--	--------

## 8 茨城

茨城県, 茨城県総合がん対策推進計画－第五次計画－（令和6（2024）年度～令和11（2029）年度）, p.112-114

各論

### Ⅲ 生活支援体制の整備

- 1 がんに関する相談支援体制の整備
- 3 現状と課題

#### （3）多様な相談支援体制の整備

がん患者やその家族の悩みは多岐にわたり、専門の相談員や医療従事者だけでは解決できない悩みもあります。そのような悩みに対応するため、がんを体験した人が、仲間として「体験を共有し、ともに考える」ことで、がん患者やその家族の生活や治療への不安などを軽減すること（ピアサポート）が必要です。

このため、県ではがん患者及びその家族への相談支援体制の充実や療養生活の質の向上を図ることを目的に、がん体験者の協力を得て、ピアサポート事業を平成20（2008）年度から開始し、現在10か所のがん診療連携拠点病院等のがん相談支援センターで実施しています。

また、がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、茨城県がん診療指定病院においては、がん患者や家族が、心の悩みや体験等を語り合うことのできる場として「患者サロン」等の設置を進めてきました。

#### 取り組むべき対策

##### （3）多様な相談支援体制の充実

###### ① ピアサポート事業の充実

県は、ピアサポート事業について、リーフレットやホームページなどを通じて、広く県民に対し周知します。また、AYA世代を含めた新たなピアサポーターの新規養成や既にピアサポーターとして活動されている方へのフォローアップについては、今後も、ハイブリッド方式等による研修会を開催し、スキルの向上に努めます。

###### ② 患者サロンの設置

県は、がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院、茨城県がん診療指定病院等において、がん患者や家族が心の悩みや体験等を語り合うことのできる場として、「患者サロン」等の設置を引き続き推進します。

## 9 栃木

栃木県, 栃木県がん対策推進計画（4期計画）（案）, p.32-34, p.49-50

### Ⅳ分野別の個別目標及び県の取組

#### ③ がん患者等を支えるための環境づくり

- 1 相談支援・情報提供等の推進
  - （1）相談支援・情報提供の充実

##### 【現状・課題等】

##### イ 相談支援体制の充実

- ・ 療養生活の多様化やその後の社会生活の中で、患者やその家族等の精神心理的・社会的な悩みに対応していくことが求められています。
- ・ がん患者等からの相談内容が多様化しており、相談対応に当たっては、拠点病院等及び中核病院における相談支援の質の向上、他機関との連携等が必要となってきました。

## 【今後の取組】

## イ 相談支援体制の充実

- ・ 栃木県がん診療連携協議会相談支援部会等と連携し、患者サロン等でピアサポーターによる支援が受けられる体制を整備します。

## 【モニタリング値】

項目	現状値
栃木県がんピアサポーター数	※人

※ピアサポーターは令和6年度から登録予定

出典：栃木県保健福祉部健康増進課調べ

項目	現状値 R3(2021)年
患者サロン開催数	28回

出典：「がん診療連携拠点病院等 令和4(2022)年度現況報告」

## V 栃木県がん対策推進計画（4期計画）ロジックモデル

個別目標（目的を達成するためにクリアすべきステップ、ゴール；中間アウトカム）

Ⅲ	がん患者やその家族を支える環境が整っている		現状値	目標値
1	指標	家族の悩みや負担を相談できる支援が十分であると感じているがん患者・家族の割合	42.7%(2018年)	上昇(2029年)
2	指標	がんやがん治療に伴う身体の苦痛や気持ちのつらさにより、日常生活を送る上で困っていることがない人	74.0%(2018年)	上昇(2029年)

目的（あるべき姿；分野アウトカム）

③	がんになっても安心して暮らすことができる社会の構築		現状値	目標値
1	指標	現在自分らしい日常生活を送れていると感ずるがん患者の割合	81.0%(2018年)	上昇(2029年)

## 施策

	個別施策	指標	現状値
23	相談支援体制の充実	相談員研修を受講したがん相談支援センターの相談員の数	121人(2021年)
		ピアサポーター養成数	R6から登録
		患者サロン開催数	28回(2021年)

## 10 群馬

群馬県，第4期群馬県がん対策推進計画～がんに関心強い地域社会の構築を目指して～素案，p.87-88

## 第4章 分野別施策と目標

## 3 がんとともに安心して暮らせる地域社会の構築

## (3) 相談支援／情報提供

## 目指す姿

- 患者やその家族が、置かれている状況に応じた相談支援がいつでも受けられる。
- 信頼性が高く県民に分かりやすい情報提供が行われている。

## ①相談支援

## 現状と課題

- がん患者にとって同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供、患者同士が体験を共有（ピアサポート）できる場の存在は重要です。群馬県は、群馬大学等の関係機関と協力し、ピアサポートを行うピアサポーターを養成し、その活動を支援しています。また、ピアサポーターの質の向上を維持

するため、フォローアップ研修も実施しています。

- 群馬県では、全てのがん診療連携拠点病院等で患者やその家族の交流を支援する場であるがんサロンが開催されています。

#### 取り組むべき施策

- 群馬県は、引き続き、がん分野におけるピアサポート活動の実施状況を見ながら、ピアサポーターの養成、質の向上及び活動支援に努めます。
- がん診療連携拠点病院等は、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができるよう、患者サロン等においてピアサポーターの活用にも努めます。
- 群馬県、群馬県がん診療連携協議会及びがん診療連携拠点病院等は、国の検討状況を踏まえ、ICTや患者団体、社会的人材リソース等を活用した相談支援体制の整備の方策について検討します。

## 11 埼玉

パブリックコメント開始前

## 12 千葉

千葉県、第4期千葉県がん対策推進計画, p. 66-68, 第4期千葉県がん対策推進計画ロジックモデル(試案), p. 3

### 第4章 がん対策施策の推進

がんとの共生 ～ 尊厳をもって安心して暮らせる地域共生社会の構築 ～

#### (1) 相談・情報提供

##### ① 相談支援の充実

[現状と課題]

##### ◎ 千葉県地域統括相談支援センター

千葉県がんセンター「患者総合支援センター」内に設置された「千葉県地域統括相談支援センター」では、「がん相談支援センター」と協同し、拠点病院等の相談支援機能に加え、がんに関する療養情報や、患者会、患者サロンなどの地域情報を収集し、「千葉県がんサポートブック」や、がん情報提供サイト「千葉県がん情報ちばがんナビ」による情報提供を行っています。また、「千葉県がんピア・サポーター」の養成、各拠点病院等でのピア・サポートサロンの運営など、患者の視点に立った相談支援に取り組んでいるところです。

##### ◎ 千葉県がんピア・サポーター

がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士が体験を共有できる場の存在は重要です。ピア・サポーターとは、ピア(仲間)とサポーター(支援者)を合わせた言葉で、がんピア・サポーターは「がん患者等の支援を行うがん経験者」を意味します。

「千葉県がんピア・サポーター」は、県が実施する養成研修を修了し、千葉県がんセンターを始めとする拠点病院等で開催される患者相談会「ピア・サポーターズサロンちば」などで活動しています。また、県では、ピア・サポーターフォローアップ研修を開催し、千葉県がんピア・サポーターのさらなる資質の向上を図っているところです。

しかし、活動可能な千葉県がんピア・サポーターの人数は横ばいであり、ピア・サポート活動の維持・発展のためにも養成研修の回数を増やし、修了者を増員する必要があります。

##### ◎ 患者団体や患者支援団体の活動

県内では、患者団体や患者支援団体においても、患者やその家族に対する支援の役割を積極的に担ってきました。県内では「がん患者団体連絡協議会」を構成する5団体を始めとする多くの団体が、病院や地域で患者やその家族の悩みや不安への対応、分かち合いなどの活動を行っています。

また、拠点病院等では、患者・家族同士が自らの悩みや不安を語り合う「患者サロン」が開催されおり、拠点病院以外でも患者団体が主催する患者サロンが開催されている地域があります。

患者団体や患者支援団体では、がん患者やその家族及び一般県民を対象とした講演やイベント等も実施して

いますが、これらの活動に対する認知度や理解はまだ充分とはいえず、県民や各種団体、企業等にも知ってもらうための取組が必要です。

〔施策の方向〕

●がん経験者等の参画による相談支援の充実

◇ 県は、千葉県がんセンター「千葉県地域統括相談支援センター」と連携し、「千葉県がんピア・サポーター養成研修」の開催により千葉県がんピア・サポーターを増員するとともに、ピア・サポーターフォローアップ研修により、さらなる資質の向上を図ります。

◇ 県及び拠点病院等は、「ピア・サポーターズサロンちば」や患者団体によるイベント、患者サロン等について、県民の理解を深めるための周知広報を行うとともに、病院外にも千葉県がんピア・サポーター等の活躍の場を広げ、患者・家族がピア・サポートを受けられる機会の増大に努めます。

(1) 相談・情報提供

個別施策	アウトプット指標
がん経験者等の参画による相談支援の充実	ピア・サポーターズサロンちばの開催回数 ピア・サポーターズの人数

中間アウトカム	中間アウトカム指標	策定時	目標	データソース①
ピア・サポーターの活動の場の拡大	サロン開催病院数	H30年度16箇所 (対面開催) R4年度24回 (リモートサロン)	拡大する	「ピア・サポーターズサロンちば」の開催実績

13 東京

東京都がん対策推進計画（第三次改定）（案），p.106-109

第4章 分野別施策

Ⅲ がんとの共生

(3) ピア・サポート及び患者サロン

現状と課題

- ピア・サポートとは、がん患者や家族の悩みに対して、がん経験者等が、同じ経験を持つ仲間（ピア）として自分の経験を生かしながら相談や支援を行う取組のことで、これを行う人をピア・サポーターといいます。
- 都は、国拠点病院、地域がん診療病院及び都拠点病院におけるピア・サポートの取組を支援しており、令和5年8月時点で、それらの病院の約半数においてピア・サポーターと連携した患者サロン等の開催や、ピア・サポーターによる個別相談会を実施しています。
- しかし、ピア・サポーターが接し方を誤ると、患者等を逆に傷つけてしまうこともあるため、各病院によるピア・サポート推進に向けて、ピア・サポーターの質の担保が求められています。
- また、がん経験者の中には、ピア・サポーターとして活動することを希望しているものの、活動の機会を持つことができない人もいます。
- AYA世代のがん患者の一定数は、経験するライフイベント等に応じたピア・サポートを必要としていますが、がん種や社会状況について多様性が高く、自分と同じ条件のピア・サポーターを探すことが難しい場合があります。
- 患者サロンは、がん患者・がん経験者など、同じ立場の人が自由に集いがんについて気軽に語り合える交流の場です。国拠点病院・地域がん診療病院・都拠点病院や一部の区市町村等で設置しており、がん相談支援センターや患者団体等、また、患者や家族など様々な運営主体が、交流会や勉強会等を開催しています。

- しかし、新型コロナの感染拡大を受けて、患者サロンの活動が中断し、患者や家族が同じ立場の人と交流できる場が以前より少なくなっています。
- 都では、ピア・サポート及び患者サロンについて東京都がんポータルサイトで案内をしていますが、ピア・サポート及び患者サロンとも、参加・利用者が限られています。参加・利用の希望を有するものの、実際に参加・利用したことがないと回答した人にその理由を尋ねたところ、「参加方法が分からない」「どこで実施されているか分からない」との意見が多数を占めていました。

**取組の方向性**

- ①ピア・サポーターの提供推進
  - 都においてピア・サポーターの養成に取り組み、養成したピア・サポーターの情報を分かりやすい形で拠点病院等（成人・小児）に対して情報提供することなどについて検討し、質の担保と活動機会の提供の実現を図ります。
- ②患者サロンの開催支援
  - 国拠点病院・地域がん診療病院・都拠点病院における患者サロンの開催を推進するために、都は、東京都がん診療連携協議会と連携し、好事例の共有等を行うとともに、必要な環境整備を支援します。
- ③開催情報の発信強化
  - ピア・サポート及び患者サロンの開催情報を、拠点病院等（成人・小児）と連携し、東京都がんポータルサイト上で分かりやすく発信していきます。

**【指標】**

分野別アウトカム指標			
指標	現行値	目標値	出典
精神心理的苦痛を抱えるがん患者の割合	36.8% (平成30年度)	減らす	国立がん研究センター患者体験調査 (都道府県別集計)
中間アウトカム指標			
指標	現行値	目標値	出典
病状や療養に関することについて、家族、がん相談支援センター、医療者、ピア・サポーター、患者団体等、誰かに「相談できた」と回答した患者の割合	61.0% (令和4年度)	増やす	東京都がん患者調査
患者団体等が開催するイベントについて「参加したいと思っているが、参加したことはない」「存在を知らなかった」と回答した患者の割合	- (基準値なし)	減らす	東京都がん患者調査
ピア・サポートについて「受けたいと思っているが、受けたことはない」「存在を知らない」と回答した患者の割合	受けたいと思っているが、受けたことはない 14.8% 存在を知らない 45.1% (令和4年度)	減らす	東京都がん患者調査
患者サロンについて「参加したいと思っているが、参加したことはない」「存在を知らなかった」と回答した患者の割合	参加したいと思っているが、参加したことはない (令和4年度)	減らす	東京都がん患者調査

14 神奈川

神奈川県, 神奈川県がん対策推進計画素案 (令和6 (2024) 年度~令和11 (2029) 年度), p.73-80, 104-107,

## 3 それぞれの立場で進めるがんと共生

## (1) がん患者及びその家族等への支援

## ①相談支援

## 【現状】

県は、県ホームページやがんサポートハンドブックにより、がん相談支援センターやピアサポート実施場所について案内しています。

## 【課題】

- がん患者やその家族が、身近な地域で必要に応じて適切に相談支援を受けられる機会をさらに確保することが必要です。

## 【施策】

◇ピアサポーターによる相談支援

- ピアサポーターは、患者会や病院が主催する患者サロンのファシリテーターとして、患者及びその家族同士の交流を深めます。
- ピアサポーターは、拠点・指定病院内や院外の施設等において、がん患者やその家族等の相談に対応します。ただし、相談内容によっては、がん相談支援センターにつなげます。

## ③がん患者団体・ピアサポーター等との連携

## 【現状】

- がん患者会やがんサロン等において、同じ病気や症状といった何らかの共通する患者体験を持つ人たちにより、お互いの悩みや不安の共有、情報交換等が行われています。
- 県は、県に登録しているがん患者会や患者サロンについて、がんサポートハンドブックや県ホームページで周知しています。・拠点病院・指定病院は、患者サロンの運営等の支援や連携を図っています。
- がん患者やその家族等が、同じような経験を持つピアサポーターに相談できる箇所が、現在県内には14カ所あります。
- 各関係団体等が自主的にピアサポーターの養成研修を行うとともに、日本癌治療学会が認定するがん医療ネットワークナビゲーター等の資格を有するがん体験者が関わることで、一定程度のピアサポーターの質が維持されています。

## 【課題】

- がん患者が自分のニーズに合った患者会に参加できるよう、がん患者会に関する情報をより入手しやすくすることが必要です。
- がん患者の選択肢を広げるため、県の登録制度について周知を図り、登録患者会の数を増やす必要があります。
- 一方、登録する患者会の質を向上するとともに、定期的に活動状況等を確認する必要があります。
- 県及び拠点・指定病院は、患者支援を充実するため、がん患者団体等との連携を強化する必要があります。
- がん患者やその家族等にピアサポーター・がん医療ネットワークナビゲーターの存在を知ってもらう必要があります。
- 県は、ピアサポーターの養成、認定及びフォローアップに取り組み、がん患者やその家族の相談の機会を増やす必要があります。
- がん患者及びその家族が、ピアサポーター等に相談できる機会を増やすために、活躍の場を広げる必要があります。

## 【施策】

◇がん患者団体等との連携

<県として>

- 県は、登録患者会を増やすため、活動している患者会に登録制度を紹介していきます。
- 県は、登録患者会を対象に定期的に活動状況等のアンケート調査を行い患者や家族等にとって有意義な情報は、県のホームページ等で紹介していきます。

<県がん診療連携協議会（相談支援部会）として>

- 相談支援部会は、拠点・指定病院の患者サロンの開催状況について情報共有し、県に対し、県のホームページやがんサポートハンドブックへ掲載する情報を提供します。



<拠点・指定病院（がん相談支援センター）として>

- ・各がん相談支援センターは、患者及びその家族等に対して、患者サロンや患者会の活動内容を病院のホームページや院内掲示等で周知していきます。
- ・拠点・指定病院は、がん患者団体等の活動場所の提供、がん患者団体等が行う講座等への講師派遣等、相談支援に関し十分な経験を有するがん患者団体との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいきます。

<（公財）かながわ健康財団として>

- ・（公財）かながわ健康財団は、がん患者団体等に対して、情報提供及び情報交換・情報共有の機会を提供するなど、がん患者団体等同士の連携に対する支援に取り組みます。

◇ピアサポーター等との連携

<県として>

- ・県は、県がん診療連携協議会、相談支援センター、ピアサポートに関し十分な経験を有するがん患者団体等の関係団体、ピアサポーター等と協力して、ピアサポーターの養成研修会を定期的に開催します。
- ・県は、養成研修会の修了者を認定し、相談支援センター、がん患者会等の関係団体等と連携して、認定者の活躍の場を増やしていきます。
- ・県は、がん相談支援センター、がん患者団体等の関係団体等と連携して、認定したピア・サポーターのフォローアップの方法を検討し、実践していきます。
- ・県は、県がん診療連携協議会と連携して、拠点・指定病院等の医療従事者等を対象に、ピアサポーターの必要性や活用方法を知ってもらうための研修会を開催します。
- ・県は、がん医療ネットワークナビゲーターの効果的な周知について検討を進めます。

<県がん診療連携協議会（相談支援部会）として>

- ・県がん診療連携協議会は、県と共に、県が認定したピアサポーターの活躍の場を広げるために、医療機関等に働きかけていきます。
- ・相談支援部会は、がん相談支援センターにおけるピアサポーターの役割や活躍の場の確保について検討します。
- ・相談支援部会は、各病院のピアサポーターによる相談日等を取りまとめ、情報共有し、お互いに紹介しあえる仕組みを作ります。（取りまとめた結果は、県のホームページやがんサポートハンドブック等で公表していきます。）

<がん患者団体等として>

- ・がん患者団体等は、県が実施するピアサポーターの養成研修会等の運営や周知に協力していきます。

(1) 相談・情報提供

初期アウトカム
相談支援
情報提供
がん患者団体・ピア・サポーター等との連携

中間アウトカム	データソース	計画策定時の値（データの年度）	目標値 ※1、2（令和 8～14 年度）
ピア・サポーターについて知っている患者の割合の増加	患者体験調査	—	現状より増加

## 16 富山

富山県, 富山県がん対策推進計画（令和6年度～令和11年度）（案）, p. 51-58

## 第3章 分野別施策と個別目標

## 4 がん患者の支援体制の充実

## 現状と課題

## 《がん患者の活動支援》

- 拠点病院を中心に患者会やがんサロンが設置され、特に、乳がんに関しては、「乳がん患者活動支援事業」を開催するなど、正しい知識の普及啓発や患者会間での交流を図っています。
- がんを体験した人やその家族などがピア（仲間）として体験を共有し、共に考えることにより、がん患者やご家族等を支えるピア・サポーターを養成しています。

## 取組みの基本方針

（3）がん患者等の社会的な問題への対応

- 県がん総合相談支援センターや拠点病院の相談支援センター等を通じて、がん患者会の活動を支援します。
- がん患者の不安や悩みを軽減するためには、がんを経験した者による相談支援が効果的であり、ピア・サポーターの養成や活動促進のためのフォローアップを実施するなど、がん患者・経験者との協働を進めます。
- 患者会と連携したがん検診普及啓発キャンペーンの実施等を通じ、県民の患者会への理解を深めます。

## 個別目標・現状把握指標

## 【がん患者の活動支援】

指標	現状(R4)	目標値	目標期限
①がん患者の不安や悩みを軽減し支援するためのピア・サポーターの養成及びピア・サポート活動等の推進 ※県健康課調べ ・ピア・サポーター数	124名	155名	R11年度
・ピア・サポーターによる患者サロン等の開催回数	64回	増加する	
・ピア・サポーターの各種講演等への派遣回数	16回	増加する	
②ピア・サポーターの認知度の向上・ピア・サポーターについて知っているがん患者の割合（※1）	32.6% (H30)	増加する	

## 17 石川

パブリックコメント開始前

## 18 福井

福井県, 【がん対策推進計画編】第4次福井県がん対策推進計画～がん予防・検診・治療日本一～, p. 55-57

## 第3章 今後のがん対策

（4）がんと共生（がんになっても安心して暮らせる社会づくり）

## ①がんに関する相談支援および情報提供

## ＜現状と課題＞

がん相談支援センターでは上記のような個別の相談に応じるほか、患者サロンの運営、患者とその家族および医療関係者などが自由に交流する場（メディカルカフェ）の開催、患者会活動の支援なども実施しています。また、県では、患者が身近な地域で気軽に相談ができるよう、がんサロンを地域で開催しています。がん患者の不安や悩みを軽減するには、同じような療養体験を持つ患者（ピアサポーター（ピア＝仲間））によ

る相談支援や情報提供など、安心して話すことのできる環境も大切であり、ピアサポート活動の充実が求められています。

<取り組むべき施策>

[相談支援]

- また、患者サロンの運営、患者とその家族および医療関係者などが自由に交流する場（メディカルカフェ）の開催、患者会活動の支援、「就職支援ナビゲーター」（公共職業安定所に設置）、「両立支援促進員」（福井産業保健総合支援センターに配置）による出張就労相談など、各拠点病院や関係団体の特色を活かした活動を継続します。
- 県は、患者が身近な地域で気軽に相談ができる相談窓口を設けるとともに、内容や時間帯などを工夫し、より多くの方が参加しやすいサロンを開催します。
- 県は、知識、技術を修得したピアサポーターが、拠点病院などのがんサロンや患者会において活動できるように、ピアサポーターの養成を行います。

<個別目標>

項目	現状値	目標値	目標年度
がん拠点病院以外でのがん「サロン」の開催数の増加	8 回/年	12 回/年	令和 11 年度 (2029 年度)
ピアサポーターの養成	-	5 人/年	令和 11 年度 (2029 年度)

19 山梨

山梨県, 山梨県がん対策推進計画（第4次）素案, p. 26-27

第4章 分野別施策と個別目標

3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

(1) 相談支援及び情報提供

① 相談支援について

(現状・課題)

がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、県は、ピア・サポーターの養成研修や修了者のフォローアップ研修を開催し、ピア・サポーターの養成と質の確保を図ってきました。令和4（2022）年整備指針改定では、拠点病院等が患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用に努めることとされました。一方で、平成30（2018）年に実施された患者体験調査では、山梨県において、ピア・サポーターについて知っていると回答したがん患者の割合は、29.0%に留まりました。

(取り組むべき施策)

県は、がん患者がピア・サポーター等からの支援を受けやすくなるよう、相談支援等に携わる者からピア・サポーター等につなげるため、関係機関との連携を図ります。

20 長野

長野県, 第3期信州保健医療総合計画（素案）第9編 疾病対策等, p. 433-435

Ⅳ 全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上ができています

1 がんに対する理解が深まり、社会全体で支援を行う環境づくり

(1) がんに関する情報提供やがん相談支援センター等の相談支援体制の充実

【現状と課題】

エ 患者会等との連携（ピア・サポートの推進等）

○がん患者やその家族にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び体験共有ができる場の存在が重要です。

○また、がん患者やその家族の支援策について、患者等からの意見を踏まえ、患者会等と連携しながら検討・実施することも重要です。

○県は患者等からの意見を把握するため、がん関係会議におけるがん患者からの意見聴取や、長野県がん診療連携協議会と連携した患者会との意見交換等を実施しています。

○患者会との連携した取組の一つにピア・サポートの推進があります。

○ピア・サポートとは、同じような悩みや経験をもつ者同士（ピア）が支え合い、サポートし合うことです。仲間から支えられていると感じることによって、不安の解消や悩みの解決につながることを期待されています。

○がん診療連携拠点病院等は、患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用にも努めることとされており、ピア・サポートの取組の推進が必要です。

#### 【施策の展開】

- 県は、がん診療連携拠点病院等や患者会がある医療機関と連携し、患者会等の取組の把握、必要に応じた情報提供に努めるとともに、ピア・サポートの推進に向けた取組を検討・実施します。

## 21 岐阜

岐阜県健康福祉部保健医療課, 第4次岐阜県がん対策推進計画（素案）令和6年度～令和11年度, p. 39-40,

### 第6 分野別施策及び個別目標

#### 3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

##### （1）相談支援及び情報提供

がんに関する相談については、拠点病院のがん相談支援センターが中心となって、患者や家族等のがんに対する不安や疑問に対応してきました。また、拠点病院や地域の中核医療機関は、がん患者サロンを設置し、同じような経験を持つがん患者・経験者、家族等による支援（ピアサポート）を実施しています。

がん患者サロンについては、同じような経験を持つ人による相談支援や情報提供、患者同士の体験共有ができる場が全圏域に設置されました。令和4（2022）年整備指針改定では、拠点病院が患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用にも努めることとされ、今後は、更なるピア・サポーター等による支援の周知を進めるとともに、相談体制の充実を図ります。

##### 1) 個別目標

がん相談支援センターの相談件数の増加

##### 2) 政策目標

- 多様化・複雑化する相談支援のニーズに対応できる質の高い相談支援体制を強化する。
- 必要な時に、自分に合った正しい情報にたどりつくことができる情報提供体制を推進する。
- がん情報センターを維持し機能を強化する

##### 3) 具体的施策

相談支援体制の充実

- ⑥がん患者サロンの周知や活動の啓発〔保健医療課・拠点病院・患者団体〕
- ⑦ピアサポーターの養成と継続した活用の推進〔保健医療課・拠点病院〕

## 22 静岡

パブリックコメント終了

## 23 愛知

愛知県, 第4期愛知県がん対策推進計画（案）, p. 47-48,

## 第4章 分野別施策と個別目標

### 3 がん患者や家族が安心して暮らせるための環境整備

#### (1) 相談支援及び情報提供

##### ア 相談支援について

###### (現状・課題)

また、がん患者にとって、家族や親族、友人、医療従事者などには話しづらいことも、同じ立場の人だからこそ言えることがあり、がん体験者など同じ悩みを体験した仲間（＝ピア）による相談支援や情報提供、体験共有は支えとなります。ピア・サポートでは、がんの体験者が自らの経験やその経験から得た学びをもとに、同じ立場の人の悩みや不安な気持ちを理解し、共感しながら話を傾聴したり、ともに考えたりします。がん診療連携拠点病院等では、患者団体と連携して心の悩みや体験等を語り合うための患者サロン等の場を設けています。また、県では、県内どこに住んでいてもピア・サポートを受けられるよう電話相談を実施しています。こうしたピア・サポート活動を推進していくため、県ではピア・サポート活動の周知とピア・サポーターの養成をしてきました。引き続き、ピア・サポーターによる支援を身近なところで受けられるよう取組を進めていく必要があります。

##### 【取組の方向性】

- ③がん診療連携拠点病院等は、ピア・サポートを活用し、がん患者や家族の多様なニーズに対応できるよう相談支援の充実に努めます。
- ④多くのがん患者や家族が利用できるようピア・サポート活動の周知に努めるとともに、ピア・サポーターの質の向上を図り、相談支援の充実に推進します。

## 24 三重

三重県，第5期三重県がん対策推進計画中間案，p. 47-48

## 第5章 分野別施策の取組

### 3 がんとの共生

#### (2) 相談支援および情報提供の充実

##### (現状と課題)

- 拠点病院等のがん相談支援センターや三重県がん相談支援センターでは、ボランティアや医療機関、行政等との連携により、病院内外において患者とその家族が集い、情報交換や交流を行う場としてのがんサロンの運営を行っています。
- 現在治療を受けているがん患者やその家族だけでなく、がんで大切な人を亡くした遺族への支援も求められています。これに対して、県内でも一部の地域では、遺族を対象としたグリーフ（悲嘆）ケアサロンを開催していますが、さらに充実させていくことが必要です。

##### (取組内容)

###### (ピア・サポート)

○がん患者にとって、同じような経験を持つ方による相談支援や情報提供および患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、がん経験者との連携を進め、ピア・サポートの取組を進めます。（拠点病院等、関係機関、県）

###### (がん患者の遺族向けのグリーフケア)

○三重県がん相談支援センターにおいて、がん患者の遺族が大切な人を喪失した体験を自分の人生として受け入れ、新たな希望をもって人生を歩んでいけるよう、悲しみを分かち合うグリーフケアサロンを定期的に開催します。（拠点病院等、関係機関、県）

## 25 滋賀

滋賀県，滋賀県がん対策推進計画（第4期）〔原案〕，p. 77-80

## 第4章 分野別施策および目標

3 がんとの共生

(1) 相談支援、情報提供

現状と課題

- 滋賀県がん患者団体連絡協議会が主催するがん患者サロンは、10 か所で行っており、また、病院主催のがん患者サロンは2か所で行っております。  
(略)【表 17】がん患者サロン一覧
- オストメイト\*、乳がん、女性がん、声を失った方を対象とした対象のサロンも開催されています。
- 小児がん、AYA 世代、肺がん、男のみ対象のサロンや遺族サロンなどが、NPO 法人淡海かいつぶりセンターを利用して行われています。
- セルフケアグループきらら会が、遺族サロン・グリーフケア講座を中心に、セルフヘルプで、遺族悲嘆の回復をめざし、生きる気力をつけることを目的としたサロンを行っています。
- ピアサポーターとして活動できる相談員は、1 圏域あたり 7.4 人です。(令和 4 年度 (2022 年度) 末)
- 令和 4 年度 (2022 年度) のがん患者サロンは、12 か所で開催しており、ピアサポーターを含めて 727 人が参加していますが、サロンのがん患者の参加者は減少しています。
- 滋賀県内のがん患者サロンは、滋賀の療養情報(冊子)や滋賀のがんポータルサイト「がん情報しが」等で広く情報提供をしています。
- がん告知された時から、患者および家族の相談場所や活用できる支援について、パンフレットやポータルサイトの活用により、効果的に情報提供できるようにする必要があります。
- 相談支援従事者の質の確保と向上を図る必要があります。
- 患者会など民間団体の支援を継続して行う必要があります。

分野目標

◆ (1) 相談支援・情報提供

分野目標			
○ がん相談支援センター・がん相談窓口の周知が広がり利用が増える			
○ がん相談支援者が適切な研修を受けて質が担保されている			
○ がん患者サロンが開催されてピアサポーターの支援が得られる			
○ 正しいがん情報を入手する環境の整備			
評価指標	現状値目標値 (R5)	目標値 (R11)	出典
がん患者サロンの開催状況			
県がん患者団体連絡協議会主催 サロン	10 か所 (R4)	継続	がん診療連携協議会 相談支援部会

具体的施策

- ◇ 県、がんの指定病院、関係機関、患者団体等は、がん患者サロンの周知を図ります。
- ◇ がん医療従事者、相談支援者、県民は、がん患者サロンの参加を促します。
- ◇ 滋賀県がん患者団体連絡協議会を中心に、がんの指定病院の協力のもと、ピアサポーター養成講座を開催します。
- ◇ 県、医療機関および関係団体は、各がん患者団体が行う相談会や講演会、交流会をがん患者・家族に対して情報提供を行います。

26 京都

第 3 期京都府がん対策推進計画中間案, p. 80

4 分野別施策と個別目標

(3) がんとの共生社会の実現

①相談支援体制、情報提供体制の充実

Ⅶ. 資料集

ア 個別目標

がん及びがん治療に関連する情報提供体制の強化、患者一人ひとりに寄り添った相談

イ 現状・課題と施策の方向

a 現状

- がん診療連携拠点病院等や患者団体が開設するがん患者サロンでは、がん患者や家族等が同じ立場で心の悩みや体験などを語り合うことができる場を提供しており、定期的に勉強会や交流会を開催しています。
- 京都府がん患者団体連絡協議会では、がん患者支援活動に携わるピア・サポーター養成講座を開催しています。

b 課題

- 患者団体や患者サロンにおける活動を引き続き支援し、養成したピア・サポーターの活動の場を提供することで、がん患者が良質なピア・サポートを受けることができる環境を整備する必要があります。
- 遺族に対するグリーフケアについても取り組んでいく必要があります。

c 施策の方向

(g) 患者団体や患者サロンの活動を支援するために、がん診療連携拠点病院等と連携し、ピア・サポーター養成講座修了者の活用及び地域と連携したグリーフケアを推進します。

6 ロジックモデル及び評価指標一覧

(1) ロジックモデル

(3) がんとの共生社会の実現

C:分野別施策	番号	再掲	アウトプット指標(施策目標)
①相談支援体制、情報提供体制の充実	14		がん診療連携拠点病院等での患者サロン・ピアサポーター養成講座修了者の活用の推進

B:中間アウトカム(個別目標)	番号	再掲	アウトプット指標(施策目標)
がん及びがん治療に関連する情報提供体制の強化、患者一人ひとりに寄り添った相談支援の実施	14		ピアサポートの認知度
			がん相談支援センターの認知度

	番号	再掲	指標	現状値	目標値(令和11(2029)年度)	データソース
①相談支援体制、情報提供体制の充実						
中間アウトカム指標	B14		ピアサポートの認知度	平成30(2018)年度	27.3%	増加 患者体験調査
アウトプット指標	C14		がん診療連携拠点病院等での患者サロン・ピアサポーター養成講座修了者の活用の推進	—	—	25人 健康対策課調べ

27 大阪

大阪府, 第4期大阪府がん対策推進計画 (案), p. 80

## 第4章 大阪府のがん対策の現状と課題

## 5 がん対策を社会全体で進める環境づくり

## (3) がん患者会等との連携

○がん対策基本法には、「国及び地方公共団体は、民間の団体が行うがん患者の支援に関する活動、がん患者の団体が行う情報交換等の活動等を支援するため、情報提供その他の必要な施策を講ずるものとする。」と定められており、がん患者のニーズに合致した施策となるよう、患者会などとの継続的な情報交換、意見交換が必要です。

## 第6章 個別の取組みと目標

## 5 がん対策を社会全体で進める環境づくり

## (3) がん患者会等との連携推進

- 大阪がん患者団体協議会を中心に、がん患者をはじめとする関係者と大阪府におけるがん対策の現状や方向性について、継続的に意見交換に努めます。
- がん患者会や患者サロンなどに関する情報について、療養情報冊子「おおさかがんサポートブック」やホームページ、がん診療拠点病院の相談支援センター等で情報提供を行います。
- がん診療拠点病院における、患者同士の交流・支え合いの場であるがん患者サロンなどの整備について、ピア・サポーター（注36）とともに取り組みます。

## 《第4期大阪府がん対策推進計画におけるモニタリング指標》

	モニタリング指標	現在の状況
3	患者会、患者支援団体及び患者サロンの数 【大阪府調べ】	患者会及び患者支援団体：36 団体 患者サロン：55 病院 【R4（2022）年7月】

## 28 兵庫

パブリックコメント終了

## 29 奈良

パブリックコメント終了

## 30 和歌山

和歌山県，第4次 和歌山県がん対策推進計画（案），p.54-56

## 第3章 分野別施策と個別目標

## 第3節 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

## (1) 相談支援及び情報提供

## ① 相談支援について

（現状・課題）

- がん体験者等が中心となって、民間団体等でもがん患者の支援を行っており、それぞれの地域において患者サロン（がん患者やその家族等、同じ立場の人が、がんのことを含めて気軽に語り合う交流の場）等を開設し、正しい知識を身につけたがん体験者であるピア・サポーター等が、がん患者の精神的なサポート等を行っています。患者サロンは、拠点病院や県推進病院内に設置されるとともに、県立図書館や民間病院にも開設されています。

（取り組むべき施策）

- 県は、がん患者がピア・サポーター等からの支援を受けやすくなるように、情報提供などの取組を行います。



**【個別目標】**

がん相談支援センターの認知度及び質を向上させ、精神心理的・社会的な悩みを持つ患者やその家族等が適切な相談支援を受けることができ、また、患者やその家族等、医療従事者等を含む全ての県民が、必要な時に、自分に合った正しい情報にたどりつくことができることを目指します。

**31 鳥取**

パブリックコメント開始前

**32 島根**

パブリックコメント終了

**33 岡山**

パブリックコメント終了

**34 広島**

パブリックコメント開始前

**35 山口**

パブリックコメント開始前

**36 徳島**

パブリックコメント終了

**37 香川**

パブリックコメント終了

**38 愛媛**

愛媛県，愛媛県がん対策推進計画，p. 68-72

Ⅲ がんになってもお互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会の実現

1 相談支援及び情報提供

**【目標】**

○ピアサポート活動の更なる充実

**【現状・課題】**

- 患者やその家族からは、専門家による相談支援に加え、患者の視点や経験を活かした情報提供や、心の悩みや体験を語り合う交流の場が必要との要望があり、県では、これまで、患者や家族同士で支え合うピアサポート体制の整備に取り組んできました。
- 県は、おれんじの会と連携して、ピアサポートの人材育成のため、自らのがん体験を生かして、がん患者、家族の力になりたいと考えている患者とその家族等を対象に、相談ノウハウを修得するためのピアサポーター養成研修を開催し、拠点病院等で定期的な院内ピアサポート活動に取り組んでいます。
- がん患者や家族が、がんの療養生活等で生じる不安を身近な場所で気軽に相談し、様々な分野の情報

をワンストップで入手できる場として、おれんじの会が運営する「がんと向き合う人のための町なかサロン（松山市末広町）」において、ピアサポーターによる相談支援が実施されている他、拠点病院の相談支援センターと連携し、医療や介護、心理面の悩みなど、様々な分野の相談に対応できる多様な専門職の協力が得られる体制を整備しています。

- 拠点病院等では、院内ボランティア等の協力の下、患者と医療従事者が交流する患者サロン、がんカフェ等が開催されています。また、県は、おれんじの会と連携し、拠点病院の患者サロン等に対し、ピアサポーターを派遣しています。

**【取り組むべき対策】**

（関係機関の連携による相談支援体制の充実）

（略）

- 拠点病院等においては、患者と医療従事者が交流する患者サロンが、患者団体及び院内ボランティア等の協力により実施されています。行政及び拠点病院は、患者や家族の気持ちに寄り添うこうした取り組みが継続できるよう支援に努めます。
- 愛媛県がん相談支援推進協議会が中心となって、総合的な相談支援体制のあり方等について検討を進め、愛媛県議会がん対策推進議員連盟が提案する、全市町へのがんサロン設置との関係にも十分留意しながら、県民本位の相談支援体制の更なる充実に努めます。

（ピアサポート活動の更なる充実）

- がん患者やその家族が、がんの療養生活等で生じる不安を身近な場所で気軽に相談し、様々な分野の情報をワンストップで入手できる場として、おれんじの会が運営する「がんと向き合う人のための町なかサロン」が交通の便のよい中心市街地に開設されています。引き続き、ピアサポートに主体的に取り組んできたノウハウの活用に加え、拠点病院の相談支援センターと連携して、医療や介護、心理面の悩みなど様々な分野の相談に対応できる体制を整備し、患者とその家族に対する一層の相談支援の充実に努めます。
- がん患者やその家族の保有する不安や悩みを軽減するためには、がんを経験した者が当事者としての経験を踏まえ相談支援を行うことが求められることから、県では、引き続き、ピアサポートを推進するための研修を実施するなど、がん患者・経験者との協働により、ピアサポートの更なる充実に努めます。

[愛媛県がん対策推進計画ロジックモデル]：相談支援及び情報提供  
関係機関の連携による相談支援体制の充実・質の向上

分野の個別対策	アウトプット指標	データソース
拠点病院等においては、患者と医療従事者が交流する患者サロンが、患者団体及び院内ボランティア等の協力により実施されている。行政及び拠点病院は、患者や家族の気持ちに寄り添うこうした取り組みが継続できるよう支援に努める。	患者サロンを設置する拠点病院・推進病院の割合	連-01
	がんサロンの広報活動を行った拠点病院・推進病院の割合	連-01
	がんサロン・患者会の運営支援を行った拠点病院・推進病院の割合	連-01
愛媛県がん相談支援推進協議会が中心となって、総合的な相談支援体制のあり方等について検討を進め、愛媛県議会がん対策推進議員連盟が提案する、全市町へのがんサロン設置との関係にも十分留意しながら、県民本位の相談支援体制の更なる充実に努める。	県がん相談支援推進協議会の開催数	相-01
行政、拠点病院等、患者団体等の各レベルでどのような情報提供と相談支援が適切か明確にし、医療機関、患者団体、企業等の協力の下、より効果的な体制構築を進める。	協議会や部会に参加し、課題を共有、検討した拠点病院・連携病院の割合	連-01
拠点病院は、相談支援センターにがん対策情報センター等による研修を修了した専任者を複数人配置するとともに、院内及び地域の医療従事者の協力を得て、	拠点病院のがん相談支援センターに配置されている相談員の研修修了者数	現-01

院内外のがん患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの様々な相談に対応する体制を整備するため、相談支援に関し十分な経験を有するがん患者団体との連携体制の構築に積極的に取り組む。	ピアサポート活動の場を作った拠点病院・推進病院の割合	連-01
	拠点病院1施設あたりの連携している患者団体の数	現-01

## 39 高知

高知県，第4期高知県がん対策推進計画（案），p. 29-32. 40-42

### 第4章分野別施策

#### 3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

##### (1) 相談支援及び情報提供

##### ア 相談支援について

##### (ア) 現状と課題

また、県でも、がん相談センターこうちを設置し、相談支援センター相談員基礎研修等の研修を修了したがん患者家族等が、患者及びその家族のみならず、一般県民からのがんに関わる相談に対応しています。（図表4-3-1）

##### (イ) 取り組む施策

b（中略）県はがん相談支援センターと連携し、がん患者・経験者及び家族との協働を進め、ピアサポートを充実するよう努めます。

##### イ 情報提供について

##### (ア) 現状と課題

（中略）各拠点病院やがん相談センターこうち等にごん患者やその家族同士の交流や話し合いが行えるがんサロンが開設され、がんに関する情報交換の場が広がりつつあります。

指標(中間アウトカム指標)一覧、ロジックモデル

<個別施策>

分野の個別対策	アウトプット指標
がん相談支援を受けることができ、自分に合った正しい情報が得られる	1. 拠点病院等の相談窓口における相談件数 2. がんサロンの開催回数

## 40 福岡

福岡県保健医療介護部がん感染症疾病対策課，第4期福岡県がん対策推進計画案，p. 33

### 第3章 分野別施策と個別目標

#### 3. がんと共に尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

##### (1) 相談支援及び情報提供

##### ①相談支援について

<現状と課題>

- がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、県は、令和4（2022）年度より、がんの基本的な知識及びコミュニケーションスキルに関する研修の実施等を通じて、ピア・サポーターの養成を行っています。
- 患者体験調査によると、「ピアサポートを知っている人」の割合は、福岡県26.5%、全体27.3%となっており、ピアサポーターの養成と共に認知度向上に向けた取り組みが必要です。

<今後の取り組み>

- ピアサポーターの養成に引き続き取り組むとともに、拠点病院等と連携し、患者サロン等の場におけるピアサポーターの活用促進や、相談のアクセシビリティ向上に向けたオンライン開催可能な環境の

整備等、がん患者やその家族等が相談しやすい環境づくりに努めます。

## 41 佐賀

佐賀県，第4次佐賀県がん対策推進計画(案)，p. 23-24

### 第3 分野別施策と個別目標

#### 3. がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

～がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す～

##### (1) 相談支援及び情報提供

(現状・課題)

- がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、ピア・サポーターの養成を推進してきました。
- 2022(令和4)年整備指針改定では、拠点病院等が患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用に努めることとされ、ピア・サポート活動の質の担保も重要となっています。一方で、ピア・サポートを知っている患者の割合は低く、2018(平成30)年に国立がん研究センターが実施した患者体験調査(以下「患者体験調査」という。)によると、佐賀県33.5%、全体27.5%となっています。

(取り組む施策)

- ・ 出張型がん患者サロン等の実施
- ・ 患者サロン、ピア・サポートに関する情報発信

(個別目標)

- ピア・サポーター養成研修の受講者数を、本計画期間中で延べ60人以上とします

## 42 長崎

パブリックコメント終了

## 43 熊本

熊本県健康福祉部健康局健康づくり推進課，第4次熊本県がん対策推進計画(素案)，p46-47

### 第3章分野別施策と個別目標

#### 3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

##### (1) 相談支援

##### ②がんサロンの普及・定着とピアサポートの充実

【現状と課題】

##### ○がんサロンの活動状況

- ・ 病気に対する不安や悩みを家族や友人などに打ち明けられず、孤立感を抱きながら療養生活を過ごすことは、患者にとって非常に負担があります。同じ経験、想いを共有できるがん患者同士が遠慮なく互いに語り合える場である「がんサロン」は、患者のQOLの向上に有益です。
- ・ 本県では、がんサロンが30か所(令和5年3月末時点)で開催されていますが、多くが熊本市とその近隣地域で開催されています。また参加者の高齢化・固定化によるがんサロン開催の維持継続が難しい、AYA

## Ⅶ. 資料集

世代等若い世代の参加が少ない、オンラインでの開催が難しいがんサロンがある等の課題があります。

- 県内のがんサロン及びがんサロン参加者、医療関係者、行政等で構成される「がんサロンネットワーク熊本」は、がん患者及びその家族、その他支援者を対象に、がんサロン及びピアサポートの理解を深めるための交流会や研修会等を開催しています。

### ○ピアサポートの状況

- 県は、ピアサポーターの増員及びカウンセリングの質の向上のため、ピアサポーター養成研修及びフォローアップ研修を実施しています。
- 県は、がん経験者による傾聴を主体としたピアカウンセリングとして、「おしゃべり相談室」を熊本大学病院、国立病院機構熊本医療センターの2か所で実施しています21。患者のQOLの向上のためにも拡充を図っていく必要があり、そのためにもピアサポーターの増員は必要不可欠です。

### 【取り組むべき施策】

#### ○がんサロン活動への支援

- 県、市町村、拠点病院並びにその他医療機関は、「熊本県がん連携サポートセンター」と連携してがんサロンの活動場所の提供、活動の周知、医療情報の提供等、「がんサロンネットワーク熊本」の活動の支援を行います。
- 「がんサロンネットワーク熊本」は、研修会やがん患者の交流会を開催し、がんサロン間の連携の強化を行います。また、県はその取組を支援します。

#### ○ピアサポートの充実・質の向上

- 県は、国の研修内容の見直しを踏まえたピアサポーター養成研修及びフォローアップ研修を引き続き実施します。
- 県は、ピアサポーターの育成や、おしゃべり相談室を開設する病院への支援等を推進します。

### 【個別目標】

指標名	現状値（時点）	目標（時点）
おしゃべり相談室実施施設数	2 施設 (R4 年度)	3 施設 (R11 年度)

## 44 大分

大分県, 大分県がん対策推進計画（第4期）（素案）, p. 42-45

### 第4章 分野別施策と個別目標

#### 3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

### 【分野別アウトカム】

No.	評価指標	現状	目標値 令和11(2029)年度
32	ピアサポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	-	全国平均以上

#### (1) 情報提供・相談支援

##### 【現状と課題】

- また、患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、ピア・サポーターの養成を推進する必要があります。令和4年に改正されたがん診療連携拠点病院等の整備に関する指針では、拠点病院等が患者サロン等の場を設ける際に、一定の研修を受けたピア・サポーターの活用に努めることとされています。

##### 【施策の方向】

- がん患者やその家族等が集い、心の悩みや体験等を率直に語り合うことで、不安や孤立感の解消につながることから、拠点病院等によるがん患者サロンの開設を支援し、がん患者等によるピアサポート

を充実します。

- また、ピア・サポーターの情報を管理し定期的なフォローアップ等を実施することで、ピア・サポーターの質の向上、活用の促進を目指します。

【各実施主体の取組内容】(略)

【個別施策(アウトプット指標)】(略)

【中間アウトカム】

No.	指標名	現状	目標値 令和11(2029)年度
31202	ピア・サポーターについて知っているがん患者の割合	32.8%(27.5%) (出典:H30 患者体験調査)	増加かつ全国平均以上

※( )内は全国値

## 45 宮崎

宮崎県, 第4期宮崎県がん対策推進計画(素案), p. 25

### 第4章 分野別施策

#### 3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

##### (1) 相談支援、情報提供

##### ① 相談支援について

###### 【現状と課題】

- 本県では、各拠点病院等において、定期的に「がんサロン」を開催しており、がん患者やその家族の方々などが、悩みや不安を語り合うことができる場を設けています。

#### 7 第4期宮崎県がん対策推進計画 ロジックモデル・評価指標

個別施策
相談支援、情報提供の推進

中間アウトカム	指標	現状	目標値	データソース
相談支援及び情報提供の充実	ピアサポーターについて知っているがん患者の割合	28.7%(2018年度)	全国平均以上	患者体験調査

## 46 鹿児島

鹿児島県, 鹿児島県がん対策推進計画(案), p. 70-72

### 3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

～がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現することで、全てのがん患者及びその家族等の療養生活の質の向上を目指す～

#### (1) 相談支援及び情報提供

##### 【現状と課題】

- がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有ができる場の存在は重要であることから、県では、ピア・サポーターの養成を行っており、患者サロンや

がん患者等の交流会等を通じたピア・サポートの取組も行われていますが、コロナ禍においては、患者サロンの休止を余儀なくされました。

- がん患者状況等調査によると、ピア・サポートについて知っている患者等の割合は、27.7%と低く、また、患者会やピア・サポートについて、患者等へ情報提供を行っている医療従事者の割合も32.3%と低い状況となっています。また、患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分であると感じている患者等の割合は27.4%にとどまっています。

**【施策】**

- 引き続き、ピア・サポーターの養成を行い、「がん患者サロン」等のピア・サポーターによる相談体制を整備し、がん患者やがん体験者との協働により相談支援の充実を図ります。

**【個別目標】**

目標項目	現状値	目標値(達成時期)
患者サロンにおいてピア・サポーターを活用している拠点病院の数	4 医療機関 (令 5)	8 医療機関 (令 11)

**47 沖縄**

沖縄県, 第4次沖縄県がん対策推進計画(2024-2029)(案), p. 55-62, p. 72-85

第3章 分野別施策と個別目標

3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

ア 現状と課題

①相談支援と情報提供

- がん患者や家族にとって、同じような経験を持つ人と心の悩みや体験等を語り合える場の存在は重要です。県は、琉球大学病院内に「沖縄県地域統括相談支援センター」を設置し、がん体験者の立場からがん患者やその家族を支援できる人材(がんピア・サポーター)を養成し、がん診療を行う医療機関のがん患者サロン等へ派遣し、相談支援や情報提供等を行っています。また、がんピア・サポート相談室を開設し、相談支援経験豊富ながんピア・サポート相談員が対応しています。
- さらに、各拠点病院のがん相談支援センターやがん患者団体等では、がん患者サロンが定期的で開催されており、がん患者やその家族、医療者等が気軽に語り合える場を提供しています。
- しかし、がんピア・サポートやがん診療を行う医療機関におけるがん患者サロンについて知らないという県民も多く、認知度はまだ十分とは言えないことから、引き続き周知に努めるとともに、がんピア・サポーターやがん患者会活動の拡大に取り組む必要があります。

イ 分野目標と施策

- 施策目標3 がん患者やその家族等が、不安や悩みを共有できる場があると感じている

<b>施策1. がんピア・サポートの充実を図る</b>
○県及び沖縄県地域統括相談支援センターは、引き続きがんピア・サポーターを養成し、フォローアップ研修等を通じて、がんピア・サポーターの資質向上に努める。また、がん診療を行う医療機関等と連携し、患者サロン等でのがんピア・サポーターの活動の場拡大を図る。
<b>施策2. がん診療を行う医療機関及びがん患者団体のがん患者サロン等におけるがんピア・サポート活動を推進する</b>
○がん診療を行う医療機関及びがん患者団体は、がん患者サロン等において、沖縄県地域統括相談支援センターに登録するがんピア・サポーターを活用したがん相談を実施するなど、がんピア・サポートを推進する。 ○沖縄県地域統括相談支援センターは、がん診療を行う医療機関及びがん患者団体のがん患者サロン等に、がんピア・サポート経験豊富な相談員をアドバイザーとして派遣し、がんピア・サポート活動を支援する。 ○県及び沖縄県地域統括相談支援センターは、がんピア・サポートを推進するため、がん診療を行う医療機関及びがん患者団体の連携協力体制促進のための意見交換会等を実施する。

## ウ指標

目標	指標	現状値(県)	目標値	出典
がんピア・サポートの充実を図る	がんピア・サポーター研修会及びフォローアップ研修会修了者数	19人(養成講座5人+フォローアップ14人)	増加	沖縄県地域統括相談支援センター事業実績報告(R4年度実績)
がん診療を行う医療機関及びがん患者団体のがん患者サロン等におけるがんピア・サポート活動を推進する	がん診療を行う医療機関及びがん患者団体主催がんサロンへの出張がんピア・サポート実施回数	33回(対面22+オンライン11)	増加	沖縄県地域統括相談支援センター事業実績報告(R4年度実績)

ロジックモデル (3 がんとともに尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築)

## ①相談支援と情報提供

施策 (C 個別施策)	指標
がん診療を行う医療機関及びがん患者団体のがん患者サロン等におけるがんピア・サポート活動を推進する	がん診療を行う医療機関及びがん患者団体主催がんサロンへの出張がんピア・サポート実施回数



4. がんサポートグループ企画運営者のための研修会(2023年11月3日) フライヤー

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がん相談支援に携わる医療者必見

参加費  
無料

# がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会

現在、がん診療連携拠点病院では、医療者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援が求められ、すでにさまざまな取り組みがされています。それらが施設のがん患者とその家族のニーズに適した支援となっているよう、質の向上を図ることが重要です。

本研修は、がんサポートグループの基本的な知識や技術を講義や動画、ロールプレイを通して実践的に学習できます。またグループワークでは、各施設のサポートグループの課題を共有し、解決策を検討します。がん患者と家族が自分らしく暮らせるためのより最適で効果的なサポートグループの企画・運営をめざしましょう。

日時

2023年11月3日 金・祝 10:00~17:00

定員

90名  
応募者多数の場合  
は選考

開催  
方法

ハイブリッド開催

会場 ハーネル仙台 (宮城県仙台市 市営地下鉄広瀬通駅または勾当台公園駅から徒歩)  
WEB Zoomミーティングを使用

対象

がん診療連携拠点病院等で  
がん相談支援に携わる医療者

講義・実践編の両方参加できる方および事前評価アンケートを提出できる方

看護師、MSW、心理職、  
医師、薬剤師等

申込  
方法

WEB上でお申込ください。

URL <https://ws.formzu.net/dist/S65821658/>  
申込期間 2023年8月10日(木)~9月20日(水) 17:00



お申込・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業  
がん総合相談に携わる者に対する研修事業  
日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

Tel 04 - 7134 - 6986  
URL <https://www.peer-spt.org/>  
Mail [info@peer-spt.org](mailto:info@peer-spt.org)

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会

## 申込期間

2023年 8月10日(木)～  
9月20日(水) 17:00

## 申込方法

- インターネットでの申込をお願いいたします。以下URLまたはQRコードからお申込ください。  
<https://ws.formzu.net/dist/S65821658/>
- 受付完了メールが届かない場合は、お手数ですが info@peer-spt.org にご連絡ください。

申込は  
こちらから ▶



## 研修前～当日のプログラム

01

### 評価編

研修前  
9/27-10/20

- 自施設の取り組み  
振り返りのアンケート

02

### 講義編

11/3(金・祝)  
10:00～12:00

- がん患者の心理社会的支援
- がんサポートグループとは
- がんサポートグループの方法：  
形態や目的
- ファシリテーションの基本スキル
- 多様なニーズへの対応  
(起こり得る事例)
- ピアサポーターとの協働 等

03

### 実践編

11/3(金・祝)  
13:00～17:00

- 基本的なコミュニケーションスキル
- 動画で学ぶ  
ファシリテーションの実際
- ロールプレイ  
(ファシリテーター体験)
- 企画・運営に関するグループワーク

## 留意事項

- 応募者多数の場合は選考を行います。結果を申込時のメールアドレス宛に選考結果を連絡しますので @east.ncc.go.jp からのメールが受け取れるように設定をお願いします。
- 修了証を全員に発行いたします（自施設の取り組み振り返りのアンケートの提出、会場/Zoomの出席・視聴記録で当日の出席が確認できた方に限ります）。

## WEB参加希望の方へ

- 研修会当日、ご自身でインターネット・Zoomにお繋ぎください。接続に関するサポートは行いませんので予めご了承ください。
- インターネットの接続環境が安定した状態でご参加ください。
- 同一施設から複数人で申し込まれた場合、1人ずつの申込、当日は1人1端末での参加をお願いいたします。
- 機器の貸出等は行っておりません。ご自身でのご準備をお願いいたします。

## 現地参加希望の方へ

- 会場では、マスク着用・手指消毒の上、他の参加者との会話は控えめにお願いいたします。  
風邪等の症状がある方は参加をお控えください。

## 会場「ハーネル仙台」へのアクセス

- 市営地下鉄 広瀬通駅 徒歩3分（出口 西1番）
- JR仙台駅 徒歩12分
- 市営地下鉄 勾当台公園駅 徒歩5分（出口 南4番）

詳しいアクセス  
方法 ▶



## お申込・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業  
がん総合相談に携わる者に対する研修事業  
日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

Tel 04 - 7134 - 6986  
URL <https://www.peer-spt.org/>  
Mail info@peer-spt.org

5. がんサポートグループ企画運営者のための研修会(2024年2月10日) フライヤー

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がん相談支援に携わる医療者必見

参加費  
無料

# がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会

現在、がん診療連携拠点病院では、医療者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援が求められ、すでにさまざまな取り組みがされています。それらが施設のがん患者とその家族のニーズに適した支援となっているよう、質の向上を図ることが重要です。

本研修は、がんサポートグループの基本的な知識や技術を講義や動画、ロールプレイを通して実践的に学習できます。またグループワークでは、各施設のサポートグループの課題を共有し、解決策を検討します。がん患者と家族が自分らしく暮らせるためのより最適で効果的なサポートグループの企画・運営をめざしましょう。

日時

2024年2月10日(土) 10:00~17:00

定員

90名  
応募者多数の  
場合は選考

開催  
方法

ハイブリッド開催

会場 福岡県中小企業振興センター(福岡県博多区 JR吉塚駅または馬出九大病院前駅から徒歩)  
WEB Zoomミーティングを使用

対象

がん診療連携拠点病院等で  
がん相談支援に携わる医療者

講義・実践編の両方参加できる方および事前評価アンケートを提出できる方

看護師、MSW、心理職、  
医師、薬剤師等

申込  
方法

WEB上でお申込ください。

URL <https://ws.formzu.net/dist/S84161999/>

申込期限 2024年1月4日(木) 17:00



お申込・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業  
がん総合相談に携わる者に対する研修事業  
日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

Tel 04-7134-6986  
URL <https://www.peer-spt.org/>  
Mail [info@peer-spt.org](mailto:info@peer-spt.org)

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会

## 申込期間

2024年 1月4日(木) 17:00

まで

## 申込方法

- インターネットでの申込をお願いいたします。以下URLまたはQRコードからお申込ください。  
<https://ws.formzu.net/dist/S65821658/>
- 受付完了メールが届かない場合は、お手数ですが info@peer-spt.org にご連絡ください。

申込は  
こちらから ▶

## 研修前～当日のプログラム

01

評価編 研修前  
1/15-1/28

- 自施設の取り組み  
振り返りのアンケート

02

講義編 2/10(土)  
10:00～12:00

- がん患者の心理社会的支援
- がんサポートグループとは
- がんサポートグループの方法：  
形態や目的
- ファシリテーションの基本スキル
- 多様なニーズへの対応  
(起こり得る事例)
- ピアサポーターとの協働 等

03

実践編 2/10(土)  
13:00～17:00

- 基本的なコミュニケーションスキル
- 動画で学ぶ  
ファシリテーションの実際
- ロールプレイ  
(ファシリテーター体験)
- 企画・運営に関するグループワーク

## 留意事項

- 応募者多数の場合は選考を行います。結果を申込時のメールアドレス宛に選考結果を連絡しますので @east.ncc.go.jp からのメールが受け取れるように設定をお願いします。
- 修了証を全員に発行いたします（自施設の取り組み振り返りのアンケートの提出、会場/Zoomの出席・視聴記録で当日の出席、終了後のアンケートの3点が確認できた方に限ります）。

## WEB参加希望の方へ

- 研修会当日、ご自身でインターネット・Zoomにお繋ぎください。接続に関するサポートは行いませんので予めご了承ください。
- インターネットの接続環境が安定した状態でご参加ください。
- 同一施設から複数人で申し込まれた場合、1人ずつの申込、当日は1人1端末での参加をお願いいたします。

## 現地参加希望の方へ

- 体調のすぐれない方の参加はお控えください。

## 会場「福岡県中小企業振興センター」へのアクセス

- JR吉塚駅（東口）より徒歩約1分
- 福岡市営地下鉄 貝塚線「馬出九大病院前」より徒歩約10分

詳しいアクセス  
方法 ▶

## お申込・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業  
がん総合相談に携わる者に対する研修事業  
日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

Tel 04 - 7134 - 6986

URL <https://www.peer-spt.org/>

Mail info@peer-spt.org

6. がんサポートグループ企画運営者のためのフォローアップ研修会(2023年11月23日) フライヤー

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会 修了者向け

参加費  
無料

がんサポートグループ企画・運営者のための  
フォローアップ  
研修会

日時

2023年11月23日

木・祝

13:00~  
17:00

開催  
方法

ハイブリッド開催

現地参加：AP東京八重洲  
WEB参加：Zoomミーティングを使用

定員

60名(予定)

対象

2020(R2)~2022(R4)年度に5回開催された

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会の修了者

研修  
内容  
(予定)

- ピアサポーターとの協働 好事例の紹介
- 事例検討 (グループワーク)
- 情報交換 (グループワーク)

申込  
方法

WEBからお申込みください。

URL <https://ws.formzu.net/dist/S39213873/>

申込期間 2023年11月12日(日) 17:00まで



お申し込み・お問い合わせ先

厚生労働省委託事業  
がん総合相談に携わる者に対する研修事業  
日本サイコオンコロジー学会 委託事業事務局

TEL 04 - 7134 - 6986  
URL <http://www.peer-spt.org/>  
MAIL [info@peer-spt.org](mailto:info@peer-spt.org)

## VIII. 令和5年度 厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業 委員会名簿

## (1) 改訂委員会

◎は委員長（以下50音順）

氏名	所属・役職
◎小川 朝生	国立がん研究センター 東病院 精神腫瘍科 科長
天野 慎介	一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン 理事長
佐々木 治一郎	北里大学病院 集学的がん診療センター センター長
松本 陽子	NPO 法人 愛媛がんサポートおれんじの会 理事長
若尾 文彦	国立がん研究センター がん対策情報センター本部 副本部長
渡邊 眞理	湘南医療大学 保健医療学部 看護学科 教授

## (2) ピア・サポート養成研修ワーキンググループ

●はWG委員長（以下50音順）、\*は兼任

氏名	所属・役職
●秋月 伸哉	がん・感染症センター 東京都立駒込病院 精神腫瘍科・メンタルクリニック 部長
倉田 明子	広島大学病院 精神科 診療講師
齋藤 円*	市立ひらかた病院 精神科 部長
桜井 なおみ	一般社団法人 CSRプロジェクト 代表理事
野田 真由美	NPO 法人 支えあう会 「a」 副理事長
吉田 稔*	日本赤十字社熊本健康管理センター 所長

## (3) 短期サポートグループワーキンググループ

●はWG委員長（以下50音順）、\*は兼任

氏名	所属・役職
●平井 啓	大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授
市原 香織	淀川キリスト教病院 がん看護専門看護師
齋藤 円*	市立ひらかた病院 精神科 部長
松向寺 真彩子	市立豊中病院 公認心理師、臨床心理士
福井 里美	東京都立大学 人間健康科学研究科 看護科学域 准教授 認定NPO 法人 がんサポートコミュニティ
古谷 浩	精巣腫瘍患者友の会 J-TAG 共同代表
山田 麻記子	東京医科歯科大学医学部附属病院 がん相談支援センター 医療ソーシャルワーカー
吉田 稔*	日本赤十字社熊本健康管理センター 所長

---

令和5年度 厚生労働省委託事業

**がん総合相談に携わる者に対する研修事業 事業報告書**

[発行] 2024年3月25日

[発行元] 一般社団法人日本サイコオンコロジー学会  
がん総合相談に携わる者に対する研修事業 事務局  
〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1

国立研究開発法人 国立がん研究センター 東病院 精神腫瘍科内  
TEL：04-7134-6986 FAX：04-7134-7026

[製作者] 株式会社 青海社

[DTP/印刷] 株式会社 アイワード

---





